

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：吉田 浩幸
授業科目名： 日本国憲法		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
科目に含めることが必要な事項	日本国憲法			
授業の到達目標及びテーマ：				
市民的教養としての憲法にかかる基本的な知識を習得した上で、その知識に基づいて今日の社会で生じているさまざまな問題について憲法の観点から分析し、日本国憲法の規範と解釈を通した課題の設定と解決方法の模索ができるようになる。				
授業の概要：				
日本国憲法が立脚する諸原理と憲法が保障する基本的人権についての基本的な知識の習得のため、日本国憲法の条文や学説・判例を学ぶとともに、具体的な事例について考察する。				
授業計画				
第1回：ガイダンス				
第2回：個人の尊厳と基本的人権のスタイル				
第3回：子どもの権利・教師の権利・私人間効力				
第4回：法の下での平等				
第5回：思想・良心・信教の自由				
第6回：表現の自由				
第7回：学問の自由と教育を受ける権利				
第8回：経済的自由、生存権、労働権、労働基本権				
第9回：刑事事件で保障される権利				
第10回：国民主権と参政権				
第11回：平和主義				
第12回：立法・行政・司法				
第13回：地方自治と財政				
第14回：憲法の思想と歴史				
第15回：日本国憲法の理念と基本的人権についての振り返り（授業のまとめ）				
定期試験				
テキスト：				
西原博史・斎藤一久編著『教職課程のための憲法入門[第3版]』弘文堂（2024年）				
参考書・参考資料等：				
授業中に適宜紹介する。毎朝の新聞購読を推奨する。				
学生に対する評価：				
定期試験(70%)及び授業での課題等(30%)を総合して評価する。				
履修上の注意・メッセージ：日本国憲法が教員免許状取得の必修科目として設定されているのはなぜか、その意味を考えながら学びを進めていきましょう。日常的に、新聞などを通して国内外の動き（政治・経済・社会・文化）を把握しておくことが重要です。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：安富 直樹
授業科目名： 情報機器の操作		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
科目に含めることが必要な事項	数理、データ活用人工知能に関する科目または情報機器の操作			
授業の到達目標及びテーマ： 実際のパソコン操作を通し、コンピュータ全般に対する基礎的な知識を得るとともに、児童・生徒への指導法を身につける。 教育の現場で利活用される情報機器や授業支援ソフト等の操作方法を積極的に身につける。				
授業の概要： 授業支援ソフト（ロイロノート・スクール）を活用し、授業におけるデジタル教材操作等に慣れる。 Windows、Word、Excel、PowerPointを使い、あらゆる場面に適したコンピュータの操作方法を習得する。				
授業計画 第1回：Windowsの基本操作、ファイル操作、ソフトのインストール、プログラム体験（editorとhtml） 第2回：Google Classroom、Google drive、ロイロノート・スクール操作の基本 第3回：Word(1) 基本操作、書式設定 第4回：Word(2) 表の作成 第5回：Word(3) 図の利用 第6回：Wordを使った授業資料づくり 第7回：PowerPoint(1) 基本操作、プレゼンテーションの基本 第8回：PowerPoint(2) 表、図の利用 第9回：PowerPoint(3) アニメーション 第10回：PowerPointを使った授業資料づくり 第11回：Excel(1) 基本操作、様々な関数、教育におけるデータ活用・分析 第12回：Excel(2) 表の書式、便利なExcelをWordのように文書づくりに使う 第13回：Excel(3) グラフの作成 第14回：Excel(4) データベース機能 第15回：Excelを使った授業資料作り、情報機器操作のまとめ 定期試験				
テキスト： 「30時間アカデミック Office2021 Windows 11対応」杉本くみ子・吉田栄子 著（実教出版）				
参考書・参考資料等：教育の情報化に関する手引き 生成AIの利用について （文科省HP資料） https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/056/gijigaiyou/attach/1259389.htm https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_02412.html 必要な資料等は授業内で配付する。				
学生に対する評価： 授業中の課題作成・活動の振り返り(30%)、定期試験(70%)を総合的に評価する。				
履修上の注意・メッセージ： 各自Windows PCを用意し、学校から配付されるOffice365をあらかじめインストールしておくこと。このPCを毎回利用するため、バッテリーを充電した上で、必ず持参すること。（スマートフォンでの作業は原則認めない。）ロイロノートやClassroomを使うため、いつでもログインできるようにしておくこと。 配付物は、ファイリングし、いつでも参照できるようにしておくこと。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：山崎 英二
授業科目名：英語コミュニケーション1		必修選択	2単位(30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
科目に含めることが必要な事項	外国語コミュニケーション			
授業の到達目標及びテーマ：英語を学ぶ意義と楽しさを伝えることができる。小学校の英語教育において必要となるスキルを身につけ、子どもが理解しやすい英語で語りかけることができる。日常生活に即した基本的な英語を、気持ちを込めて使用できる。異文化を理解し文化の多様性を自発的に学ぶ姿勢を身につける				
授業の概要：英語を学ぶ意義をについて考え、英語のしくみと特質を学び、子どもが理解しやすい様々な英語表現を練習し、クラスで共有する。英語圏の文化に関わる初歩的な事象を通して文化的背景に触れ、異文化を理解し自文化との相違と文化の多様性について、自発的に考え学んでいく。				
授業計画				
第1回：Course Schedule / Significance in learning a second language 英語を学ぶ意義				
第2回：English as a global language 国際語としての英語				
第3回：Onset-rime / syllables 英語のしくみ、音素と音節				
第4回：Active listening and strategic competence 英語の授業の進め方				
第5回：Early Production stage：total Physical Response 身体化された学び、全身反応法				
第6回：language as a symbolic power 象徴としての言語の力				
第7回：Adjectives 形容詞のはたらき				
第8回：Verbs 動詞のはたらき				
第9回：Basic knowledge of Prefix and Suffix 接頭辞と接尾辞				
第10回：Discourse approach：Learning English cooperatively with peers グループ・ワーク				
第11回：Communication competence コミュニケーション能力について				
第12回：Cultural Literacy and Intercultural literacy 自文化と異文化を理解する				
第13回：Developing Intercultural competence in practice 異文化に対する理解力を向上する				
第14回：Vocabulary 語彙の増やし方				
第15回：The presentation of self in everyday life 日常生活を英語で表現する				
定期試験				
テキスト：授業で指示する。				
参考書・参考資料等：『新英語学習法』ロジャー・パルバース著 小林綾 訳（集英社） 『小学校の英語教育』樋口忠彦 編著（KTC中央出版）				
学生に対する評価：プレゼンテーション（30％）、チェックテスト（30％）、定期試験（40％）				
履修上の注意・メッセージ：英語を学ぶ意義を理解し、自分の気持ちを表現し伝え合う喜びを感じる機会としてください。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：杉本 真由美
授業科目名： 教育原理		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想			
授業の到達目標及びテーマ： 教育とは何か、学校とは何かについて基礎的な知識を獲得し、自身の個人的な教育体験にとらわれずに教育について考えることができる力を養い、自らの教育観の基礎を確立することをめざす。				
授業の概要： 近代教育思想にふれながら公教育制度の成立過程をたどり、教育と選抜の問題や学力観の問題など、現代の教育をめぐる諸問題を考察する上での基礎を講義する。また適宜ディスカッションやグループワークを行う。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション「教育とは何か」について考える				
第2回：教育とは何か① 「人間とは何か」という問いから考える				
第3回：教育とは何か② 学ぶことと教えること				
第4回：教育とは何か③ 遺伝と環境				
第5回：教育とは何か④ 先人の教育観に学ぶ				
第6回：西洋における学校の成立				
第7回：西洋における近代学校制度の成立				
第8回：日本における近代学校制度の成立				
第9回：学歴社会の形成				
第10回：大正新教育運動の展開				
第11回：戦時大戦下の教育				
第12回：戦後教育改革とその後の展開				
第13回：学力に関する様々な議論				
第14回：現代社会と教育課題				
第15回：学校と教育の成り立ちと諸問題についての振り返り（講義のまとめ）				
定期試験				
テキスト：『やさしい教育原理』 田嶋一・中野新之祐・福田須美子著、有斐閣				
参考書・参考資料等：				
『学校って何だろうー教育社会学入門』 荻谷剛彦著 筑摩書房				
『勉強するのは何のため？僕らの「答え」のつくり方』 苫野一徳著 日本評論社				
『「みんなの学校」が教えてくれたこと』 木村泰子著 小学館				
『教育の力』 苫野一徳著 講談社現代新書				
『教育という病 子どもの先生を苦しめる「教育リスク」』 内田良著 光文社				
『学力幻想』 小玉重夫著 筑摩書房				
学生に対する評価：定期試験（60％）、授業内の発表と提出物、授業参加度（40％）				
履修上の注意・メッセージ： 「教育とは何か」「学校とは何か」についてじっくり考えましょう。参考書にあげた本をぜひ読んでみて下さい。学生のうちにたくさん本を読みましょう。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：今枝 弘三
授業科目名： 教職の役割		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)			
授業の到達目標及びテーマ：				
① 公教育における教職の意義について、多面的に理解している。				
② 教職像の変遷を踏まえ、求められる役割や能力を理解している。				
③ チーム学校運営が求められる現代の学校における職務を理解している。				
授業の概要：				
教職の意義および教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応)の理解をベースに、教育現場において必要となるスキルを身につける。講義形式の中でグループでの演習を実施する。				
授業計画				
第1回：授業内容、形式、課題等について。教育職員免許法施行規則とコアカリキュラムの確認。教育という営みの妥当性・客観性とは何か、M・ウェーバーの価値自由から考える。				
第2回：教職の意義を個人の自己実現と社会進化の観点から考える。				
第3回：日本の教職の歴史				
第4回：教員の職務内容の確認および現代の学校教育を取り巻く諸問題を理解する。				
第5回：質的研究および教育臨床の必要性を理解する。				
第6回：いじめ調査の変遷といじめの根本原因について考える。				
第7回：いじめ防止対策。「子供若者白書」「ユニセフ・レポートカード16」を基に考える。				
第8回：教員の資質能力の理解と自己明確化ワークおよびコラム法の実践。				
第9回：関わり方の心理－交流分析・エゴグラム－				
第10回：グループワークの源流としてのサイコドラマを理解する。 P・サイモンズの親子関係の座標軸を基に不登校問題を考える。				
第11回：学校で利用できるグループワーク。ロール・レタリング(empty chair)を体験する。				
第12回：現代の社会集団としての「チーム学校」の理念と意義。経営管理論の立場から考える。				
第13回：「チーム学校」づくりをA・マズロー「完全なる経営」から考える。				
第14回：教育公務員としての服務上・身分上の義務について理解する。				
第15回：教職の意義、役割、職務内容についての振り返りとまとめ				
定期試験				
テキスト：				
「アクティベート教育学02 現代の教師論」佐久間亜紀・佐伯胖編著 ミネルヴァ書房				
参考書・参考資料等：小学校学習指導要領				
学生に対する評価：				
定期試験 80%、授業時の課題等 20%で評価する。				
履修上の注意・メッセージ：特になし。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：宮城 哲
授業科目名：教育法規		必修	2単位(30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			
授業の到達目標及びテーマ： 教育に関わる法令・通知等について体系的に理解し、教育者としての基礎的知識を身につける。				
授業の概要： 教育法規（教育にまつわるあらゆる人びと・物・構造などを示した約束事の体系）を具体的な法令・通知等にふれながら理解し、また、教育現場の具体的な事例などにも沿って学んでゆく。				
授業計画 第1回：教育法規の体系 第2回：学校教育の原理（教育の機会均等、公共性、中立性、無償性） 第3回：学校の種類と目的（学校とは、種類、目的と目標） 第4回：学校の設置・管理 第5回：学校の組織と運営（組織編成、教育課程、教科書および教材） 第6回：就学をめぐる問題Ⅰ（就学義務とその猶予・免除、就学の援助） 第7回：就学をめぐる問題Ⅱ（入学と卒業、学校における事故、人権問題） 第8回：教員養成（教員の資格・免許、養成制度、任用） 第9回：教職員の職務と責任（職務、研修、職員会議） 第10回：教職員の勤務条件、身分保障と服務 第11回：教育行政の原理（教育基本法と教育行政、組織原理） 第12回：教育行政のしくみ（教育委員会、文部科学省、審議会、調査会） 第13回：教育行政の領域と作用（人事行政、指導助言と指揮監督） 第14回：その他の法令、質疑応答 第15回：講義のまとめ（現代の教育改革と教育法規について） 定期試験				
テキスト： 石井拓児ほか編『教育小六法 2025年版』（学陽書房）				
参考書・参考資料等： 関連する資料・文献などは授業時に配布・指示する。				
学生に対する評価： 定期試験（70％）の結果と小テスト・提出物など（30％）を総合的に勘案して評価する。				
履修上の注意・メッセージ： 特になし。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小林 久美
授業科目名： 学校安全		必修	2単位（30時間）	形態：単独　／　講義
科　　目	教育の基礎的理解に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			
授業の到達目標及びテーマ：				
学校安全および学校の危機管理に関する基礎的内容を理解し、迅速に対応できる力や関係者と協働して組織的に適切な対応が取れるように基本的な危機対応能力を身につける。				
授業の概要：				
学校を取り巻く様々な危機的事態を未然に防ぎ、直面した際は適切な対応ができるよう基礎的な知識を学習する。学校と家庭および地域と連携を図りながら児童の健康と安全を守れるよう、安全教育と安全管理について理解を深める。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション・学校安全とは				
第2回：学校安全総論1（学校管理下の災害の実態）				
第3回：学校安全総論2（学校安全の構造と領域、学校安全計画）				
第4回：学校安全総論3（危機管理の考え方と危機管理マニュアル）				
第5回：安全管理（対物管理と対人管理）				
第6回：安全教育1（教育課程における安全教育）				
第7回：安全教育2（安全教育の展開）				
第8回：安全教育と安全管理における組織活動				
第9回：学校安全の進め方1（交通安全）				
第10回：学校安全の進め方2（防犯・不審者対応）				
第11回：学校安全の進め方3（体育・スポーツでの事故と応急手当）				
第12回：学校安全の進め方4（災害と心のケア）				
第13回：学校安全において留意すべき課題と予防・対応策				
第14回：学校安全において留意すべき課題と予防・対応策（発表）				
第15回：学校安全・危機管理の振り返り				
定期試験				
テキスト：適宜、資料を配布する。				
参考書・参考資料等：「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育 文部科学省 （ https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1416715.htm ） 学校安全と危機管理 四訂版 渡邊正樹著（大修館）等				
学生に対する評価：				
定期試験（60％）と、授業態度や課題提出及び発表（40％）の総合判定により評価する。				
履修上の注意・メッセージ： 事前に『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』をダウンロードしてください。実践力が身につくよう、ディスカッション、グループワークなど演習を中心に進めていきますので、積極的な授業参加を期待しています。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：安藤 壽子
授業科目名： 教育心理学		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			
授業の到達目標及びテーマ：教育心理学の基本的知見を発達段階に即して理解し、学校教育・家庭教育の中でどのように生かされているのか、具体的な事例を通して検討し、教育現場で発揮できる実践力を身につける。				
授業の概要：前時に提示された課題（指定されたテキストの項目を読む）を事前学習した上で授業に参加する。該当の事例をもとにグループワーク等による議論を通し、理論と実践を往還しながら課題解決の方法を考える。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション：教育に関する興味関心を明示し、各自の課題を持つ				
第2回：発達理論1：遊びと学び、ムーブメント教育、ピアジェの発達段階理論				
第3回：発達理論2：条件づけ、行動変容理論、モデリング、発達の最近接領域等				
第4回：学習理論1：認知発達、注意・記憶、WISCによるアセスメント、動機づけ				
第5回：学習理論2：言語発達（絵画語彙発達検査）				
第6回：学習理論3：視知覚発達（フロスティック視知覚発達検査）				
第7回：学習理論4：読み書きスキルの発達（読み書き困難児のための音読・音韻スクリーニング検査）				
第8回：学習理論5：自己調整学習と教科学習				
第9回：人格形成：思春期の課題、ライフスキル、社会性				
第10回：認知心理学：実行機能、メタ認知				
第11回：社会性の発達：自己理解、自己実現、アイデンティティーの確立				
第12回：学校心理学：個と集団の関係（QU）				
第13回：現代の課題：学校不適応、いじめ、不登校、ひきこもり、依存、自己有能感				
第14回：キャリア教育：社会化、自立、SST				
第15回：特別支援教育：理念と仕組み、インクルーシブ教育、合理的配慮等				
定期試験				
テキスト：				
「親子バトル解決ハンドブック」安藤壽子・安藤正紀編著、図書文化				
参考書・参考資料等：				
ワークシート配布				
学生に対する評価：				
定期試験（60％）、課題・発表（40％）				
履修上の注意・メッセージ：				
教育現場で役立つ実践力を身につけることを目指し、主体的に学修しましょう。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：有馬 武裕
授業科目名： 教育課程総論		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			
授業の到達目標及びテーマ：				
教育課程の概念や意義、役割について学習指導要領との関係を踏まえながら学び教育課程を編成するための基礎理論を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて実践例を基に理解する。				
授業の概要：				
学校教育の目的や目標を達成するために教育基本法等を踏まえて教育課程が編成されていること、学習指導要領改訂の経過を基に現在の学習指導要領の基本方針や第4期教育振興計画を理解すること、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について実践例を基に理解することを、グループ討議などを通して深めていく。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション 第1章総説 1改訂の経緯及び基本方針				
第2回：第1章2改訂の要点 学校教育法施行規則改正、前文の趣旨及び要点、総則改正				
第3回：第1章道德の特別の教科化に係る一部改正				
第4回：学習指導要領の変遷 学制～戦後昭和22年学習指導要領（教科課程）				
第5回：学習指導要領の変遷 昭和26年学習指導要領（教育課程）～平成20年学習指導要領				
第6回：第2章教育課程の基準 教育課程の意義、教育課程に関する法律				
第7回：第3章教育課程の編成及び実施 第1節小学校教育の基本と教育課程の役割				
第8回：第3章教育課程の編成及び実施 第2節教育課程の編成①				
第9回：第3章教育課程の編成及び実施 第2節教育課程の編成②				
第10回：第3章教育課程の編成及び実施 第3節教育課程の実施と学習評価				
第11回：第3章教育課程の編成及び実施 第4節児童の発達の支援 第5節学校運営上の留意点				
第12回：第3章教育課程の編成及び実施 第6節道德教育推進上の配慮事項1				
第13回：第3章教育課程の編成及び実施 第6節道德教育推進上の配慮事項2，3，4				
第14回：カリキュラム・マネジメント実践例（総合的な学習の時間）				
第15回： 第4期教育振興計画、令和日本型教育（ウェルビーイング、持続可能な社会の創り手）				
定期試験				
テキスト：小学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省 小学校学習指導要領 文部科学省				
参考書・参考資料等：生徒指導提要 文部科学省 「MINERVAはじめて学ぶ教職 10 教育課程」根津 朋実 編 ミネルヴァ書房				
学生に対する評価：				
定期試験（50％）、授業中に課すレポートや課題等の評価（50％）の総合判定で評価する。				
履修上の注意・メッセージ：				
また、毎回「振り返りレポート」を提出すること。なお、欠席時もレジュメ（配付される講義内容を要約した資料）を参照し、今日の学びを提出すること。詳しくは、最初の授業で説明する。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：中島 朋紀
授業科目名：教育方法論		必修	2単位(30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）			
授業の到達目標及びテーマ： 1. 教育方法の目的・機能性を理解し、実践的な教育指導に関する具体的な指導技術を身につける。 2. 学習指導要領に関する基礎的な知識・重点事項を修得し、指導案が作成できる。 3. 教育方法・技術におけるICT活用について知り、自身で応用・活用することができる。				
授業の概要： 子どもの実態・理解及び教育環境を踏まえながら、教育の方法に関する基礎的な理論や技術を学び、そして教育実践におけるICT機器等の活用や在り方などについても学ぶ。教育方法をめぐる理論的な課題や実践的な課題などを考察することを通して、授業展開能力の育成を目指すとともに、指導案作成や現場での教材の活用の検討などについても行う。そして情報化時代における教育の可能性についても考える。				
授業計画 第1回：教えることと学ぶことの関係性について 第2回：教育方法の歴史と変遷 第3回：子どもを生かす学び、学習の展開について 第4回：教材・素材と教材研究について―授業づくりの手がかり― 第5回：学習指導要領と学習指導方法について 第6回：教育内容の構造化―指導計画と指導案作成の関連― 第7回：教育技術としての指導言 第8回：教育方法と評価活動―目的と役割― 第9回：情報化と教育方法―生活と教育現場の変化・情報活用能力― 第10回：情報化時代の教育―デジタル教材、ICT活用とその可能性― 第11回：学習指導案の作成1：指導計画作りと教材研究 第12回：学習指導案の作成2：教材研究と授業実践の立案 第13回：模擬授業実践1：グループ実践と反省・質疑応答 第14回：模擬授業実践2：グループ実践と全体討議（授業構想、改善点について） 第15回：教育方法の課題と今後の方向―指導方法の問題点と工夫・改善― 定期試験				
テキスト： 小学校学習指導要領（平成29年3月告示） 文部科学省 東洋館出版社				
参考書・参考資料等： 配付資料・プリント（授業時の指示）				
学生に対する評価： レポート課題・演習・発表等の評価60%、定期試験40%を踏まえ総合的に評価する。				
履修上の注意・メッセージ： ・学ぶこと、教えることについて問い直し、子どもを生かす教材研究や授業構想に取り組むことができる。 ・授業づくりを通して、教師に求められる教材研究や授業デザイン、指導力を身につける。 ・授業を支える教授・学習理論について理解し、授業実践への適用・応用を考える。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：安富 直樹
授業科目名：ICT活用の理論と実践		必修	2単位（30時間）	形態：単独 / 講義
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			
授業の到達目標及びテーマ： コンピュータ・タブレット・スマートフォン等のICT機器を活用した授業設計・評価の理論を、具体的な教科におけるGIGAスクール構想対応型の授業設計・授業改善に生かせる力を修得する。 また、情報モラル教育、プログラミング教育を含む情報教育の目標、教育内容、教材について理解し、具体的な学校環境において情報環境整備を含め対応できる力を育成する。 〈到達目標〉 ・情報活用能力を育成する授業を設計・実施・評価・改善できる。 ・目標実現に最適な情報を収集・選択したり、適宜情報機器を利活用したりした授業を設計・評価できる。				
授業の概要： これまでの教育現場における情報通信技術（ICT）の活用について、歴史的経緯や現状を概観し、生成AIを含めた情報デジタルリテラシーを考えていく。教科等の指導におけるICT活用授業の理論やその実践を、文献や授業ビデオ等を参照しながら、授業設計（授業準備・データ活用・学習評価）の構成要素および具体的な指導法を身に付けていく。また情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について、情報モラル教育、プログラミング教育、データサイエンス等について、一人1台端末を授業にどう位置付け具体的にどう取り入れるかを検討しながら、教材開発も行っていく。なお、受講者自身が各種ICT機器を活用し、体験的に学ぶ機会を積極的に設けていく。				
授業計画 第1回：オリエンテーション 平成・令和のICT教育概観 生成AI利用の広がり 第2回：日々の情報利活用と増え続ける情報 収集・選択・加工・発信とICT 第3回：教育の情報化の概要① デジタルコンテンツの導入と教師のICT指導力 第4回：教育の情報化の概要② 対話的な学びを深めるICT活用力 第5回：教育の情報化の概要③ 学習指導要領「生きる力」と「資質・能力」とICT活用力 第6回：GIGAスクール構想とSociety 5.0 「情報活用能力の育成」を新聞作りから学ぶ 第7回：授業支援システムでの展開 授業づくりと実践事例の分析 ① 第8回：アクティブ・ラーニングでの展開 授業づくりと実践事例の分析 ② 第9回：デジタル・ポートフォリオへの展開 授業づくりと実践事例の分析 ③ 第10回：電子黒板とデジタル教科書への展開 授業づくりと実践事例の分析 ④ 第11回：プログラミング的思考を育む教育の実践とそのめざすもの 第12回：「情報モラル教育」から「デジタル・シティズンシップ」へ 第13回：学校現場で活用が進む生成AIと成長支援 第14回：ICTを取り入れた活動案づくり 思考スキル・思考ツールの活用 第15回：学校教育とテクノロジー これからの成長支援				
定期試験				
テキスト：小原 豊・北島茂樹 編著 2024 『未来を拓くICT教育の理論と実践』 東洋館出版社 「小学校学習指導要領解説 総則編」（文部科学省） 授業時に配付するプリント				
参考書・参考資料等： 坂本 旬 他 2020 デジタル・シティズンシップ:コンピュータ1人1台時代の善き使い手をめざす学び 大月書店 平成22年10月、令和元年12月「教育の情報化に関する手引き」 文部科学省 令和2年6月「教育の情報化に関する手引き（追補版）」 文部科学省 学習指導要領の趣旨の実現に向けた 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する 参考資料（令和3年3月版） 初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン Ver.2（令和6年12月版）				
学生に対する評価： 定期試験（70％）、授業中に課すレポートや課題作品等の評価（30％）の総合判定で評価する。				
履修上の注意・メッセージ：授業の中では、コンピュータを利活用しながら取り組むため、忘れずに持参すること。また、毎回「振り返りレポート」を提出すること。なお、欠席時もレジュメ（配付される講義内容を要約した資料）を参照し、「今日の学び」に記入し、提出すること。配付資料は、ファイリングし、参照できるようにしておくこと。詳しくは、最初の授業で説明する。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：田中正雄、安富直樹、
授業科目名： 小学校教育実習指導		必修	2単位 (30時間)	形態：オムニバス / 講義
科 目	教育実践に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教育実習			
授業の到達目標及びテーマ：				
1 教育実習の意義及び教育実習生として必要な資質について理解できる。				
2 実習課題を明確にし、教育実習生としての自覚をもつことができる。				
授業の概要：教育実習生としての自覚を持って小学校教育実習に臨み、実習がより充実したものとなるよう、これまでの教職に関する学修を通して身に付けた知識・理解・技能について整理をする。特に、小学校組織や教育課程について再確認をする。併せて、子どもの発達の姿と課題について学び、教育実習に備える。これらのことを踏まえ、自身の実習課題を明確にする。				
授業計画				
第1回：教育実習の意義(1) 教育実習の概要と心構え				
第2回：教育実習の意義(2) 教員に求められる資質				
第3回：子どもたちの発達の姿(1) 低・中・高学年の子どもの実態				
第4回：子どもたちの発達の姿(2) 児童理解の意義と方法				
第5回：特別支援教育の現状と課題				
第6回：教師の人権意識と事例研究				
第7回：小学校教諭の職務 ある小学校の一日				
第8回：一日観察実習のねらいの確認・授業参観の仕方				
第9回：一日観察実習（小学校訪問） <u>小学校公開授業研究会への参加</u>				
第10回：外部講師（小学校長）による教育実習に関する講話				
第11回：一日観察実習と講話から学んだことの振り返り（グループ討議と報告）				
第12回：授業展開の技術 ～最新の授業デザイン～ <u>神奈川区小学校校内授業研究会への参加</u>				
第13回：授業展開の技術 ～教材研究と指導案の作成、発問、板書、資料作成等～				
第14回：教育実習課題の明確化 授業研究会からの学び【発表】				
第15回：教育実習の心構えのまとめ（校長講話）				
テキスト：				
「小学校教育実習ガイド」石橋 裕子 他 編著（萌文書林）				
参考書・参考資料等：				
授業中に指示する。				
学生に対する評価：				
毎時間のレポート、授業研究会参加時の御礼の手紙（70%）及びグループワーク等の参加態度（30%）を総合的に評価する。				
履修上の注意・メッセージ：				
教育実習指導は毎回必ず出席すること。欠席の場合は、課題提出と補講を行う。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：藤本 英実
授業科目名： 小学課程社会		必修選択	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項			
授業の到達目標及びテーマ 1 学習指導要領に示された小学校社会科の各学年の目標・内容について理解している。 2 小学校社会科の内容構成と指導法及び評価の観点とのかかわりについて考察している。				
授業の概要 核家族化や情報化等の変化が急速に進む中、子どもと社会とのかかわりも一層複雑化かつ希薄化する傾向が見られる。こうした中で、子どもたちが自分と向き合いながら他者への共感を育み、社会の一員としての自覚をもつことができるようにするために、指導案作成や話し合い活動等の具体的な活動を通して、小学校社会科の内容構成についての理解を深めることができるようにする。				
授業計画 第1回：小学校社会科内容構成の現状と課題① 社会科の性格 第2回：小学校社会科内容構成の現状と課題② 目標・内容の変遷 第3回：社会科の内容構成と指導法のかかわり 第4回：生活科と社会科の内容構成上のかかわり 第5回：現行学習指導要領の概要と改訂のポイント 第6回：小学校社会科の内容構成① 3年生の指導内容と教材開発 第7回：小学校社会科の内容構成② 4年生の指導内容と教材開発 第8回：小学校社会科の内容構成③ 5年生の指導内容と教材開発 第9回：小学校社会科の内容構成④ 6年生の指導内容と教材開発 第10回：社会科学習指導案作成のポイントと課題① 地域素材の教材化 第11回：社会科学習指導案作成のポイントと課題② 産業と労働の教材化 第12回：社会科学習指導案作成のポイントと課題③ 地理・歴史の教材化 第13回：社会科学習指導案作成のポイントと課題④ 政治・経済・世界の国の教材化 第14回：社会科の評価の観点 第15回：社会科の評価の方法 定期試験				
テキスト： 「小学校学習指導要領解説 社会編」文部科学省 「考え合う授業の追究」藤本英実編著（東洋館出版）				
参考書・参考資料等： 授業中に指示する。				
学生に対する評価： 授業のリアクションペーパー(30%)、定期試験(70%)				
履修上の注意・メッセージ： 本講座では、社会科はもともと「暗記教科」ではないという観点から、小学校で学ぶ社会科のあり方を調べたり、考えたりしていきます。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：有馬 武裕
授業科目名： 小学課程理科		必修選択	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項			
授業の到達目標及びテーマ：				
小学校理科では自然の事物・現象に親しみ、問題を見いだし、見通しを持って問題解決の活動を行うことが重要であることを理解している。問題解決の過程を大切にし、見方・考え方を働かせ、主体的、対話的、深い学びを通して、3つの資質・能力を育成していく理科学習指導案を作成することができる。				
授業の概要：				
自然科学の原理・原則及び理科授業の基礎・基本について学び、理科学習指導案の構造について理解を深め理科学習指導案を作成することができるようにする。また、科学的コミュニケーションを通して、プレゼンテーションができるようにする。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション、基本方針、小学校理科の趣旨				
第2回：小学校理科の目標、資質・能力、内容構成				
第3回：学年目標と学年内容の構成の考え方				
第4回：3学年の内容（A物質・エネルギー）				
第5回：3学年の内容（B生命・地球）				
第6回：4学年の内容（A物質・エネルギー）				
第7回：4学年の内容（B生命・地球）				
第8回：5学年の内容（A物質・エネルギー）				
第9回：5学年の内容（B生命・地球）				
第10回：6学年の内容（A物質・エネルギー）				
第11回：6学年の内容（B生命・地球）				
第12回：指導計画の作成と内容の取扱い（主体的・対話的で深い学び等）				
第13回：授業づくりと学習指導案 単元目標、単元観、児童観、指導観、単元計画				
第14回：授業づくりと学習指導案 本時指導案（導入の工夫、問題解決の過程、評価規準）				
第15回：授業づくりと学習指導案 本時指導案（板書計画、発問等）				
定期試験				
テキスト：「小学校学習指導要領解説 理科編」 文部科学省				
参考書・参考資料等：				
「小学校理科の観察、実験の手引き」 文部科学省 「なぜ、理科を教えるのか」 文溪堂 わくわく理科3年、4年、5年、6年（啓林館）				
学生に対する評価：				
定期試験(40%)、プレゼンテーション(30%)、振り返り・課題提出(30%)				
履修上の注意・メッセージ：				
授業は、グループ討論や実験・観察等を実施するので、積極的に授業に取り組んでください。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：杉本 真由美
授業科目名： 小学課程生活		必修選択	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項			
授業の到達目標及びテーマ： ・生活科が設立された経緯と理念、目標、内容、教育方法について理解する。 ・生活科の各内容について、授業の構成、学習計画の立案、評価の方法について理解する。				
授業の概要： 小学校生活科の設立の経緯を踏まえ、生活科の意義や目標、内容について理解を深める。具体的な活動を経験し各内容の指導法や評価法について学ぶ。低学年の特性を踏まえ、幼保小の連携や接続について学ぶ。				
授業計画 第1回：生活科の学習体験を振り返り、学習の見通しを持つ。 第2回：生活科創設の背景と経緯 第3回：生活科のカリキュラムの特徴 第4回：ねらいと内容構成の考え方（1）～（3） 第5回：ねらいと内容構成の考え方（4）～（6） 第6回：ねらいと内容構成の考え方（7）～（9） 第7回：生活科の学習指導の進め方 第8回：単元構成と授業づくり（1）～（2） 第9回：単元構成と授業づくり（3）～（4） 第10回：単元構成と授業づくり（5）～（6） 第11回：単元構成と授業づくり（7）～（8） 第12回：単元構成と授業づくり（9） 第13回：生活科と幼児教育の関連（スタート・カリキュラム） 第14回：生活科の評価の考え方と方法（指導と評価の一体化） 第15回：生活科と他教科、総合的な学習の時間との関連（カリキュラム・マネジメント）				
定期試験				
テキスト：「小学校学習指導要領解説 生活編」文部科学省 「新編 どきどきわくわく あたらしいせいかつ」（上・下）東京書籍				
参考書・参考資料等： 田村学『新教科誕生の軌跡』2014 東洋館				
学生に対する評価： 定期試験（期末レポート）（40％）、授業内の発表と授業内提出物（40％）、授業の取り組み態度・参加度（20％）				
履修上の注意・メッセージ： 好奇心あふれる低学年児童の特質を理解することはとても大切です。保育園や幼稚園の保育内容についても関心を持ち、楽しく学んでいきましょう。生活科の公開授業を参観することもお勧めです。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：藤原 悦子
授業科目名： 小学課程国語		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項			
授業の到達目標及びテーマ：小学校国語科の目標と各領域の内容・学年の指導内容を理解し、児童が主体的に学習にとりくめるような教材分析をしている。				
授業の概要： 小学校における学習指導要領の国語科の目標と各領域の内容・学年の指導内容を理解する。また言語活動例については、発達段階を知り、実際に全学年の教科書内容を系統的に分析し、目標に照らし合わせながら具体的なアプローチで国語科の授業構築について考察する。				
授業計画 第1回：国語力の育成の必要性と国語科の目標 第2回：話すこと・聞くことの指導事項と言語活動例① 低学年教材より 第3回：話すこと・聞くことの指導事項と言語活動例② 中学年教材より 第4回：話すこと・聞くことの指導事項と言語活動例③ 高学年教材より 第5回：書くことの指導事項と言語活動例①低学年教材より 第6回：書くことの指導事項と言語活動例②中学年教材より 第7回：書くことの指導事項と言語活動例③高学年教材より 第8回：読むことの指導事項と言語活動例①低学年教材より 第9回：読むことの指導事項と言語活動例②中学年教材より 第10回：読むことの指導事項と言語活動例③高学年教材より 第11回：書写に関する事項および授業方法 第12回：書写実技 第13回：言葉の特徴や使い方に関する事項と教材について 第14回：我が国の言語文化・情報の扱い方に関する事項と教材について 第15回：指導計画と内容の取り扱いについて・読書指導 講義のまとめ				
定期試験 テキスト：「小学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省） 「光村図書 児童用教科書 国語 2年上下・4年上・5年・書写3年」				
参考書・参考資料等： 倉橋栄吉編著『小学国語 指導のコツ』学陽書房、府川源一郎・高木まさき編『認識力を育てる書き換え学習』東洋館出版、高木まさき『国語科における言語活動の授業づくり入門』教育開発研究所、青山浩之『基本が身につく書道の教科書』池田書店 「国語科重要用語事典」（明治図書）				
学生に対する評価：定期試験(50%)、提出物(50%)を総合的に判定して評価する。				
履修上の注意・メッセージ： 綿密な教材分析が、国語科授業の基本となります。児童に教えるためには、教師の高い国語力が必要なことを理解してほしいと思います。指導要領の学習と合わせて、全学年の授業展開を学びます。教育界の期待に応える教員になれるよう、授業および提出物などに真剣に取り組んでほしいと思います。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小原 豊
授業科目名： 小学課程算数		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項			
授業の到達目標及びテーマ： 小学校算数の内容領域に対応する数学的背景について構造的に理解することで児童の深い学びを支える小学校教員として相応しい力量を形成する。				
授業の概要： 本授業では、算数指導を支える数学的知識の理解を図る。数体系や計量、論証と幾何、基礎解析、記述・推測統計など教科内容知識について、算数教育上の実践的な課題と関連づけながら探究する。				
授業計画 第1回：算数の本質（算数と数学の相違、教科内容知識） 第2回：数と計算(1)数概念と表記法、数感覚（集合・構造、数体系） 第3回：数と計算(2)四則計算の意味、概数・概算（単項演算、二項演算） 第4回：数と計算(3)小数・分数の概念と形式（数直線と稠密性・連続性） 第5回：数と計算(4)計算の意味とその拡張（同値類、無限小数展開） 第6回：図形(1)図形の構成と性質（作図、定義・公理・定理、特殊と一般） 第7回：図形(2)図形の移動と変換（拡大・縮小、対称性、射影と位相） 第8回：測定(1)量の種類と測定（単位、内包量・外延量、加法性、測定と誤差） 第9回：測定(2)面積と体積の求積（次元、等積変形、Cavalieriの原理） 第10回：数量関係（式表示と関数、実数、線形性、座標と関数、直交形式と極形式） 第11回：データ処理と確率統計（記述統計・推測統計、自由度と有意差） 第12回：数学的活動(1)算数・数学的な着想（暗示的接触、支持的接触） 第13回：数学的活動(2)算数・数学的な問題解決（簡潔・明確・統合、発展性） 第14回：問題設定(1)算数・数学的な発展（多様性・開放性、拡張・一般化） 第15回：問題設定(2)算数・数学的な活用（日常性と転移、総合性） 定期試験				
テキスト： 齋藤昇、小原豊(2020)『深い学びを支える算数教科書の数学的背景』（東洋館出版）				
参考書・参考資料等： 授業毎に必要な応じた参考資料プリントを適宜配布する。				
学生に対する評価： 定期試験60%，授業レポート40%を総合的に判定しつつ評価する。				
履修上の注意・メッセージ： 算数授業の質は教材理解の深さに依存します。教えることが一見楽に見える算数教材も、深く広範な数学的背景をもつのです。「初等」とは「容易」という意味ではありません。教材の背後にある学校数学の全体像に気づくことで、それらの教材を開発、改善してきた先人の努力や成果に対する敬意をもち、自らが携わる初等教育の内容の深さと素晴らしさをしっかりと理解して下さい。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：風間 千景
授業科目名： 小学課程英語		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項			
授業の到達目標及びテーマ： この授業では、我が国の小学校における外国語教育(外国語活動・外国語科)に関する知識として、まず外国語教育導入の経緯や現状を知り、外国語教育における目標や課題に関する理解を深めます。そして、外国語指導の理論的根拠となる外国語の教授法等について学んだ上で、実際に授業を行う際に必要となる指導計画作成の考え方や教材の選び方や教材の活用方法、そして評価との関連等を学びます。				
授業の概要： この授業では、教員による講義を聴くだけで無く、事前に作成したレジュメに基づく受講生によるテキストレポート（解説）を求めると同時に、クラス内で行うディスカッションでの議論を通して、外国語教育に関する知識と理論の理解を深める事を目指します。				
授業計画 第1回：コースガイダンス / 外国語活動・外国語科における目標及び内容等（小学校学習指導要領解説） 第2回：1章：外国語教育の目的と目標 第3回：2章：関連分野からみる外国語教育の意義と方向性 第4回：3章：指導者の役割、資質と研修 ーより良い指導者をめざして 第5回：4章：教材の構成と内容 第6回：5章：指導目標、領域別目標、年間指導計画の立て方と具体例 第7回：6章：言語材料と4技能の指導 第8回：7章：教材研究① ー児童が英語に楽しく触れ、慣れ親しむ活動 第9回：8章：教材研究② ー児童が創意工夫し、生き生きと英語を使う活動 第10回：9章：指導方法と指導技術 第11回：10章：いろいろな教材、教具の活用法 第12回：11章：評価のあり方、進め方 第13回：12章：授業過程と学習指導案の作り方 第14回：13章：授業づくり ー事前準備から振り返りまで 第15回：14章：豊かな小学校外国語教育をめざして ー外国語活動の成果と課題を踏まえて				
定期試験				
テキスト：『最新 小学校英語教育法入門』（研究社）[監修]樋口忠彦 [編著]加賀田哲也（代表）・泉恵美子・衣笠知子				
参考書・参考資料等： 文部科学省『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』				
学生に対する評価： テキストレポートを含む授業内課題（35%）・授業内ディスカッション（25%）・定期試験（40%）				
履修上の注意・メッセージ：小学校の教員に必要な外国語教育に関する基礎的な知識を身に付け、児童にとって有意義な外国語授業をつくるために主体的に取り組むことを求める。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：田中 正雄
授業科目名： 小学課程音楽		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項			
授業の到達目標及びテーマ： 小学校音楽科を指導するために必要な音楽の基礎的知識を理解する。				
授業の概要： 音楽学習において必要とされる、楽譜を読み書きする能力など、基礎的な音楽理論について講義と演習を通して理解を深める。				
授業計画 第1回：楽譜の読み方や書き方の基本的事項 第2回：様々な楽譜と五線譜の特徴（音符、休符、変化記号等） 第3回：音楽記号の読み方や書き方、意味と用法 第4回：拍子とその仕組み、リズムに関する記譜法・演奏法 第5回：音程の仕組みとその求め方 第6回：派生音を含む音程、変化記号 第7回：様々な音楽記号や用語（反復記号、演奏法に関する記号） 第8回：音楽理論のまとめ①（第1回～第7回の内容についての小テスト）、小学校歌唱共通教材の概要 第9回：音楽理論の演奏への活用（音階と調号）、伴奏法の基礎 第10回：和音とコードネーム 第11回：和音による伴奏付け①（ハ長調） 第12回：和音による伴奏付け②（ヘ長調、ト長調、二長調を含む曲） 第13回：楽曲で用いられる音階と調性についてのまとめ 第14回：歌唱共通教材の楽曲的特徴のまとめ（曲名、調性、拍子等） 第15回：西洋音楽史および日本音楽史の概要、音楽理論のまとめ②（定期試験範囲の確認） 定期試験				
テキスト：授業者自ら作成した印刷資料				
参考書・参考資料等：改訂版 最新 初等科音楽教育法2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 初等科音楽教育研究会（音楽之友社）				
学生に対する評価： 授業内課題（20%）、小テスト（30%）、筆記試験による定期試験の評定（50%）により評価する。				
履修上の注意・メッセージ：他の音楽科目（ピアノ、声楽等）と関連付けて学習すること				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：藤原 悦子
授業科目名：国語科指導法		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)			
授業の到達目標及びテーマ				
(1) 国語科の目標を達成するための具体的な指導方法について理解している。				
(2) 指導案作成や模擬授業等の活動を通して、子ども主体の授業のあり方及び発問・評価の方法について考察し、授業力を身に付けている。				
授業の概要：				
本講座では、児童が主体的に取り組み、言語能力を身に付ける国語科授業の指導法について、教材研究・指導案作成を学校現場と同様に行い、模擬授業をする。グループワークや討議を通して、国語科の授業力とは何かを具体的に考え、実践する能力を身に付ける。				
授業計画				
第1回：国語科指導の基礎・基本、単元について				
第2回：指導案の書き方① 指導観・児童観・教材観				
第3回：指導案の書き方② 指導計画 本時案				
第4回：発問・教材研究・板書計画・ワークシート作り方等				
第5回：読むこと(説明的文章)の指導法①「たんぽぽのちえ」 模擬授業・討議				
第6回：読むこと(説明的文章)の指導法②「どうぶつえんのじゅうい」 模擬授業・討議				
第7回：読むこと(文学的文章)の指導法①「ふきのとう」 模擬授業・討議				
第8回：読むこと(文学的文章)の指導法②「スイミー」 模擬授業・討議				
第9回：読むこと(文学的文章)の指導法③「お手紙」 模擬授業・討議				
第10回：読むこと(文学的文章)の指導法④「スーホの白い馬」 模擬授業・討議				
第11回：書くことの指導法①「かんざつ名人になろう」 模擬授業・討議				
第12回：書くことの指導法②「こんなもの見つけたよ」 模擬授業・討議				
第13回：書くことの指導法③「見たこと かんじたこと」 模擬授業・討議				
第14回：話すこと・聞くことの指導法①「あったらいいな こんなもの」 模擬授業・討議				
第15回：発問・目標・評価などについての重要事項のまとめ				
定期試験				
テキスト：				
「小学校学習指導要領解説 国語編」(文部科学省)、「小学校国語教科書2年 上・下」(光村図書出版)				
参考書・参考資料等：				
高木まさき編「情報リテラシー 言葉に立ち止まる国語の授業」(明治図書)				
『教科教育法 小学校国語』(日本標準) 「国語科重要用語事典」(明治図書)				
学生に対する評価：定期試験(30%)、模擬授業と提出物(70%)を総合的に判定して評価する。				
履修上の注意・メッセージ：				
小学校の国語の授業において、目の前の子どもが生き生きと活動し国語の能力を身に付けるためには、教師の綿密な計画が必要です。初めての体験が多いでしょうが、全力で考え工夫して模擬授業に取り組んでほしいと思います。私も全力でサポートします。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：藤本 英実
授業科目名： 社会科指導法		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)			
授業の到達目標及びテーマ				
1 子どもたちが主体的な学びを通して社会科の目標を達成することができるようにするための指導方法について理解している。				
2 教材研究や指導案作成等の活動を通して、子ども主体の授業のあり方及び評価の方法について考察している。				
授業の概要				
社会科の授業を通して学習指導要領で示されている「生きる力」を育むために、子どもたちが様々な社会的事象の意味を自ら問題意識をもち追究していく社会科の指導及び評価のあり方について考察し、理解を深めることができるようにする。				
授業計画				
第1回：小学校社会科教育の現状と課題① 社会科の授業の変遷				
第2回：小学校社会科教育の現状と課題② 「生きる力」と社会科の授業				
第3回：社会科の基本的な学習過程				
第4回：社会科学習指導案の作成について① 指導案作成のポイント				
第5回：社会科学習指導案の作成について② 地域教材開発のポイント				
第6回：社会科学習指導案の作成について③ 単元の指導計画作成のポイント				
第7回：社会科学習指導案の作成について④ 本時展開案作成のポイント				
第8回：社会科学習における教師の指導性① 学習問題と話し合い活動				
第9回：社会科学習における教師の指導性② 子どもの考えを認める、生かす、深める発問と板書				
第10回：社会科学習における教師の指導性③ 授業における資料活用の方途				
第11回：社会科学習における教師の指導性④ 自ら学びの足跡を残すノート指導				
第12回：社会科の評価① 観点別評価の意義と方法				
第13回：社会科の評価② 自己評価の意義と方法				
第14回：演習① 模擬授業及び授業評価(中学年)				
第15回：演習② 模擬授業及び授業評価(高学年)				
定期試験				
テキスト：				
「小学校学習指導要領解説 社会編」文部科学省				
「考え合う授業の追究」藤本英実編著（東洋館出版）				
参考書・参考資料等：				
授業中に指示する。				
学生に対する評価：				
授業のリアクションペーパー(30%)、定期試験(70%)				
履修上の注意・メッセージ：				
本講座では、社会科の指導案を作成したり、グループで検討・提案したりする活動を通して、子ども主体の社会科学習のあり方について考察していきます。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小原 豊
授業科目名： 算数科指導法		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)			
授業の到達目標及びテーマ： 算数科の基本原理を理解し、実践上の諸課題を探究する力量を形成する。また算数科の歴史的展開を踏まえ、その内容構成に即した指導方法について実践する力を身に付ける。				
授業の概要： 本授業では算数の歴史的展開、指導目標論、指導方法論、授業論、学習評価論について、学習指導要領の変遷にも言及しつつ、算数教育の基本的原理を概観し、実践上の諸課題を探究する。				
授業計画 第1回：算数指導の本質（算数教育の意義と基本的性格） 第2回：算数教育の目標と現状（国際調査(TIMSS, PISA)、全国学力調査） 第3回：算数教育の史的展開(1)西洋化と近代化（緑表紙教科書、数学教育近代化） 第4回：算数教育の史的展開(2)現代化と情報化（生活単元、現代化、情報化、活動性） 第5回：算数科指導内容論(1)数と計算（数体系と拡張、四則演算の意味と手続き） 第6回：算数科指導内容論(2)図形と空間（作図・敷き詰め、定義とイメージ） 第7回：算数科指導内容論(3)測定（保存、加法性、内包量・外延量） 第8回：算数科指導内容論(4)数量関係とデータの処理（比と比例、割合、関数、統計） 第9回：算数科指導方法論(1)基本原理（多様性、協同性、公理性、構成性） 第10回：算数科指導方法論(2)指導計画（単元、総合化、指導案、板書計画） 第11回：算数科指導方法論(3)実践展開（活動性、意味と手続き、誤答分析） 第12回：算数科指導方法論(4)テクノロジー活用（デジタル教科書、電子黒板） 第13回：算数科教材論（教科書比較、視覚化、操作性） 第14回：算数科授業論（授業設計、授業研究、優れた授業、発問分析） 第15回：算数科評価論（観点別評価、指導と評価の一体化、ポートフォリオ）				
定期試験				
テキスト： 齋藤昇、秋田美代、小原豊(2018)『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』（東洋館出版）				
参考書・参考資料等： 文部科学省(2018) 小学校学習指導要領解説 算数編（日本文教出版）				
学生に対する評価： 定期試験60％，授業レポート40％を総合的に判定しつつ評価する。				
履修上の注意・メッセージ： 算数科教育法は、単に教え方(Know-how)を学ぶものではありません。人間が算数・数学を学ぶとはどういう営みであるのかを深く考えることで、小学校教員の在るべき姿や責任、心構えをしっかりと見出して欲しい。算数授業を成立させる条件を教材・教具の面から具体的に考えることは、小学校教諭としての実践的な素養を総合的に高めてくれます。将来の教育者として主体的な学習を期待しています。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：有馬 武裕
授業科目名： 理科指導法		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)			
授業の到達目標及びテーマ：				
小学校学習指導要領「理科」の目標・内容を基に、授業づくりのための教材研究のあり方や指導と評価を重視した本時展開を作成し模擬授業を通して理解する。				
模擬授業を通して問題解決の授業の流れや板書の仕方等を身につけ、理科の見方・考え方を引き出す発問などを工夫し、効果的な理科の指導法のあり方を検討していく。				
授業の概要：				
理科の授業を通して、学習指導要領で示されている資質・能力を育むとともに、子どもたちが出合う様々な自然事象を自ら問題意識をもち追究していく理科授業を実践したり児童の立場になったりして、指導及び評価のあり方について考察し、理解を深めることができるようにする。				
授業計画				
第1回：「小学校学習指導要領理科」と授業づくり（見通し課題提出）				
第2回：T Tでの模擬授業のための授業研究の方法（見通し課題提出）				
第3回：模擬授業を通した授業研究と相互評価①【エネルギー領域と見方】（自己・相互評価）				
第4回：模擬授業を通した授業研究と相互評価②【粒子領域と見方】（自己・相互評価）				
第5回：模擬授業を通した授業研究と相互評価③【生命領域と見方】（自己・相互評価）				
第6回：模擬授業を通した授業研究と相互評価④【問題をもつ】①（自己・相互評価）				
第7回：模擬授業を通した授業研究と相互評価⑤【問題をもつ】②（自己・相互評価）				
第8回：模擬授業を通した授業研究及び相互評価⑥【予想・仮説】（自己・相互評価）				
第9回：模擬授業を通した授業研究及び相互評価⑦【検証実験の方法】（自己・相互評価）				
第10回：模擬授業を通した授業研究及び相互評価⑧【結果の見通し】（自己・相互評価）				
第11回：模擬授業を通した授業研究及び相互評価⑨【結果のまとめ方】（自己・相互評価）				
第12回：模擬授業を通した授業研究及び相互評価⑩【予想・仮説と考察】（自己・相互評価）				
第13回：模擬授業を通した授業研究及び相互評価⑪【問題と結論】（自己・相互評価）				
第14回：模擬授業を通した授業研究及び相互評価⑫【生活に生かす】（自己・相互評価）				
第15回：模擬授業を通した授業研究及び相互評価⑬【授業評価】（自己・相互評価）				
定期試験				
テキスト：「小学校学習指導要領解説 理科編」 文部科学省」				
参考書・参考資料等：				
「なぜ、理科を教えるのか」（文溪堂）、わくわく理科3年、4年、5年、6年（啓林館）				
学生に対する評価：				
定期試験(30%)、模擬授業の姿(40%)、模擬授業自己・相互評価(30%)				
履修上の注意・メッセージ：				
授業は、グループ討論を中心に実施するので、積極的に授業に取り組んでください。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：風間 千景
授業科目名： 小学校英語指導法		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)			
授業の到達目標及びテーマ： この授業では、小学校で英語教育(外国語活動・外国語科)を担当する事を想定し、レッスンの組み立て方、指導案の作成方法、指導案に基づくレッスン実践等について学びます。更に、指導者として指導技術向上の為に reflective feedback (振り返り) を重視し、受講生全員が、教師役もしくは児童役の立場から実践したレッスンを振り返り、より効果的なレッスンへと改善するには、どこをどう修正すれば良いか？英語教育を担当する教師として成長するにはどうすべきか？等に取り組む態度の育成を目指します。				
授業の概要： この授業では、まずグループで教材研究を行い、指導案を作成し、指導案を基に 1 st teaching (1回目の模擬授業実践)を行います。その後、受講生全員が、教師役もしくは児童役の立場で関わる reflective feedback (振り返り)を行い、そこでシェアされたコメント等を基に、グループで指導案を修正した上で、再度同じ内容を指導する 2 nd teaching (2回目の模擬授業実践)を行います。				
授業計画 第1回：・オリエンテーション ・小学校外国語教育(外国語活動・外国語)の目標と内容・授業研究について ・ reflective feedback (振り返り)について 第2回：教材研究① 第3回：教材研究② 第4回：指導案作成① 第5回：指導案作成② ・教材作成等模擬授業実践準備 第6回：1 st teaching of Group 1 (3年生グループ1回目) & reflective feedback 第7回：1 st teaching of Group 2 (4年生グループ1回目) & reflective feedback 第8回：2 nd teaching of Group 1 (3年生グループ2回目) & reflective feedback 第9回：2 nd teaching of Group 2 (4年生グループ2回目) & reflective feedback 第10回：1 st teaching of Group 3 (5年生グループ1回目) & reflective feedback 第11回：1 st teaching of Group 4 (6年生グループ1回目) & reflective feedback 第12回：2 nd teaching of Group 3 (5年生グループ2回目) & reflective feedback 第13回：2 nd teaching of Group 4 (6年生グループ2回目) & reflective feedback 第14回：教材研究に基づく効果的な補助教材作成について 第15回：模擬授業実践2回を経て得た気づきと変化について 定期試験				
テキスト：文部科学省『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』(PDFを無償でダウンロード可能なため、各自が印刷して準備すること)				
参考書・参考資料等： 文部科学省『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』				
学生に対する評価： reflective feedback を含む授業内課題(20%)・指導案(25%)・模擬授業実践(25%)・定期試験(30%)				
履修上の注意・メッセージ：教員を目指すものとして最善の授業を子供たちに提供するための準備を怠らないだけでなく、受講者としてのマナーや受講者側の視点を意識して模擬授業に参加することを求める。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：ピアノ担当教員
授業科目名： ピアノ基礎		必修	2単位 (60時間)	形態：複数 / 実技
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項			
授業の到達目標及びテーマ：小学校教諭として必要とされる基本的なピアノ演奏技能を習得する。 「バイエルピアノ教則本」の曲々を用いて、ピアノ演奏に必要な音楽知識・奏法技能を学ぶ。 また、小学校音楽科「歌唱共通教材」の簡易伴奏と弾き歌いの技術を身につける。				
授業の概要：実技レッスンを通してピアノ演奏に必要な知識・奏法・表現力を個々の能力に合わせて習得する。また、子供たちが音楽を通じて感受性と表現力が高められるような教育方法を身につける。 具体的履修内容（レベル1～10）は別表（＊初回授業で配付）で表す。				
授業計画 少人数のクラスに分け、各自の進度に合わせた個別指導を行う。 第1回： 第2回： 第3回： 第4回： 第5回： 第6回： 第7回： 第8回： 第9回： 第10回： 第11回： 第12回： 第13回： 第14回： 第15回： グレード試験			第16回： 第17回： 第18回： 第19回： 第20回： 第21回： 第22回： 第23回： 第24回： 第25回： 第26回： 第27回： 第28回： 第29回： 第30回： 定期試験	
テキスト：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社出版部編（全音楽譜出版社） 『改訂版最新 初等科音楽教育法 2017年公示「小学校学習指導要領」準拠』 初等科音楽教育研究会編（音楽之友社）				
参考書・参考資料等：小学生音楽				
学生に対する評価：課題曲によるグレード試験(20%)、課題曲による定期試験(60%)、平常点(20%)により評価する。 。尚、定期試験受験資格はレベル10までの修了を条件とする。通年科目のため前期、後期いずれか15回のうち3分の1以上欠席した場合、各試験の受験資格を喪失します。またグレード試験を受験していない学生は定期試験の受験資格を喪失します。				
履修上の注意・メッセージ：教師になる自覚を持ち、意欲的に学ぶことを求めます。ピアノ演奏技能は、課題をこなすことによって確実に実力が身につきます。日々の練習を大切にしてください。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：酒井修子、田中正雄、安富直樹
授業科目名：福祉教育		必修	2単位(30時間)	形態：複数／演習
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	－			
授業の到達目標及びテーマ： 1 介護等体験実習の意義や目的について理解することができる。 2 特別支援学校及び社会福祉施設での実習を通して学んだことについて考察し、表現することができる。				
授業の概要： 高齢者や心身に障害のある方々の支援や交流の場を体験し、人の心の痛みや人間一人ひとりが異なる能力や個性を有しているということについて理解を深める。事前準備を生かした7日間（特別支援学校2日間・社会福祉施設5日間）の介護等体験実習の成果報告会を行い、学んだことを共有する。				
授業計画 第1回：福祉教育の現状と課題、ボランティア活動への取組方 第2回：介護等体験実習の事前指導(1) 実習（特別支援学校）の概要と事前準備等 第3回：介護等体験実習の事前指導(2) 特別支援学校での実習計画及び留意事項 第4回：介護等体験実習(1) 特別支援学校での実習(1日目) 第5回：介護等体験実習(2) 特別支援学校での実習(2日目) 第6回：特別支援学校での実習の振り返り【発表】 第7回：介護等体験実習の事前指導(3) 実習（社会福祉施設）の概要と事前準備等 第8回：介護等体験実習の事前指導(4) 社会福祉施設での実習計画及び留意事項 第9回：介護等体験実習(3) 社会福祉施設での実習(1日目) 第10回：介護等体験実習(4) 社会福祉施設での実習(2日目) 第11回：介護等体験実習(5) 社会福祉施設での実習(3日目) 第12回：介護等体験実習(6) 社会福祉施設での実習(4日目) 第13回：介護等体験実習(7) 社会福祉施設での実習(5日目) 第14回：特別支援学級等を含む小学校の現状について知る 第15回：介護等体験実習報告会【発表】				
テキスト： 「教師を目指す人の介護等体験ハンドブック」 現代教師養成研究会編 大修館書店				
参考書・参考資料等： 文科省HP https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/mext_00110.html 「障害福祉のあんない」 横浜市健康福祉局障害施策推進課				
学生に対する評価： 実習先の評価・実習日誌(70%)、実習報告書・報告会・授業態度(30%)により総合的に評価する。				
履修上の注意・メッセージ： 介護等体験実習に主体的に取り組み、実りある実習とすること。自分から積極的にコミュニケーションを取るようかわり、有意義な学びとすること。報告書や発表のなかで、理解の深まりを他者へと伝えること。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：藤原 悦子
授業科目名：国語学		必修選択	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	-			
授業の到達目標及びテーマ：教員・保育者としての国語に対する幅広い教養を深め、思考力、判断力、表現力を養い、社会生活で活用する力を身に付けている。				
授業の概要：本講座では、教員・保育者として必要な国語についての幅広く、正しい知識と読解力・実践力を習得する。日本語の特色を音韻音声、語彙、文法、文字表記などから理解し、文章表現等で活用できる能力を身に付ける。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション・国語・日本語をどうとらえるか				
第2回：日本語の音声・音韻				
第3回：日本語の語彙① 体系・語形成・表現				
第4回：日本語の語彙② 類義語・対義語				
第5回：日本語の文法① 品詞・実生活での活用				
第6回：日本語の文法② 敬語(謙譲語・尊敬語・丁寧語)				
第7回：日本語の文字・表記 (平仮名・片仮名・漢字)				
第8回：日本文学史① 奈良時代から江戸時代まで(発表形式)				
第9回：文章読解① 古典原文に親しむ				
第10回：日本文学史② 明治から現代まで(発表形式)				
第11回：文章読解② 物語文・詩を読む				
第12回：文章読解③ 評論・新聞を読む (グループ討議を含む)				
第13回：文章表現① 題材選択・要旨・構成パターン・段落等について				
第14回：文章表現② 小論文作成・推敲				
第15回：文章表現③ 小論文発表 相互評価				
定期試験				
テキスト：「ビジュアルカラー国語便覧 改訂版」大修館書店、授業中に資料も配布する。				
参考書・参考資料等：				
井坂淳一『ここからはじまる日本語学』ひつじ書房 橋本信吉『国語学概論』岩波書店				
小西甚一『日本文学史』(講談社学術文庫) 古典文学全集 小学館				
「漢字検定二級 頻出度問題集」高橋書店				
学生に対する評価：				
定期試験(50%) 提出物・発表内容等 (50%) を総合的に判定して評価する。				
履修上の注意・メッセージ：				
社会に出て必要とされるのが確かな国語力です。多くの人々と関わる教師や保育者の仕事にとって必要なことを念頭においたカリキュラムとなっています。広い知識の獲得はもとより、発表活動も取り入れていますので、受け身の態度でなく、楽しんで取り組んでほしいと思います。提出物は確実に出示してください。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小原 豊
授業科目名： 数学 1		必修選択	2単位（30時間）	形態：単独　／　講義
科　　目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	－			
授業の到達目標及びテーマ：				
教職に求められる数学の基礎的なリテラシー育成を図りつつ小学校教員に相応しい数学的な見方や考え方を育むことを目標とする。				
授業の概要：				
小学校算数の発展形としての数学に対する興味関心を伸ばしつつ、高校1年生程度の数学の内容を楽しみながら、数学を創り上げていく発想やその必要性を問題解決を通して感得する。				
授業計画				
第1回：数学の意義（実質陶冶と形式陶冶）				
第2回：数学の推論（帰納、演繹、類比）				
第3回：日常の推論（仮説推論、Numeracy）				
第4回：定式の数理（順序構造、位相構造）				
第5回：数学の方略（特殊化、単純化、一般化）				
第6回：統計の詐術（記号操作、グラフ解釈）				
第7回：統計の技法（グラフ選択、分散、標準偏差）				
第8回：世界の筆算（n進位取記数法）				
第9回：錯覚の数理（遠近法、射影）				
第10回：生活の数理（和算、会計）				
第11回：折紙の数理（初等幾何）				
第12回：調和の数理（パターン認識、敷き詰め）				
第13回：テクノロジーと数学（作図と演算の対応、動的処理）				
第14回：プログラムと数学（順次処理・回帰処理・分岐処理）				
第15回：数学的な見方と考え方（数理思想、中心概念）				
定期試験				
テキスト：				
齋藤昇、秋田美代、小原豊(2017)『深い学びを支える数学教科書の数学的背景』（東洋館出版）				
参考書・参考資料等： 授業毎に必要なに応じた参考資料プリントを適宜配布する。				
学生に対する評価：				
定期試験60％、授業レポート40％を総合的に判定しつつ評価する。				
履修上の注意・メッセージ：				
小学校教員に必要なのは「算数」であって「数学」ではないと浅慮することはあまりに惜しいことです。無論教員採用試験の対策としても大いに意味がありますが、そうしたこと以上に、身の回りの問題を正しく把握し、一つ一つ正しい手順で根拠をもって論理的に考え進める力を身につけるには数学という知性が不可欠です。数学の本来の面白さ素晴らしさを楽しみながら受講して下さることを期待します。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：山崎 英二
授業科目名： 英語 1		必修選択	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	－			
授業の到達目標及びテーマ：外国語を学ぶ意義と楽しさを理解する。基本的な英語、日常生活で用いられる実用的な英語を学び、気持ちを込めて使用できるようになる。異文化を理解し、自文化との相違点を考慮することで文化の多用性を自発的に学び、異文化を背景にする子どもと保護者を理解する姿勢を身につける。				
授業の概要：英語が実際に使われる実践場面を想定して、ロールプレイやグループ活動等を通して実用的な英語表現を学んでいく。また異文化をテーマにした教材を通して異文化を理解し、母文化との相違点を考慮することで、文化の多様性について学ぶ。できる限り教育現場に即した会話を想定する。				
授業計画				
第1回：Course schedule and introduction / Meaning of learning English 英語を学ぶ意義				
第2回：Basic knowledge of English learning / 英語学習の基本的知識				
第3回：Cross-cultural understanding：What is culture？Culture related issues 文化とは				
第4回：Expressing foreign cultural features 異文化の理解				
第5回：Expressing Japanese cultural concepts. 自文化の再認識				
第6回：Environmental Issues：Environmental dangers and solutions 環境問題について				
第7回：A trend of educational policy in japan and nutrition education 食育について				
第8回：Introduction to Nutrition in English 栄養について				
第9回：Learn nutrition reviews：Dietary life and Environment 栄養と生活習慣				
第10回：Health and medical Issues：social environment 健康と医療について				
第11回：Injuries and Illness 疾病と負傷について				
第12回：Prevention is better than cure：Ways to keep healthy 予防と治療、健康維持				
第13回：How do we explain our symptoms？ 症状を説明する				
第14回：Close to children’s feeling 子どもの気持ちに寄り添う				
第15回：Course conclusion and revision of all major areas examined throughout まとめ				
定期試験				
テキスト：授業で指示する。				
参考書・参考資料等：『Communication：East and West』カール・ビーカー著 (英宝社) 『臨床看護英語』二木久恵、助川尚子 著 (医学書院)				
学生に対する評価：プレゼンテーション (30%)、チェックテスト (30%)、定期試験 (40%)				
履修上の注意・メッセージ：日常生活で用いられる英語の学びや異文化をテーマにした英語表現を通して、子どもたちに何を伝えるべきかを考える機会にしてください。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：川瀬 一弥
授業科目名： 現代社会		必修選択	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	－			
授業の到達目標及びテーマ： 現代の社会を正しく把握することにつとめ、教育に期待されるもの、教育に求められるもの、教育の果たす役割を、現代という時間軸を通して理解するとともに、そこから現代社会においてあるべき教育者、求められる教育とは何か考えてみたい。				
授業の概要： 現代社会における様々な課題に対して、正確な認識に基づいて対処改善するために必要な視野を獲得、育成する方法を考察する。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション 話し合い活動（「教員」についての職業観、聖職者とは）				
第2回：少子化				
第3回：高齢化				
第4回：情報化（メディア化）				
第5回：環境教育				
第6回：国際化と教育				
第7回：教育における「能力」とは				
第8回：日本における「職能教育」				
第9回：科学と私たち ①身体論と生命倫理				
第10回：科学と私たち ②Society5.0				
第11回：公立学校と私立学校				
第12回：学校外での学び（塾、予備校等）				
第13回：海外の学校				
第14回：教員不足の背景 話し合い活動（人材確保と教育の質と）				
第15回：学歴と学校歴				
定期試験				
テキスト：				
「未来の年表」河合雅司（講談社）				
参考書・参考資料等：				
授業中に指示、紹介する。				
学生に対する評価：				
授業ごとの振り返り（質問用紙の提出 40％）、定期試験（60％）				
履修上の注意・メッセージ： 極力、一方的な情報・知識の伝達に終始することなく、双方向的なそして発展的な授業を目指して行こうと考えています。一人ひとりが互いの意見や考えからスパークできる思考回路の構築に至れば幸いです。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：香取 利彦
授業科目名：日本史1		必修選択	2単位(30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	-			
授業の到達目標及びテーマ： 歴史の基本的な考察方法を理解するとともに、主題を設定して追求する学習や地域社会にかかわる学習などを通じて、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。				
授業の概要： 歴史学とは、「いま」の生活を起点にして過去と対話することです。自分自身の「現在」と向き合い、教科書や授業で扱われてきた歴史上の事実以外に存在する多くの事実視野をあてながら、さまざまな視点を育てていく機会を提供する。(原始・古代～近世)				
授業計画 第1回：日本文化のあけぼの 第2回：律令国家の形成 第3回：貴族政治と国風文化 第4回：中世社会の成立：院政と平氏の台頭・鎌倉幕府の成立 第5回：中世社会の成立：武士の社会・蒙古襲来と幕府の衰退・鎌倉文化 第6回：武家社会の成長：室町幕府の成立・幕府の衰退と庶民の台頭 第7回：武家社会の成長：戦国大名の登場 第8回：幕藩体制の確立：織豊政権・桃山文化 第9回：幕藩体制の確立：幕藩体制の成立 第10回：幕藩体制の展開：幕政の安定 第11回：幕藩体制の展開：経済の衰退・元禄文化 第12回：幕藩体制の動揺：幕政の改革 第13回：幕藩体制の動揺：幕府の衰退・化政文化 第14回：史実と史観について 第15回：原始・古代から近世までの振り返りとまとめ 定期試験				
テキスト 木村茂光・小山俊樹・戸部良一・深谷幸治編『大学で学ぶ日本の歴史』（吉川弘文堂）				
参考書・参考資料等 詳説日本史図録編集委員会編『詳説日本史図録』（山川出版社）				
学生に対する評価 定期試験：50％ 授業時の小課題：50％				
履修上の注意・メッセージ： 特になし				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：高山 英己
授業科目名： 理科演習		必修選択	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	－			
授業の到達目標及びテーマ：小学校理科の「A物質・エネルギー」領域の教材を中心に理解をし、安全な観察や実験の実施に必要な知識及び技能を習得する。				
授業の概要：小学校教員として、理科の授業を行う際に身につけておくべき理科の見方、考え方について実際に実験器具を使用し、実験器具の取り扱い方を学ぶ。実習・実験を中心とした演習である。受講人数等により、授業内容・教材を変更する場合がある。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション、「観察・実験の準備」				
第2回：実習 基礎的な実験観察器具の使用法①（「測定の仕方」）				
第3回：実習 基礎的な実験観察器具の使用法②（「ガラス器具・加熱器具の取り扱い方」）				
第4回：実験「スライムを作ろう」				
第5回：実験「スーパーボールを作ろう」				
第6回：実験「人工イクラを作ろう」				
第7回：実験「葉脈標本を作ろう」				
第8回：実験「振り子の運動」				
第9回：実験「てこのはたらき」				
第10回：実験「簡易分光器を使って光を観察しよう」				
第11回：実験「空気と水」・「ペットボトル空気砲」・「空気砲」				
第12回：実験「電流・磁石の性質」				
第13回：実験「物の溶け方・水溶液の性質」				
第14回：実験「線香花火を作ろう」				
第15回：理科実験における事故の事例と留意点・指導例の考察				
定期試験				
テキスト：必要に応じて授業中に紹介				
参考書・参考資料等：				
「小学校理科の観察，実験の手引き」文部科学省				
「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省				
学生に対する評価：				
授業のリアクションペーパー（10％）、実習・実験レポート（50％）、定期試験（40％）				
履修上の注意・メッセージ：理科の授業において、「観察・実験」は必要不可欠です。この講義を通して、基本的な実験技術を身につけてもらいたい。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小原 豊
授業科目名： I C T活用演習 1		必修選択	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	-			
授業の到達目標及びテーマ：				
ICT活用の演習を通して令和の日本型学校教育を具体的に拡充する方法を学ぶことを目標とする。				
授業の概要：				
タブレットやモバイルなどのハンズオン型機器やデジタル教科書や電子黒板での指導法，LMSによる統合型校務支援など，日々刷新される様々な情報通信技術を用いた学校教育の在り方を理解することで，個別最適な学びと協働的な学びを実現するICT活用とその評価方法を習得する。				
授業計画				
第1回： ICT活用の基盤とその社会的要請（国内外の教育改革の動向とSTEM教育の理念）				
第2回：情報通信技術の歴史的変遷とマルチメディアによる教育改革				
第3回：校務の情報化と統合型校務支援システム（LMSによるデータ共有と処理）				
第4回：オンライン教育と情報モラル（ブレンデッド授業と行動規範）				
第5回：児童のICT活用の修得に関する指導（1）アンブラグドプログラミング				
第6回：児童のICT活用の修得に関する指導（2）ビジュアルプログラミング（Scratchによる教材制作）				
第7回：教員のICT活用による指導の充実（1）デジタル教科書の特徴と使用法				
第8回：教員のICT活用による指導の充実（2）電子黒板の特徴と使用法（基本スキルと授業設計）				
第9回：教員のICT活用による指導の充実（3）教育用ソフトの特徴と使用法（教科用の動的コンテンツ制作）				
第10回：教員のICT活用による指導の充実（4）プログラミング的思考とIoT（評価とクラウド共有）				
第11回：教員のICT活用による指導の充実（5）授業支援クラウドの特徴と使用法				
第12回：教員のICT活用による指導の充実（6）グループウェアソフトでの対面型指導1 ロイロノート				
第13回：教員のICT活用による指導の充実（7）グループウェアソフトでの対面型指導2 ミライシード				
第14回：教員のICT活用による指導の充実（8）タンジブル教材とビジュアルプログラミング（Scratch）				
第15回：ICT活用に関する理論と実践の総括（VR/ARの教育利用と未来の学び）				
定期試験				
テキスト：				
小原豊、北島茂樹(2024)『未来を拓くICT教育の理論と実践』（東洋館出版）				
参考書・参考資料等： 授業毎に必要な応じた参考資料プリントを適宜配布する。				
学生に対する評価：				
定期試験60％，授業レポート40％を総合的に判定しつつ評価する。				
履修上の注意・メッセージ：				
最新のICT機器を用いた演習型授業を相互実践・分析・評価しつつ行います。授業で用いた実際のICT機器やアプリケーションを用いて予習・復習を行うことを推奨します。ICT活用の可能性と面白さを楽しみながら深く学びつつ受講して下さることを期待します。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：田中 正雄
授業科目名： 声楽		必修選択	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	-			
授業の到達目標及びテーマ：小学校教諭として必要な声楽の技術、表現力を習得するとともに、歌唱指導との関連を考えながら実践に生かせるようにする。				
授業の概要：小・中学校の歌唱共通教材を中心に、実践に相応しい歌唱表現を学ぶとともに、児童が他者と声を合わせて歌う喜び、表現する喜びを感じられるような指導法を探る。				
授業計画 第1回：発声法①（姿勢・呼吸・響きについて、ハミング唱法） 第2回：発声法②（母音の作り方、フレージング、アーティキュレーションの表現等） 第3回：母音唱、レガート唱法（コンコーネ50番を用いて） 第4回：小学校歌唱共通教材（低学年）の歌い方と指導法 第5回：小学校歌唱共通教材（中学年）の歌い方と指導法 第6回：小学校歌唱共通教材（高学年）の歌い方と指導法 第7回：中学校歌唱共通教材（1年）の歌い方と指導法 第8回：中学校歌唱共通教材（2・3年）の歌い方と指導法 第9回：中間発表会（歌唱共通教材から1曲を選んで発表する） 第10回：さまざまな声楽曲の歌い方と指導法①（独唱曲、重唱曲） 第11回：さまざまな声楽曲の歌い方と指導法②（外国語歌曲、合唱曲） 第12回：さまざまな声楽曲の歌い方と指導法③（ポピュラー歌曲、ア・カペラ等） 第13回：混声三部合唱曲の歌い方、合唱指揮法① 第14回：独唱曲の取り組み① 第15回：独唱曲の取り組み②、発声法の重要な点についてのまとめ 定期試験				
テキスト：新・声楽指導教本（教育芸術社） 改訂版 最新 初等科音楽教育法2017年告示「小学校学習指導要領」準拠（音楽之友社）				
参考書・参考資料等： 担当教員が配布する資料、楽譜				
学生に対する評価： 実技（中間発表会20%、定期試験30%）と、日頃の授業への取り組み（50%）				
履修上の注意・メッセージ：よい歌唱指導のためには、まず自分自身がよい歌い手となる必要があります。歌うことの喜びはもちろん、「歌を学ぶこと」とは何かを考えながら一緒に授業を考えていきましょう。				

児童科初等課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：酒井修子、田中正雄、他
授業科目名：教育インターンシップ1		自由選択	1単位(30時間)	形態：複数／実技
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	－			
授業の到達目標及びテーマ：学校現場における様々な職務内容に触れ、教職の補助的体験を通して、教員に求められる知識や技能を理解するとともに、実践的指導力の基礎を身に付ける。				
授業の概要：教育インターンシップ1では、以下のような内容が考えられる。 1. 運動会等の学校行事や宿泊体験学習引率等、比較的短期間のボランティア活動を通し、教育活動を進めることの重要性を認識し、その意義を理解する。 2. 週1回2～4時間程度学校現場に通い、授業補助や教科外の様々な活動を通して児童と直接関わり、学校の教育活動について理解を深める。 終了時に実践とリフレクションの内容をまとめ、報告会にて発表する。				
授業計画 第1回：オリエンテーション、インターンシップの進め方についてのガイダンス 第2回～第14回 研修場所でのインターンシップ実践（学校での授業観察、教育活動体験、学校行事ボランティア活動等）とリフレクション 第15回：インターンシップ報告会				
テキスト：特になし				
参考書・参考資料等：授業の中で適宜配布する				
学生に対する評価：ガイダンスおよび報告会（30％）、活動の記録（50％）、レポート（20％） なお、終了時に60時間の活動を証明する書類を提出すること。				
履修上の注意・メッセージ：履修にあたっては、事前に活動計画書を作成の上、担当教員と面談を行う。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：吉田 浩幸
授業科目名：日本国憲法		必修	2単位(30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
科目に含めることが必要な事項	日本国憲法			
授業の到達目標及びテーマ：				
市民的教養としての憲法にかかる基本的な知識を習得した上で、その知識に基づいて今日の社会で生じているさまざまな問題について憲法の観点から分析し、日本国憲法の規範と解釈を通した課題の設定と解決方法の模索ができるようになる。				
授業の概要：				
日本国憲法が立脚する諸原理と憲法が保障する基本的人権についての基本的な知識の習得のため、日本国憲法の条文や学説・判例を学ぶとともに、具体的な事例について考察する。				
授業計画				
第1回：ガイダンス				
第2回：個人の尊厳と基本的人権のスタイル				
第3回：子どもの権利・教師の権利・私人間効力				
第4回：法の下での平等				
第5回：思想・良心・信教の自由				
第6回：表現の自由				
第7回：学問の自由と教育を受ける権利				
第8回：経済的自由、生存権、労働権、労働基本権				
第9回：刑事事件で保障される権利				
第10回：国民主権と参政権				
第11回：平和主義				
第12回：立法・行政・司法				
第13回：地方自治と財政				
第14回：憲法の思想と歴史				
第15回：日本国憲法の理念と基本的人権についての振り返り（授業のまとめ）				
定期試験				
テキスト：				
西原博史・斎藤一久編著『教職課程のための憲法入門[第3版]』弘文堂（2024年）				
参考書・参考資料等：				
授業中に適宜紹介する。毎朝の新聞購読を推奨する。				
学生に対する評価：				
定期試験(60%)及び授業での課題等(40%)を総合して評価する。				
履修上の注意・メッセージ：日本国憲法が教員免許状取得の必修科目として設定されているのはなぜか、その意味を考えながら学びを進めていきましょう。日常的に、新聞などを通して国内外の動き（政治・経済・社会・文化）を把握しておくことが重要です。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：安富 直樹
授業科目名： 情報機器の操作		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
科目に含めることが必要な事項	数理、データ活用人工知能に関する科目または情報機器の操作			
授業の到達目標及びテーマ： 実際のパソコン操作を通し、コンピュータ全般に対する基礎的な知識を得るとともに、ポスターや掲示物など園児への視覚情報支援方法を身につける。 教育の現場で利活用される情報機器や授業支援ソフト等の操作方法を積極的に身につける。				
授業の概要： 授業支援ソフト（ロイロノート・スクール）を活用し、授業におけるデジタル教材操作等に慣れる。 Windows、Word、Excel、PowerPointを使い、あらゆる場面に適したコンピュータの操作方法を習得する。				
授業計画 第1回：Windowsの基本操作、ファイル操作、ソフトのインストール、プログラム体験（editorとhtml） 第2回：Google Classroom、Google drive、ロイロノート・スクール操作の基本 第3回：Word(1) 基本操作、書式設定 第4回：Word(2) 表の作成 第5回：Word(3) 図の利用 第6回：Wordを使った教材づくり（例：おたよりづくりや年中行事に合わせたポスターづくり） 第7回：PowerPoint(1) 基本操作、プレゼンテーションの基本 第8回：PowerPoint(2) 表、図の利用のための 第9回：PowerPoint(3) アニメーション 第10回：PowerPointを使った教材づくり（例：よみきかせのスライド、パワポビデオづくり） 第11回：Excel(1) 基本操作、様々な関数、教育におけるデータ活用・分析 第12回：Excel(2) 表の書式、便利なExcelをWordのように文書づくりに使う 第13回：Excel(3) グラフの作成 第14回：Excel(4) データベース機能 第15回：Excelを使った資料作成（例：園児の名簿や日々の記録）、情報機器操作のまとめ 定期試験				
テキスト： 「30時間アカデミック Office2021 Windows 11対応」杉本くみ子・吉田栄子 著（実教出版）				
参考書・参考資料等：教育の情報化に関する手引き 生成AIの利用について （文科省HP資料） https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/056/gijigaiyou/attach/1259389.htm https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_02412.html 必要な資料等は授業内で配付する。				
学生に対する評価： 授業中の課題作成・活動の振り返り(30%)、定期試験(70%)を総合的に評価する。				
履修上の注意・メッセージ： 各自Windows PCを用意し、学校から配付されるOffice365をあらかじめインストールしておくこと。このPCを毎回利用するため、バッテリーを充電した上で、必ず持参すること。（スマートフォンでの作業は原則認めない。）ロイロノートやClassroomを使うため、いつでもログインできるようにしておくこと。 配付物は、ファイリングし、いつでも参照できるようにしておくこと。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：KIEFER ADAM RILEY
授業科目名：英語コミュニケーション2		必修選択	2単位（30時間）	形態：単独　／　演習
科　　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
科目に含めることが必要な事項	外国語コミュニケーション			
授業の到達目標及びテーマ：				
1.　学生の英語に対する理解を深め、実践的なコミュニケーション能力を向上させる。 2.　子どもたちや保護者、同僚とのコミュニケーションや、幼児向けの簡単で楽しい英語活動を作成する際に、保育の現場で英語を効果的に活用する方法について考える機会を提供する。				
授業の概要：				
本授業では、基本的な文法の学習や会話の聞き取りと分析、実際のコミュニケーションを模した活動を通して、学生の英語に対する理解と実践的な運用能力を向上させることを目指します。また、保育現場で英語をどのように活用できるかについて考察し、子どもたちとのコミュニケーションや保護者、同僚とのやり取り、さらには子どもたちを引きつける英語活動をどのように作成するかを探求します。ディスカッションや実践的な活動を通じて、英語力を高めるとともに、保育現場での英語の効果的な活用方法を理解し、実践的なスキルを身につけます。				
授業計画				
第1回:コースガイダンス・自己紹介・目標設定				
第2回:Be　動詞: Talking about people: Is this your wife?				
第3回:形容詞と強調副詞　It's Really Hot!				
第4回:現在進行形: What is he doing?				
第5回:現在形: My Routine / How often do you...?				
第6回:過去形: I Went to Singapore.				
第7回:プロジェクト第　1　準備				
第8回:プロジェクト第　1　発表				
第9回:前置詞　1: I'm Still at the Office.				
第　10　回:前置詞　2 Let's Meet at Shinjuku Station				
第11　回:未来形:　Is it Going to Be Hot Tomorrow?				
第12　回:命令形: I Can't read the Instructions.				
第13　回:　プロジェクト第　2　準備				
第14　回:プロジェクト第　2　発表				
第15　回:コース総復習　－　これまでに学習した文法、語彙、主要なポイントを振り返り、理解を深める。				
定期試験				
テキスト：				
教師が提供する教材				
参考書・参考資料等：				
授業中に指示する				
学生に対する評価：				
プロジェクト(40%)　、ワークシート(20%)、試験(40%)				
履修上の注意・メッセージ：				
積極的に授業に参加し、お互いに支え合いながら学習を進めましょう。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：今枝 弘三
授業科目名：教育原理		必修	2単位(30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想			
授業の到達目標及びテーマ： ① 教育の基本概念を理解し、現代社会における教育の意義を理解している。 現代の教育理念の前提にある教育の歴史と思想を理解している。				
授業の概要： 教育とは何かについて深い思索と議論をする。それとともに教育の基礎概念を身につける。また、教育の思想について、それと密接なつながりを持つ歴史とともに大きな見通しをつかむ。講義形式の中でグループでの演習を実施する。				
授業計画 第1回：授業内容、授業形式、試験、課題等についての説明。教育職員免許法施行規則およびコアカリキュラムの確認。GWTによる人間関係づくり。 第2回：教育とは何か①。個人の発達の見点から。 第3回：教育とは何か②。社会の進化の見点から。 第4回：学校とは何か。近代学校システムの特質と現代社会。 第5回：カリキュラムと評価について。学習指導要領の位置づけ。 第6回：教育の方法と技術 第7回：道德教育の変遷について 第8回：西洋における教育の歴史 第9回：西洋における教育思想(古代から中世)。 第10回：西洋における教育思想(近代①) 第11回：西洋における教育思想(近代②) 第12回：日本における教育の歴史 第13回：日本における教育の思想 第14回：教育に関する法規の確認。教育に関する国際調査。OECDeducation2030。 第15回：教育の基礎概念、教育の歴史および思想についてのまとめ 定期試験 テキスト： 毎回の授業時に資料を配布またはGoogle classroom にアップロードします。				
参考書・参考資料等： 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」				
学生に対する評価： 定期試験80%、授業時の課題等20%で評価する。				
履修上の注意・メッセージ： 特になし				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：遠藤 明子
授業科目名： 教師・保育者論		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)			
授業の到達目標及びテーマ：				
保育者としての資質及び役割を理解した上で、保育者・教師の在り方について、理論・実践を交えて考える力を身に着ける。多職種連携を含むチーム保育・教育の意義を学び協働への意識を高める。				
授業の概要：保育士及び幼稚園教諭の実際と課題について考える。子どもを理解するということはどういうことなのか、子どもとどのように接すればよいのかなど具体的に学ぶことを通し、保育者としての資質及び役割を理解し、その在り方について仲間と共に考える。				
授業計画				
第1回：ガイダンス 「保育者」になるということ				
第2回：現代社会における保育・教育の意義について				
第3回：保育者の一日 ～具体的な子どもと保育者の姿を通して～				
第4回：子どもの思いや育ちを理解する ～子ども理解とは～				
第5回：子どもと一緒に心と体を動かす① 乳児の保育				
第6回：子どもと一緒に心と体を動かす② 幼児の保育（保育園・幼稚園）				
第7回：豊かな文化や自然との出会い ～遊びを通して育つ子どもたち～				
第8回：子どもの育ちを支える環境（安全衛生・文化・食育など）				
第9回： 保護者・家庭・地域と一緒に歩む				
第10回：多様な子どもたちの姿への対応① ～特別の支援を要する子供たち～				
第11回：多様な子どもたちの姿への対応② ～養育・教育相談と保護者支援～				
第12回：チーム保育・協働への道のり グループワーク①				
第13回：学びと省察 ～現場保育士の悩みを通して～ グループワーク②				
第14回：保育者の専門性とは グループワーク③				
第15回：まとめ ～私が目指す保育者像～				
定期試験				
テキスト：				
「新しい保育講座2 保育者論」 汐見稔幸 大豆生田啓友 編著（ミネルヴァ書房）				
参考書・参考資料等：				
「保育所保育指針」厚生労働省 「幼稚園教育要領」文部科学省				
「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」内閣府				
学生に対する評価：				
定期試験（60％）課題・レポート（20％）授業への参加態度（20％）				
履修上の注意・メッセージ：				
保育者として子どもの育ちを支える仕事の意義を学びながら、自分自身の価値を見出し、向上することを目指して学習に取り組んでくださることを期待します。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：宮城 哲
授業科目名： 教育法規		必修	2単位（30時間）	形態：単独　／　講義
科　　目	教育の基礎的理解に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			
授業の到達目標及びテーマ：				
教育に関わる法令・通知等について体系的に理解し、教育者としての基礎的知識を身につける。				
授業の概要：				
教育法規（教育にまつわるあらゆる人びと・物・構造などを示した約束事の体系）を具体的な法令・通知等にふれながら理解し、また、教育現場の具体的な事例などにも沿って学んでゆく。				
授業計画				
第1回：教育法規の体系				
第2回：学校教育の原理（教育の機会均等、公共性、中立性、無償性）				
第3回：学校の種類と目的（学校とは、種類、目的と目標）				
第4回：学校の設置・管理				
第5回：学校の組織と運営（組織編成、教育課程、教科書および教材）				
第6回：就学をめぐる問題Ⅰ（就学義務とその猶予・免除、就学の援助）				
第7回：就学をめぐる問題Ⅱ（入学と卒業、学校における事故、人権問題）				
第8回：教員養成（教員の資格・免許、養成制度、任用）				
第9回：教職員の職務と責任（職務、研修、職員会議）				
第10回：教職員の勤務条件、身分保障と服務				
第11回：教育行政の原理（教育基本法と教育行政、組織原理）				
第12回：教育行政のしくみ（教育委員会、文部科学省、審議会、調査会）				
第13回：教育行政の領域と作用（人事行政、指導助言と指揮監督）				
第14回：その他の法令、質疑応答				
第15回：講義のまとめ（現代の教育改革と教育法規について）				
定期試験				
テキスト：				
石井拓児ほか編『教育小六法　2025年版』（学陽書房）				
参考書・参考資料等：				
関連する資料・文献などは授業時に配布・指示する。				
学生に対する評価：				
定期試験（70％）の結果と小テスト・提出物など（30％）を総合的に勘案して評価する。				
履修上の注意・メッセージ：				
特になし。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小林 久美
授業科目名： 学校安全		必修	2単位（30時間）	形態：単独　／　講義
科　　目	教育の基礎的理解に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			
授業の到達目標及びテーマ：				
学校安全および学校の危機管理に関する基礎的内容を理解し、迅速に対応できる力や関係者と協働して組織的に適切な対応が取れるように基本的な危機対応能力を身につける。				
授業の概要：				
学校を取り巻く様々な危機的事態を未然に防ぎ、直面した際は適切な対応ができるよう基礎的な知識を学習する。学校と家庭および地域と連携を図りながら子どもの健康と安全を守れるよう、安全教育と安全管理について理解を深める。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション・学校安全とは				
第2回：学校安全総論1（学校管理下の災害の実態）				
第3回：学校安全総論2（学校安全の構造と領域、安全計画）				
第4回：学校安全総論3（危機管理の考え方と危機管理マニュアル）				
第5回：安全管理（対物管理と対人管理）				
第6回：安全教育1（教育課程における安全教育）				
第7回：安全教育2（安全教育の展開）				
第8回：安全教育と安全管理における組織活動				
第9回：学校安全の進め方1（運動中・遊具の事故）				
第10回：学校安全の進め方2（園外での事故）				
第11回：学校安全の進め方3（防犯・不審者対応）				
第12回：学校安全の進め方4（災害と心のケア）				
第13回：学校安全において留意すべき課題と予防・対応策				
第14回：学校安全において留意すべき課題と予防・対応策（発表）				
第15回：学校安全・危機管理の振り返り				
定期試験				
テキスト： 適宜、資料を配布する。				
参考書・参考資料等： 「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育 文部科学省 保育・教育施設の重大事故予防 完全ガイドブック 実例で学ぶ！安全計画の立て方から園内研修、事故対応まで 浅井 拓久也著(翔泳社)等				
学生に対する評価：				
定期試験（60％）と、授業態度や課題提出及び発表（40％）の総合判定により評価する。				
履修上の注意・メッセージ： 事前に『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』をダウンロードしてください。 。実践力が身につくよう、ディスカッション、グループワークなど演習を中心に進めていきますので、積極的な授業参加を期待しています。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小林 祥子
授業科目名： 教育課程及び保育の計画と評価		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			
授業の到達目標及びテーマ：乳幼児教育において教育課程・全体的な計画が有する役割・機能・意義を理解する。また、教育課程・全体的な計画の編成の基本原理及び幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園教育保育要領の教育・保育実践に即した教育課程・全体的な計画の編成の方法を学ぶ。保育の内容や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえカリキュラムを編成し、幼稚園教育課程・保育の過程における全体的な計画をマネジメントすることの意義を理解する。				
授業の概要：テキストや3法令等を読み進めながら教育課程・全体的な計画の役割・機能・意義を理解する。また実際の園生活の流れや子どもの様子を観察及びDVD視聴し、カリキュラムに照らしながら、教育課程・年間計画・期案・月案・週案・日案等を編成・作成する方法と、PDCAサイクル（計画・実践・評価・改善の循環）の意味や保育の質の向上における重要性を理解する。				
授業計画				
第1回：幼稚園・保育所・認定こども園の生活と乳幼児 ー乳幼児の発達や園生活の流れからカリキュラムの基礎と学びの特徴を理解する				
第2回：教育課程と全体的な計画 ー育てたい子ども像と教育・保育目標、方針、内容等とのつながりを理解する				
第3回：幼稚園教育要領の歴史的変遷と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領 ー明治期から現在までの教育課程の流れを日本の社会的背景における子ども観を通し理解する				
第4回：幼稚園の教育課程・指導計画 ー学校教育法に基づく幼稚園の教育課程について編成事例を通し理解する				
第5回：保育所、幼保連携型認定こども園等の全体的な計画・指導計画の関係性と保育の評価 ー保育所等の全体的な計画と評価について指針等の内容や事例を通し理解する				
第6回：幼児期に育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 ー乳幼児期から就学後の学校生活を通して基本となる子どもの姿を共有していくことの必要性を理解する				
第7回：子どもの発達過程と保育内容、保育方法と教育課程・全体的な計画 ー乳児、1歳以上3歳未満児、幼児の子どもの育ちの姿から保育内容・方法・柔軟な展開について理解する				
第8回：長期の指導計画の作成一年間・期・月の指導計画の事例を検討し、その内容と作成方法を理解する				
第9回：短期の指導計画の作成一週案・日案・活動案の事例を検討し、その内容と作成方法を理解する				
第10回：教育課程・全体的な計画の編成と指導計画の具体化 ー季節毎の行事、自然、暦等を保育内容（五領域）や遊びに繋げて調べ作成したポートフォリオを発表				
第11回：指導計画の作成（部分指導計画）ー製作・ゲーム等の模擬保育を参考にして部分指導計画を作成する				
第12回：指導計画の実践と振り返りー部分指導計画の一部を実践し振り返りを通じて自己の課題を見つける				
第13回：指導計画の作成（全日指導計画）ー幼稚園での保育参観を参考にして一日の指導計画を立案する				
第14回：個別の指導計画の事例検討（個別、長時間保育の指導計画）ー乳児、1歳以上3歳未満児、障害のある子ども等、個別の指導計画について事例を通し理解する／長時間保育の指導計画の留意点について理解する				
第15回：PDCAサイクル（保育の評価と記録）とカリキュラム・マネジメント、指導要録の書き方 ー様々な記録方法を知り、保育の質向上を図るPDCAサイクルについて理解する				
定期試験				
テキスト：千葉武夫・那須伸樹編『教育・保育カリキュラム論』中央法規、2019年				
参考書・参考資料等：文部科学省『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』その他、授業中に提示する。				
学生に対する評価：参加態度（10％）、提出物等（40％）、定期試験（50％）により総合的に評価。				
履修上の注意・メッセージ：テキスト・参考書・プリント等を使用して授業を行うので、メモを取りながら受講すること。個々で本教科のファイルを作成し、配付されたプリント等は全て綴じておくこと。毎回ではないがPCにデータを送付したり、PCを使用して記録を作成することもある。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：中島 朋紀
授業科目名： 教育方法論		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）			
授業の到達目標及びテーマ： 1. 教育方法の目的・機能性を理解し、実践的な教育指導に関する具体的な指導技術を身につける。 2. 教育要領・保育所保育指針等に関する基礎的な知識・重点事項を修得し、指導案が作成できる。 3. 教育方法・技術におけるICT活用について知り、自身で応用・活用することができる。				
授業の概要： 子どもの実態・理解及び教育環境を踏まえながら、教育の方法に関する基礎的な理論や技術を学び、そして保育・教育実践におけるICT機器等の活用や在り方などについても学ぶ。教育方法をめぐる理論的な課題や実践的な課題などを考察することを通して、授業展開能力の育成を目指すとともに、指導案作成や現場での教材の活用の検討などについても行う。そして情報化時代における教育の可能性についても考える				
授業計画 第1回：教えることと学ぶことの関係性について 第2回：教育方法の歴史と変遷 第3回：子どもを生かす学び、学習の展開について 第4回：教材・素材と教材研究についてー学びづくりの手がかりー 第5回：教育要領・保育所保育指針（こども園教育・保育要領）と教育方法について 第6回：教育内容の構造化ー指導計画と指導案作成の関連ー 第7回：教育技術としての指導言 第8回：教育方法と評価活動ー目的と役割ー 第9回：情報化と教育方法ー生活と教育現場の変化・情報活用能力ー 第10回：情報化時代の教育ーデジタル教材、ICT活用とその可能性ー 第11回：保育計画・指導案の作成1：指導計画作りと教材研究 第12回：保育計画・指導案の作成2：教材研究と保育実践の立案 第13回：模擬保育実践1：グループ実践と反省・質疑応答 第14回：模擬保育実践2：グループ実践と全体討議（授業構想、改善点について） 第15回：教育方法の課題と今後の方向ー指導方法の問題点と工夫・改善ー				
定期試験				
テキスト：幼稚園教育要領（平成29年3月告示） 文部科学省 東山書房 保育所保育指針（平成29年告示） 厚生労働省 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示） 内閣府 フレーベル館				
参考書・参考資料等： 配付資料・プリント（授業時の指示）				
学生に対する評価： レポート課題・演習・発表等の評価60%、定期試験40%を踏まえ総合的に評価する。				
履修上の注意・メッセージ： ・学ぶこと、教えることについて問い直し、子どもを生かす教材研究や環境構成に取り組むことができる。 ・保育者に求められる教材研究や環境構成、指導力を身につける。 ・学習理論について理解し、保育実践への適用・応用を考える。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：橋本 樹
授業科目名： 幼児と健康		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項			
授業の到達目標及びテーマ： 領域「健康」の目標である「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことを、様々な活動を通して、子ども一人ひとりが健康な心と体に育つよう援助できるようになる。				
授業の概要： 領域「健康」の目標を達成するために必要な知識、方法、意識などを、実践的・具体的に考え、保育実践における適切な指導のあり方を学ぶ。				
授業計画 第1回：ガイダンス・子どもの健康とは 第2回：領域「健康」とは 第3回：子どもの身体発育と健康 第4回：子どもの心の発達と健康 第5回：子どもの生活と健康 第6回：基本的生活習慣の獲得 第7回：基本的生活習慣の指導と援助 第8回：0～2歳の発育を促す運動遊び 第9回：3～6歳の発育を促す運動遊び 第10回：食育と子どもの健康 第11回：子どもの病気 第12回：子どものけが 第13回：安全に対する意識 第14回：健康指導の計画・評価 第15回：就学前に育むこと 定期試験				
テキスト： 『新版 実践 保育内容シリーズ①健康』谷田貝公昭 監修 一藝社				
参考書・参考資料等： 「保育所保育指針」厚生労働省「幼稚園教育要領」文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府				
学生に対する評価： 授業への参加態度(10%)、課題・レポート・演習内容(30%)、定期試験(60%)				
履修上の注意・メッセージ： 授業は、全回きちんと受けましょう。私語・飲食・携帯の使用・居眠り・途中退出は厳禁。身支度を整えて受講すること。課題は必ず全て出しましょう。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：渡邊 志津子
授業科目名： 幼児と人間関係		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項			
授業の到達目標及びテーマ： 1．乳幼児期を通じた人間関係の発達を理解する。 2． 幼児期の特性をふまえた幼稚園教育の内容的、方法的特質を理解したうえで、領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。指導法を学ぶ際の知識基盤の確立を目指す。				
授業の概要： 幼児の人間関係の育ちの実情を、映像や資料を通して知り、発達にふさわしい援助のありようを他の受講生との対話を通して考える。幼児を取り巻く社会の変化や教育課題、幼児期以降の子どもの育ちの連続性を意識し受講できるよう、新聞等にも日ごろから目を通しておくことが望ましい。				
授業計画 第1回：保育を見る視点（5領域の考え方） 第2回：領域「人間関係」が目指すもの 第3回：人との関わりから広がる世界（0，1，2歳） 第4回：人との関わりから広がる世界（3，4，5歳） 第5回：友達が大好きになる 第6回：道徳性・規範意識の芽生えと育ち 第7回：対話的な学び 第8回：友達と共に楽しむ一協同性の育ち 第9回：安心・安定を土台につながる子どもたち 第10回：人との関わりを支える保育者の計画 第11回：専門家としての資質向上の重要性 第12回：保育の中の多様性 第13回：多岐にわたる配慮と保育 第14回：それぞれが主体として生きる社会へ 第15回：社会環境の多様性と子どもの人間関係				
定期試験				
テキスト：「保育内容 人間関係～子どもの人との関わりと保育実践を学ぶ～」 藪中征代・近内愛子・玉瀬友美 編著（萌文書林）				
参考書・参考資料等： 「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」及び解説				
学生に対する評価： 事前学習と授業後の振り返りを含む授業課題(40%)、発表（30%）、定期試験(30%)				
履修上の注意・メッセージ：子どもの人間関係、家庭や地域をつなぎ支える保育者になるために、まずは自分と身近な他者との人間関係を見つめ直していきましょう。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：新井 貴子
授業科目名： 幼児と環境		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項			
授業の到達目標及びテーマ：（1）幼児を取り巻く環境と、幼児の発達についての意義を理解する。 （2）幼児期の思考・社会的概念の発達を理解する。（3）幼児期の標識・文字等、情報・文化との関わり の発達を理解する。				
授業の概要：領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身に付ける。 特に、幼児を取り巻く現代の環境やその課題、幼児と身近な環境との関わりや発達等、領域「環境」の指 導の基盤となる事柄について学ぶ。				
授業計画 第1回：オリエンテーション、現代の幼児を取り巻く環境①：保育における領域「環境」 第2回：現代の幼児を取り巻く環境②：環境3要素と現代の環境問題、ESD等について 第3回：現代の幼児を取り巻く環境③：幼児の発達と現代の遊び環境・幼児期の遊び環境の振り返りとマップ作 製 第4回：現代の幼児を取り巻く環境④：幼児期の遊びと自然環境 第5回：現代の幼児を取り巻く環境⑤：自然環境を取り入れた遊びと援助 第6回：幼児の身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達①：数量図形に関する遊びの実践 第7回：幼児の身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達②：廃材を利用した玩具作成 第8回：幼児の身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達③：玩具とその遊びの発表と振り返り 第9回：幼児の身近な環境との関わりにおける標識・文字等、情報・文化との関わりの発達①：学校近隣の「ま ち探検」における標識・文字等の探索、関連する玩具・教材等の調査 第10回：幼児の身近な環境との関わりにおける標識・文字等、情報・文化との関わりの発達②：「まち探検」で 得た情報、調べた内容に関するポートフォリオ作成 第11回：幼児の身近な環境との関わりにおける標識・文字等、情報・文化との関わりの発達③：子どもの生活と 文化とのかかわり 第12回：幼児の身近な環境との関わりにおける標識・文字等、情報・文化との関わりの発達④：園外保育や園行 事の意義 第13回：幼児の身近な環境との関わりにおける標識・文字等、情報・文化との関わりの発達⑤：伝承行事とのか かわりと実践 第14回：幼児の身近な環境との関わりにおける標識・文字等、情報・文化との関わりの発達⑥：行事のための児 童文化財の作成 第15回：幼児の身近な環境との関わりにおける標識・文字等、情報・文化との関わりの発達⑦：児童文化財の発 表と振り返り				
定期試験				
テキスト： 無藤隆・中坪史典・後藤範子編著『保育内容「環境」』大学図書出版、2021年				
参考書・参考資料等：「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育保育要領」、「保育所保育指 針」、「『幼稚園教育要領解説』、その他必要に応じて資料・視聴覚教材等を提示する。				
学生に対する評価： 事前学習と授業後の振り返りを含む授業課題への取り組み(70%)、定期試験(30%)				
履修上の注意・メッセージ：授業は、グループでの課題取り組みや、実践を中心として行うため、各自必要な事 前準備を怠らないように注意する。また、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。教員を目指すもの として授業に出席するだけでなく、受講者にふさわしいマナーを持って授業に参加することを求める（詳しくは 、最初の授業で説明する）。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：新井 貴子
授業科目名： 幼児と言葉		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項			
授業の到達目標及びテーマ：人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解を深める。また、幼児にとっての児童文化財の意義を理解することを目標とする。				
授業の概要：具体的な乳幼児の姿をもとに上記目標が達成されるよう、映像資料や事例を用いグループ討議やロールプレイを行う。言葉に対する感覚を豊かにする遊びを体験するとともに、言葉遊びと幼児の言葉の発達との関連を考える機会を設け、児童文化財をいかに保育に取り入れるかについて、その意義を理解し、実践に関する知識を身につける。				
授業計画				
第1回：人間にとっての「ことば」の意義と機能				
第2回：領域「言葉」のねらいと内容				
第3回：「ことば」の育つみちすじ① 0歳児				
第4回：「ことば」の育つみちすじ② 1. 2歳児				
第5回：「ことば」の育つみちすじ③ 3歳児				
第6回：「ことば」の育つみちすじ④ 4歳児				
第7回：「ことば」の育つみちすじ⑤ 5歳児、6歳児				
第8回：「ことば」を育てる遊びと児童文化財				
第9回：場面別にみる「ことば」を育むための保育者のかかわりと児童文化財① 話し合い				
第10回：場面別にみる「ことば」を育むための保育者のかかわりと児童文化財② いざこざ				
第11回：場面別にみる「ことば」を育むための保育者のかかわりと児童文化財③ ことばの障害				
第12回：保育者の「ことば」				
第13回：言葉を育てる教材の研究				
第14回：乳幼児期の「ことば」と子どもの権利				
第15回：「ことば」をめぐる課題				
定期試験				
テキスト：				
「改訂2版 実践につなぐ ことばと保育」近藤幹夫他著(ひとなる書房)				
参考書・参考資料等：「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育保育要領」、「保育所保育指針」、「『幼稚園教育要領解説』、その他必要に応じて資料・視聴覚教材等を提示する。				
学生に対する評価：				
事前学習と授業後の振り返りを含む授業課題への取り組み(70%)、定期試験(30%)				
履修上の注意・メッセージ：授業は、グループでの課題取り組みや、実践を中心として行うため、各自必要な事前準備を怠らないように注意する。また、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。教員を目指すものとして授業に出席するだけでなく、受講者にふさわしいマナーを持って授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明する）。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：若杉 友恵
授業科目名： 幼児と音楽表現		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項			
授業の到達目標及びテーマ： ・ 幼児期の音楽表現についての理解を深め、保育者としての知識・技能・表現力を身につけ、表現活動に展開させることができる。 ・ 五感を通して表現する楽しさを分析できる。				
授業の概要： 領域「表現」のねらい及び内容、内容の取扱いを基に、幼児期の音楽活動を視野に入れ、学生自身が様々な音楽表現を経験し、学生同士お互いの表現を受け止め協同的に学んでいくことにより「幼児と音楽表現」についての理解を深めていく。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション・「表現」について				
第2回：領域「表現」のねらい及び内容、内容の取扱いと幼児の音楽表現について				
第3回：歌って遊ぶ表現活動①布を用いた表現など				
第4回：歌って遊ぶ表現活動②手遊び歌、わらべうた遊び				
第5回：ダルクロワーズによる音楽教育法①即時反応による表現				
第6回：ダルクロワーズによる音楽教育法②拍と数による表現				
第7回：オルフによる音楽教育法：言葉遊びからリズム遊びへ				
第8回：児童文化財と音楽との融合について				
第9回：シェーファーによる音楽教育法①音を感じる・音で遊ぶ				
第10回：シェーファーによる音楽教育法②サウンドスケープからオノマトペを創作し歌唱				
第11回：保育者に必要とされる音楽理論について				
第12回：ことばとリズムの表現活動①テーマからグループで活動の考案				
第13回：ことばとリズムの表現活動②グループで発表のための準備				
第14回：ことばとリズムの表現活動③グループで発表				
第15回：音楽表現の振り返り（全授業のまとめ）				
定期試験				
テキスト：「表現者を育てるための保育内容音楽表現」石井玲子編著(教育情報出版)、「改訂 ポケット いっぱいのうた」鈴木恵津子、富田英也監修・編著(教育芸術社)				
参考書・参考資料等：「幼稚園教育要領」文部科学省、「保育所保育指針」厚生労働省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省、「改訂うたっておどっておもちゃ箱1」教育芸術者、その他必要に応じて授業中に参考資料を配布する。				
学生に対する評価： 授業への取り組み・表現活動（40%）、ワークシート（30%）、定期試験（課題）（30%）				
履修上の注意・メッセージ：実践を通じた表現活動が主であるため、積極的に参加し、多くの表現を経験してほしい。また、保育者を目指す者として、日頃から心で感じる経験を意識し、他者の表現にも目を向け受けとめる能力も身につけてほしい。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：岡野 友美子
授業科目名： 幼児と身体表現		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項			
授業の到達目標及びテーマ：幼児期の保育に携わる者として、子どもたちの健全な幼児期の心身の発育・発達の特徴を押さえながら、保育内容をどのように考え実践していったらよいかを学ぶ。また身体表現・運動遊びの興味や関心を大切にしたい子供たちが自ら楽しめる遊びとして、保育現場で展開するための保育者の働きかけ、援助やあり方を学ぶ。				
授業の概要：幼児教育の中で身体表現・運動あそびを通して何をねらい、何を目的とし何を育てるのか、運動機能発達の特徴を踏まえ、幼児発達の促しと自発的な遊びや表現、また道具を用いての身体表現などを中心に身体による表現を親しむことを通して「豊かな感性」と「表現力」の芽生えを養う。また、状況に応じて安全な行動がとれるように保育者としての援助・指導する力を身につける。				
授業計画				
第1回：＜幼児期の心身の発育・発達と運動あそび身体表現について＞ 保育の中での運動あそびの援助①				
第2回：保育の中での運動あそびの援助②				
第3回：表現的な遊び①（自由な表現・題材探し）				
第4回：表現的な遊び②（はう・歩く・走る・跳ぶ）				
第5回：表現的な遊び③（身体の動きでできる楽しい遊び）				
第6回：表現的な遊び④（3・4・5歳児の自由な表現）				
第7回：表現的な遊び⑤（友達と一緒にリズム遊び）				
第8回：表現的な遊び⑥（だるまさんが〇〇、鬼ごっこ）				
第9回：＜いろいろな身体表現・保育者の援助＞ 身体表現①（身体表現ジェスチャーゲーム）				
第10回：身体表現②（擬音語からの発想。オノマトペを使った身体表現ゲーム）				
第11回：身体表現③（動物体操）				
第12回：身体表現④（模倣表現・新聞紙を用いて）				
第13回：模擬授業①（指導案作成）				
第14回：模擬授業②（指導案作成・模擬練習）				
第15回：模擬授業③（模擬授業発表）				
定期試験				
テキスト：『保育の中の運動あそび』石井美晴他 萌文書林、『からだ遊び』畠山トミ 学術図書出版社、幼児と表現～保育者をめざして～大見由香・高島扶貴・二階堂あき子・富金原秀光 ㈱インプレスR&D POD出版				
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領』文部科学省、身体表現をたのしむあそび作品集 新リズム表現研究会 かもがわ出版				
学生に対する評価：				
定期試験(60%)を中心に、課題・模擬授業等（40%）の総合判定				
履修上の注意・メッセージ：講義授業の他、グループワークや実技演習、発表があります。着替えが必要な場合もありますので、その都度指示します。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：檜垣 智子
授業科目名： 保育原理		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	保育に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	保育の本質・目的に関する科目			
授業の到達目標及びテーマ：保育制度を学び、保育施設の目的と機能、保育制度の変遷について理解する。また「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づいて、子どもの発達の姿やどのようなことを大切に子どもに関わっていくのか理解する。				
授業の概要：保育に関わる法律について学び、幼稚園、保育所、認定こども園の目的と機能を知る。また「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づいて、子どもの発達の姿や子どもへの関わりについて学ぶ。さらに、保育制度の変遷と課題について考察する。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション・乳幼児期の重要性				
第2回：幼稚園教育の目的と機能				
第3回：幼稚園教育要領(1) 幼稚園教育の基本				
第4回：幼稚園教育要領(2) 教育課程の編成・領域について				
第5回：幼稚園ではなぜ自発的な活動としての遊びを重視しているのか				
第6回：子育て支援制度				
第7回：保育所保育の目的と機能				
第8回：保育所保育指針				
第9回：0歳児の発達と保育				
第10回：1歳児の発達と保育				
第11回：2歳児の発達と保育				
第12回：3歳児の発達と保育				
第13回：4歳児の発達と保育				
第14回：5歳児の発達と保育、保育制度の変遷と課題				
第15回：幼保連携型認定こども園、保育原理のまとめ				
定期試験				
テキスト： 幼稚園教育要領 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説				
参考書・参考資料等：特になし				
学生に対する評価：定期試験(レポート)(70%)と提出物(20%)と発表(10%)を総合的に判断して評価する				
履修上の注意・メッセージ：特になし				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：加藤 麻里恵
授業科目名：子ども家庭福祉		必修	2単位(30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	保育に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	保育の本質・目的に関する科目			
授業の到達目標及びテーマ：現代社会における子ども家庭福祉についての意義と歴史的変遷、制度および実施体系、現状と課題、動向と展望そして子どもの人権擁護について理解する。				
授業の概要：テキストを中心に、子ども家庭福祉の制度や歴史、関連する福祉施設・専門職等について学ぶ。また、資料や映像等を通して、子ども家庭福祉の現状を知り、課題について考察していく。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション／子ども家庭福祉とは何か（子ども家庭福祉の理念と概念）				
第2回：子ども家庭福祉の歴史的変遷				
第3回：現代社会と子ども家庭福祉				
第4回：子どもの人権擁護				
第5回：子ども家庭福祉の制度と実施体系				
第6回：児童福祉施設と子ども家庭福祉の専門職				
第7回：少子化と地域子育て支援				
第8回：母子保健と子どもの健全育成				
第9回：貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応				
第10回：子ども虐待の防止とDVへの対応				
第11回：社会的養護（施設養護・家庭養護）				
第12回：障害のある子どもへの対応、少年非行等への対応				
第13回：次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進				
第14回：地域における連携・協働とネットワーク				
第15回：子ども家庭福祉の動向と展望				
定期試験				
テキスト：「新版 よくわかる子ども家庭福祉 第2版」 吉田幸恵／山縣文治 編著 ミネルヴァ書房				
参考書・参考資料等：授業を進める中で必要に応じて紹介・提示する。				
学生に対する評価：				
定期試験50%、授業の参加状況50%（課題提出、内容充実度、発表などを含む）を総合的に判定して評価する。				
履修上の注意・メッセージ：				
履修者の積極的な授業参加を期待する。				
講義内容は配布資料やノート等に筆記すること。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：大溝 茂
授業科目名：社会福祉		必修	2単位(30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	保育に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	保育の本質・目的に関する科目			
授業の到達目標及びテーマ： 子どもを家庭福祉分野の実践領域について保育専門職として必要な社会福祉についての基本的知識及び制度・政策の概要についての知識、理解を修得できる。				
授業の概要： 社会福祉についての基本的理解を踏まえて、具体的支援と実践展開について考え、保育専門職としての理解・考察を深め、子どもの権利擁護と健やかな成長・発達への支援・援助を考えることができる。				
授業計画 第1回：社会福祉の概念について考える～社会福祉における保育実践の基本的理解～ 第2回：社会福祉発展過程についての理解～子ども家庭福祉の形成と保育の発展過程～ 第3回：社会福祉と子ども家庭福祉～子ども家庭支援と保育の社会的背景についての理解～ 第4回：社会福祉制度の概要と法体系 第5回：社会福祉行財政と実施機関・社会福祉施設等 第6回：社会福祉における専門職 第7回：社会保障等の社会福祉関連制度の概要 第8回：社会福祉実践における相談援助に関する理論 第9回：相談援助実践の意義と機能 第10回：相談援助の対象と相談援助実践の展開過程 第11回：相談援助の方法と技術 第12回：社会福祉における利用者の保護と権利擁護 第13回：少子・高齢社会における子育て支援及び保育及び障がい者支援(施策)の展開 第14回：地域福祉の推進及び地域共生社会の実現に向けた展開と理解 第15回：《まとめ》今後の社会福祉政策の展開と課題～各国の社会保障・社会福祉の動向を踏まえて～ 定期試験				
テキスト：「社会福祉」編者：松原康雄 他 《新・基本保育シリーズ(4) 中央法規出版社》				
参考書・参考資料等： 参考資料等：授業内にて随時紹介・指示する				
学生に対する評価： ◇授業態度(姿勢)等(30%) ◇定期試験(70%)				
履修上の注意・メッセージ： 1 授業に際しては必ずテキストを熟読して臨むこと 2 授業時に授業内容等に関する資料を配布する				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：加藤 麻里恵
授業科目名： 社会的養護Ⅰ		必修	2単位（30時間）	形態：単独　／　講義
科　　目	保育に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	保育の本質・目的に関する科目			
授業の到達目標及びテーマ：				
1. 社会的養護の歴史的変遷について学び、現代社会における社会的養護の意義、現状と課題について理解する。				
2. 子どもの権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。				
3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。				
授業の概要：教員による社会的養護に関する専門的な知識を深める講義を行うとともに、資料や映像等を参照しながら、具体的な事例を通して、社会的養護の現状を学ぶ。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション／社会的養護の理念と概念				
第2回：社会的養護の歴史的変遷				
第3回：子どもの権利擁護と社会的養護				
第4回：社会的養護の基本原則				
第5回：社会的養護における保育士等の倫理と責務				
第6回：社会的養護の制度と法体系				
第7回：社会的養護の仕組みと実施体系				
第8回：社会的養護の対象				
第9回：家庭養護と施設養護				
第10回：社会的養護に関わる専門職				
第11回：社会的養護に関する社会的状況				
第12回：施設等の運営管理				
第13回：被措置児童等の虐待防止				
第14回：社会的養護と地域福祉				
第15回：社会的養護の課題と展望				
定期試験				
テキスト：「実習生の日誌事例から考察する　社会的養護Ⅰ・Ⅱ」　下尾直子/雨宮由紀枝　編著　大学出版				
参考書・参考資料等：授業を進める中で必要に応じて紹介・提示する。				
学生に対する評価：定期試験50%、授業の参加状況50%（課題提出、内容充実度、発表などを含む）を総合的に判定して評価する。				
履修上の注意・メッセージ：				
履修者の積極的な授業参加を期待する。講義内容は配布資料やノート等に筆記すること。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：笠原 和子
授業科目名： 発達心理学		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	保育に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	保育の対象の理解に関する科目			
授業の到達目標及びテーマ： 保育や幼児教育を行う上で、乳幼児期を受胎から始まる人の生涯発達のなかに位置づけて理解し、日常の経験等にも照らして、子どもの発達・支援などを考えられるようにする。				
授業の概要：学校生活での発達、子どもを世話する親、祖父母、保育者、教師など子どもと関わる大人の発達、社会・文化・歴史のなかで人の生と発達とがどのように展開されているのか、その過程を見通すことで乳幼児期に何を体験し、何が育まれることが大切なのか、保育・幼児教育に求められるものを考える。				
授業計画 第1回：発達心理学とは 第2回：遺伝と環境 第3回：生涯発達の視点 第4回：胎児期・周産期 第5回：感覚・運動の発達 第6回：愛着の発達 第7回：自己と感情の発達 第8回：認知の発達 第9回：言語の発達 第10回：社会性・道徳性の発達 第11回：遊び・仲間関係の発達 第12回：学習の理論・障害と支援 第13回：心と行動の問題および児童虐待 第14回：学童期～青年期 第15回：成人期～老年期 定期試験				
テキスト： 「ベーシック発達心理学」 関一夫/齋藤慈子編(東京大学出版会)				
参考書・参考資料等： 授業中に指示する。プリントを配布する。				
学生に対する評価： 定期試験(70%)とレポート・授業のリアクションペーパー等(30%)				
履修上の注意・メッセージ： 人の発達は、様々な因子により変化します。基本的な理論をまず知り、その上で自分で考えたり、話し合ったりすることで、より理解が深まるかもしれません。いろいろなことを考えながら、学びを楽しんで下さい。しかし、授業中の私語や受講態度には厳しく対応します。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：笠原 和子
授業科目名： 子ども家庭支援の心理学		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	保育に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	保育の対象の理解に関する科目			
授業の到達目標及びテーマ：				
子どもや家庭の支援に関して、包括的に心理学的に理解する。				
授業の概要：子どもや家庭への支援に必要な基本的な知識として以下の4つの内容について学ぶ。				
1. 生涯発達 2. 家族・家庭の理解 3. 子育て家庭に関する現状と課題				
4. 子どもの精神保健とその課題				
授業計画				
第1回：生涯発達とライフサイクル				
第2回：乳幼児期から学童期前期にかけての発達				
第3回：学童期後期から青年期にかけての発達				
第4回：成人期から老年期にかけての発達				
第5回：家族・家庭の意義と機能				
第6回：親子関係・家族関係の理解				
第7回：子育ての経験と親としての育ち				
第8回：子どもと家庭の状況				
第9回：ライフコースと仕事・子育て				
第10回：多様な家庭とその理解				
第11回：特別な配慮を必要とする子どもと家庭				
第12回：なぜ子どもの精神保健を学ぶのか／確認テスト				
第13回：子どもの生活・生育環境とその影響				
第14回：子どもの心の健康に関わる問題				
第15回：子どもと家庭への支援・配慮に関するまとめ				
定期試験				
テキスト：「子ども家庭支援の心理学」原信夫・井上美鈴 編著 北樹出版				
参考書・参考資料等：				
授業中に指示する。プリントを配布する。				
学生に対する評価：				
定期試験（70％）、授業のリアクションペーパー、小レポート、発表等（30％）				
履修上の注意・メッセージ：子ども理解や家庭支援に関する現状や課題を知るためには、教科書ばかりでなく、新聞やニュース報道、保育現場での経験なども重要です。自主的に学び、授業中の発表やグループ討論にも積極的に取り組みましょう。ただし、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：橋本 樹
授業科目名： 子どもの理解と援助		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	保育に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	保育の対象の理解に関する科目			
授業の到達目標及びテーマ：				
子どもの経験や学習過程、発達段階を知る。考え得る様々な状況、環境、子どもの実態に合わせて、子どもに援助できる知識や技術を習得する。発達援助等を含めた、子ども理解の具体的な方法を理解する。				
授業の概要：				
実践の事例検討や話し合い、ワークシート等を通して、子どもの理解を深める。また、子どもにとってのより良い援助とはどのようなものなのかを考え、保育者としての知識や技術を高める。				
授業計画				
第1回：ガイダンス・子ども理解とは				
第2回：子どもの発達の理解				
第3回：子ども理解と環境理解				
第4回：子ども理解を深めるための実態把握				
第5回：子ども理解からはじまる計画と援助				
第6回：保育実践における子ども理解				
第7回：子ども理解と養護				
第8回：気になる子ども理解と援助				
第9回：障害のある子どもの理解と援助				
第10回：子ども理解と保護者理解				
第11回：子育て支援・家庭支援と子ども理解				
第12回：専門機関との子ども理解の共有				
第13回：子ども理解を深める実践と省察				
第14回：カンファレンスにおける子ども理解				
第15回：子ども理解に基づく援助から生れるもの				
定期試験				
テキスト：				
『子どもの理解と援助』谷田貝公昭 監修/大沢裕・藤田久美 編著 一藝社				
参考書・参考資料等：				
「保育所保育指針」厚生労働省「幼稚園教育要領」文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府				
学生に対する評価：				
授業への参加態度(10%)、課題・レポート・演習内容(30%)、定期試験(60%)				
履修上の注意・メッセージ：				
授業は、全回きちんと受けましょう。私語・飲食・携帯の使用・居眠り・途中退出は厳禁。身支度を整えて受講すること。課題は必ず全て出しましょう。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：高嶋 遥香
授業科目名：子どもの保健		必修	2単位(30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	保育に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	保育の対象の理解に関する科目			
授業の到達目標及びテーマ：				
保育者は、子どもの最も近くにいる大人の一人として、子どもの心と体の健康を保持・増進するためにどのような保健活動を行うべきかを理解しておく必要がある。本授業を契機として最新情報を自らキャッチしていく姿勢が定着することが望まれる。				
授業の概要：				
子どもの発育・発達について理解し、その成長過程に応じた対応についても理解を深める。子どもの心と体の変化に気づき、適切な対応ができるように、また、病気にならないための予防法等を知り、更に、保育の現場での活用を意識した理解が可能となるように、毎回レポート作成を行うことで授業内容を振り返りつつ、講義を進めていく。				
授業計画				
第1回：保健活動の意義と目的				
第2回：健康の概念と指標				
第3回：母子保健施策				
第4回：地域保健活動				
第5回：身体発育と運動機能発達				
第6回：生理機能の発達				
第7回：健康状態の観察				
第8回：発育発達の把握				
第9回：保護者との情報共有				
第10回：新生児の疾患、先天性疾患				
第11回：呼吸器、循環器等の疾患				
第12回：アレルギー、内分泌等の疾患				
第13回：脳、その他の疾患				
第14回：感染症				
第15回：疾病の予防と対応				
定期試験				
なお、遠隔授業等が実施される際には、講義順や内容が変更される場合がある。				
テキスト：				
「これだけはおさえたい！保育者のための「子どもの保健」」鈴木美枝子（編著）創成社				
参考書・参考資料等：				
厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドライン」				
厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」など各種ガイドライン				
学生に対する評価：				
定期試験とレポート等を総合判定で評価する。				
評価の割合は概ね、定期試験80%、レポート等20%とする。				
履修上の注意・メッセージ：				
毎回、授業時に振り返りのレポートを提示する。提出期限を厳守するよう注意すること。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小林 祥子
授業科目名：乳児保育Ⅰ		必修	2単位(30時間)	形態：単独／講義
科 目	保育に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	保育の内容・方法に関する科目			
授業の到達目標及びテーマ：人間形成の基礎を培う上で重要な3歳未満児の保育に関する基本的な知識・技能について学ぶ。乳児保育の意義・目的と歴史的変遷等を踏まえ、保育所、乳児院、家庭的保育等における乳児保育の現状と課題について理解する。また、3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊び、環境、援助や関わり、職員間及び保護者や地域との連携、計画・記録・評価などについて理解する。				
授業の概要：講義形式であるが、テキストのほか資料・映像や具体的な保育の事例検討等を通して、学生が主体的に問題を発見し、解を見出しながら乳児保育に必要な専門性を身に付けていく。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション、社会の変化と乳児保育の歩み				
第2回：乳児保育の機能と役割				
第3回：乳児保育における養護と教育				
第4回：保育所における乳児保育				
第5回：児童福祉施設における乳児保育				
第6回：地域型保育事業等における乳児保育				
第7回：乳児が育つ家庭への子育て支援				
第8回：乳児保育の基本的姿勢				
第9回：乳児保育と保育士の役割				
第10回：乳児期の生活と環境				
第11回：乳児期の遊びと環境				
第12回：乳児期から移行期への保育				
第13回：乳児保育における計画・記録・評価				
第14回：乳児保育における連携と協働				
第15回：乳児保育の質を高める取り組み				
定期試験				
テキスト：谷田貝公昭監修／中野由美子編著・高橋弥生編『乳児保育Ⅰ』一藝社、2020年				
参考書・参考資料等：厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、その他授業中に提示する。				
学生に対する評価：				
授業への参加態度10%、レポート・提出物等40%、定期試験50%により総合的に評価する。				
履修上の注意・メッセージ：テキスト・参考書・プリント・DVD等を使用して授業を行うので、適宜メモを取りながら受講すること。PC（クラスルーム上）で記録を作成することもある。個々で本教科のファイルを作成し、配付されたプリント等は全て綴じ、最終回後に提出すること。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：岡野 友美子
授業科目名： 身体表現		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	保育に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	保育の内容・方法に関する科目			
授業の到達目標及びテーマ： 動きからなる表現体の体得を目指すことで、子どもたちにおける健全な心身の発育・発達を支え保障していくための知識と実践方法を学ぶ。				
授業の概要：幼児の自発的な遊びや表現を通しての指導を中心に、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度が総合的に達成されるように幼稚園教育要領に示されている音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通して「豊かな感性」と「表現力」の芽生えを養う。また、のびのびと十分に体を動かし充実感や満足感味わうことを具体的に実践していくことで指導者としての資質を高め、幼稚園生活の中で幼児期に何を育て、状況に応じて安全な行動がとれるように保育者としての指導する力を身につける。				
授業計画				
第1回：リズム運動①（有酸素運動の意義）				
第2回：リズム運動②（ウォーミングアップについて）				
第3回：リズム運動③（有酸素運動の効果について）				
第4回：リズム運動④（有酸素運動の特性について）				
第5回：表現ダンス①（言葉からの発想・表現・模倣ついて）				
第6回：表現ダンス②（ライオンキングの「王様になるのが待ちきれない」振り移し）				
第7回：表現ダンス③（ライオンをテーマに創作）				
第8回：動きの基本①（身体の部位について）				
第9回：動きの開発②（身体運動の種類について）				
第10回：動きの開発③（身体運動の成立要因について）				
第11回：動きの変化と工夫④（組み合わせや隊形について）				
第12回：表現運動グループ創作①（表現的な遊びについて）				
第13回：表現運動グループ創作②（表現的な遊びの実践）				
第14回：表現運動グループ創作③（表現的な遊びの復習）				
第15回：表現運動グループ創作④（創作発表会）				
定期試験				
テキスト： 『保育の中の運動あそび』石井美晴他 萌文書林、『からだと遊び』畠山トミ 学術図書出版社				
参考書・参考資料等： 『幼稚園教育要領』文部科学省				
学生に対する評価： 実技試験(70%)を中心に、課題・レポート・授業演習（30%）の総合判定				
履修上の注意・メッセージ：教員らしく運動のできる、動きやすい服装が好ましい。 実技の授業は毎回新しいことに取り組んだり、グループ創作したり活動的です。欠席が多いとついていけなくなりますので気を付けましょう。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：新井貴子、橋本樹、渡邊志津子
授業科目名： 保育実習指導Ⅰ		必修	2単位（30時間）	形態：複数 / 演習
科 目	保育に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	保育実習			
授業の到達目標及びテーマ： 保育実習Ⅰは保育所及び保育所以外の福祉施設への10日間ずつの実習であり、保育実習Ⅰの事前学習と事後学習で構成される。1年半に渡る実習指導の基礎となるものであり、両者の共通点及び相違点をふまえ、各実習の意義・目的を理解した上で、実習に際しての心構え、自覚と態度を養う。				
授業の概要： 実習生としての心構えを知り、日常生活の中で意識して実践できることを確認する機会とする。実習施設の特徴について自ら調べ整理し、実習中の学習方法を具体的に習得する。事後学習では、学んだことを文書にまとめ、実習の総括と自己評価を行い、今後の実習に向けた課題や目標を明確にする。				
授業計画 第1回：実習指導総論（実習の体系、受講上の注意事項） 第2回：各実習の概要と共通事項 第3回：各実習の相違点と留意事項 第4回：実習中の学びとは 映像教材「保育者へのあゆみ」 第5回：施設及び利用者・職員理解と専門知識及び技術① 乳児院・母子生活支援施設・児童養護施設 第6回： 〃 ② 障害児入所施設(福祉型・医療型) 児童発達支援センター(福祉型・医療型) 第7回： 〃 ③ 障害者支援施設 映像教材「施設実習の実際」使用 第8回：保育所実習の全体計画と書類作成 第9回：保育所実習の課題の理解と目標作成 第10回：保育所保育指針の内容確認（養護と教育） 第11回：保育研究のテーマ決定と研究方法の模索 第12回：実習に向けてのまとめと自己課題の抽出（実習先調査と実習目標の作成） 第13回：実習日誌の作成と実習後の流れを知る 第14回：実習事前オリエンテーションについて 第15回：初めての实習にむけて最終確認（校長講話） ※日本赤十字社 幼児安全法支援員養成講座 受講 事後学習：レポート				
テキスト： 『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』大豆生田啓友・渋谷行成他編（中央法規）				
参考書・参考資料等： 「保育所保育指針」厚生労働省「幼稚園教育要領」文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府				
学生に対する評価： 学生に対する評価：授業への参加態度(10%)、課題（60%）、発表（30%）				
履修上の注意・メッセージ： 授業は、全回きちんと受けましょう。私語・飲食・携帯の使用・居眠り・途中退出は厳禁。身支度を整えて受講すること。課題は必ず期限内に全て出しましょう。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：ピアノ担当教員
授業科目名：ピアノ基礎		必修	2単位(60時間)	形態：複数／実技
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	－			
授業の到達目標及びテーマ：ピアノ演奏の際に必要な基礎的知識・技能を身に付け、童謡曲の弾き歌いを行えるようにする。バイエルピアノ教則本にて、楽譜を読む力を養いながら基礎演奏技能を習得する。童謡曲やマーチ曲を使用し、ピアノ演奏・弾き歌いに必要な奏法・表現を学ぶ。				
授業の概要：実技レッスンを通し、子どもの豊かな感性と表現力を育むために必要とされる、ピアノ演奏の基礎的知識・技能を学ぶ。また、実際の保育現場にて、自信を持った音楽活動を自由に行えるようにすることを旨とする。具体的履修内容(レベル1～10)は別表(※初回授業で配布)で表す。				
授業計画 少人数のクラスに分け、各自の進度に合わせた個別指導を行う。		第16回：		
第1回：		第17回：		
第2回：		第18回：		
第3回：		第19回：		
第4回：		第20回：		
第5回：		第21回：		
第6回：		第22回：		
第7回：		第23回：		
第8回：		第24回：		
第9回：		第25回：		
第10回：		第26回：		
第11回：		第27回：		
第12回：		第28回：		
第13回：		第29回：		
第14回：		第30回：		
第15回：		定期試験		
グレード試験				
テキスト：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社出版部編(全音楽譜出版社)				
「子どもとたのしむ童謡カレンダーVol.1,2」吉田梓監修(音楽之友社)				
「改訂 ポケットいっぱいのうた」鈴木恵津子、富田英也監修・編著(教育芸術社)				
参考書・参考資料等：なし				
学生に対する評価：平常点(20%)、課題曲によるグレード試験(20%)、課題曲による定期試験(60%)により評価する。尚、定期試験受験資格は、定められた必修曲をすべて修了すること(レベル10までの修了)を条件とする。通年科目のため前期、後期いずれか15回のうち3分の1以上欠席した場合、各試験の受験資格を喪失する。また、グレード試験を受験していない学生は定期試験の受験資格を喪失する。				
履修上の注意・メッセージ：集中して一生懸命課題に取り組むことが重要となる。不明な箇所は、積極的に質問をしながら技能を身に付けてほしい。また、演奏技能をより磨くには、自主学習が大切となってくる。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：田中 正雄
授業科目名： 声楽		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	保育に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	保育の内容・方法に関する科目			
授業の到達目標及びテーマ： 幼稚園教諭及び保育士として必要な声楽の技術、表現力を習得するとともに、幼児の音楽指導法との関連を考えながら実践に生かせるようにする。				
授業の概要：様々な実践的楽曲を通して、それぞれに相応しい演奏表現を身につけるとともに、幼児がともに歌うことの喜びを感じられるような表現のあり方を探る。				
授業計画				
第1回：発声法①（姿勢・呼吸・響きについて、ハミング唱法）				
第2回：発声法②（母音の作り方、フレージング、アーティキュレーションの表現等）				
第3回：母音唱、レガート唱法（コンコーネ50番を用いて）				
第4回：季節のうた（春～夏）				
第5回：生活のうた、集いのうた①				
第6回：集いのうた②、自然のうた				
第7回：季節のうた（秋～冬）				
第8回：生きもののうた				
第9回：中間発表会（実技）				
第10回：テレビ、アニメのうた、愛唱歌 他				
第11回：コードネームによる伴奏法、弾き歌い				
第12回：合唱曲への取り組み、指揮法				
第13回：さまざまな独唱曲の取り組み①（日本歌曲を中心に）				
第14回：さまざまな独唱曲の取り組み②（イタリア歌曲を中心に）				
第15回：発声法の重要な点についてのまとめ				
定期試験				
テキスト：ポケットいっぱいのうた（教育芸術社）				
参考書・参考資料等：				
担当教員が準備・配布する資料				
学生に対する評価：				
実技（中間発表会20%、定期試験30%）、日頃の授業への取り組み（50%）				
履修上の注意・メッセージ：現場ですぐに役立つような実践的な授業内容を用意しています。身体を使った無理のない発声で、歌のレパートリーをたくさん増やしていきましょう。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：藤原 悦子
授業科目名：国語学		必修選択	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	-			
授業の到達目標及びテーマ：教員・保育者としての国語に対する幅広い教養を深め、思考力、判断力、表現力を養い、社会生活で活用する力を身に付けている。				
授業の概要：本講座では、教員・保育者として必要な国語についての幅広く、正しい知識と読解力・実践力を習得する。日本語の特色を音韻音声、語彙、文法、文字表記などから理解し、文章表現等で活用できる能力を身に付ける。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション・国語・日本語をどうとらえるか				
第2回：日本語の音声・音韻				
第3回：日本語の語彙① 体系・語形成・表現				
第4回：日本語の語彙② 類義語・対義語				
第5回：日本語の文法① 品詞・実生活での活用				
第6回：日本語の文法② 敬語(謙譲語・尊敬語・丁寧語)				
第7回：日本語の文字・表記 (平仮名・片仮名・漢字)				
第8回：日本文学史① 奈良時代から江戸時代まで(発表形式)				
第9回：文章読解① 古典原文に親しむ				
第10回：日本文学史② 明治から現代まで(発表形式)				
第11回：文章読解② 物語文・詩を読む				
第12回：文章読解③ 評論・新聞を読む (グループ討議を含む)				
第13回：文章表現① 題材選択・要旨・構成パターン・段落等について				
第14回：文章表現② 小論文作成・推敲				
第15回：文章表現③ 小論文発表 相互評価				
定期試験				
テキスト：「ビジュアルカラー国語便覧 改訂版」大修館書店、授業中に資料も配布する。				
参考書・参考資料等： 井坂淳一『ここからはじまる日本語学』ひつじ書房 橋本信吉『国語学概論』岩波書店 小西甚一『日本文学史』(講談社学術文庫) 古典文学全集 小学館 「漢字検定二級 頻出度問題集」高橋書店				
学生に対する評価： 定期試験(50%) 提出物・発表内容等 (50%) を総合的に判定して評価する。				
履修上の注意・メッセージ： 社会に出て必要とされるのが確かな国語力です。多くの人々と関わる教師や保育者の仕事にとって必要なことを念頭においたカリキュラムとなっています。広い知識の獲得はもとより、発表活動も取り入れていますので、受け身の態度でなく、楽しんで取り組んでほしいと思います。提出物は確実に出示してください。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：高橋 宏彰
授業科目名： 数学 1		必修選択	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	-			
授業の到達目標及びテーマ：教育に携わる者として基礎的な数学についての知識・数学的な物の見方等を育み、問題解決能力を学び、論理的思考を身につけることを目標とする。				
授業の概要：数学Ⅰ・Aは数式および論理的思考の基盤であり、より高度で深く学ぶ数学へと繋がる基礎的素養である。基礎力を学び、数学が日常で使われている場面の考察をする。				
授業計画				
第1回：数学を学ぶ意義、数と式（式の展開、因数分解）				
第2回：数と式（1次不等式、連立不等式）				
第3回：数と式（分母の有理化、絶対値を含む方程式・不等式）				
第4回：2次関数（2次関数のグラフ）				
第5回：2次関数（2次関数の最大・最小、式の求め方）				
第6回：2次関数（2次方程式の実数解、2次関数のグラフとx軸の共有点）				
第7回：2次関数（2次不等式、応用）				
第8回：図形と計量（サイン・コサイン・タンジェント、三角比の相互関係）				
第9回：図形と計量（正弦定理、余弦定理）				
第10回：図形と計量（三角形の面積）＋平面図形（三角形の角の二等分線と比）				
第11回：平面図形（円と角、方べきの定理）				
第12回：場合の数と確率（集合の要素の個数、順列）				
第13回：場合の数と確率（円順列、重複順列、組合せ）				
第14回：場合の数と確率（確率の加法定理、余事象の確率）				
第15回：場合の数と確率（独立な試行の確率、応用）				
定期試験				
テキスト：				
「中学数学をおさらいしながらすすめる高等学校数学Ⅰ・A<改訂版>」（Gakken）				
参考書・参考資料等：				
「ルーズリーフ参考書高校数学Ⅰ・A[改訂版]」（Gakken）				
学生に対する評価：				
定期試験（50パーセント）、授業レポート・小テスト（50パーセント）				
履修上の注意・メッセージ：				
特になし				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：川瀬 一弥
授業科目名：現代社会		必修選択	2単位（30時間）	形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	－			
授業の到達目標及びテーマ： 現代の社会を正しく把握することにつとめ、教育に期待されるもの、教育に求められるもの、教育の果たす役割を、現代という時間軸を通して理解するとともに、そこから現代社会においてあるべき教育者、求められる教育とは何か考えてみたい。				
授業の概要： 現代社会における様々な課題に対して、正確な認識に基づいて対処改善するために必要な視野を獲得、育成する方法を考察する。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション 話し合い活動（「教員」についての職業観、聖職者とは）				
第2回：少子化				
第3回：高齢化				
第4回：情報化（メディア化）				
第5回：環境教育				
第6回：国際化と教育				
第7回：教育における「能力」とは				
第8回：日本における「職能教育」				
第9回：科学と私たち ①身体論と生命倫理				
第10回：科学と私たち ②Society5.0				
第11回：公立学校と私立学校				
第12回：学校外での学び（塾、予備校等）				
第13回：海外の学校				
第14回：教員不足の背景 話し合い活動（人材確保と教育の質と）				
第15回：学歴と学校歴				
定期試験				
テキスト：				
「未来の年表」河合雅司（講談社）				
参考書・参考資料等：				
授業中に指示、紹介する。				
学生に対する評価：				
授業ごとの振り返り（質問用紙の提出 40％）、定期試験（60％）				
履修上の注意・メッセージ： 極力、一方的な情報・知識の伝達に終始することなく、双方向的なそして発展的な授業を目指して行こうと考えています。一人ひとりが互いの意見や考えからスパークできる思考回路の構築に至れば幸いです。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：高山 英己
授業科目名： 理科演習		必修選択	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	－			
授業の到達目標及びテーマ：小学校理科の「A物質・エネルギー」領域の教材を中心に理解をし、安全な観察や実験の実施に必要な知識及び技能を習得する。				
授業の概要：小学校教員として、理科の授業を行う際に身につけておくべき理科の見方、考え方について実際に実験器具を使用し、実験器具の取り扱い方を学ぶ。実習・実験を中心とした演習である。 受講人数等により、授業内容・教材を変更する場合がある。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション、「観察・実験の準備」				
第2回：実習 基礎的な実験観察器具の使用法①（「測定の仕方」）				
第3回：実習 基礎的な実験観察器具の使用法②（「ガラス器具・加熱器具の取り扱い方」）				
第4回：実験「スライムを作ろう」				
第5回：実験「スーパーボールを作ろう」				
第6回：実験「人工イクラを作ろう」				
第7回：実験「葉脈標本を作ろう」				
第8回：実験「振り子の運動」				
第9回：実験「てこのはたらき」				
第10回：実験「簡易分光器を使って光を観察しよう」				
第11回：実験「空気と水」・「ペットボトル空気砲」・「空気砲」				
第12回：実験「電流・磁石の性質」				
第13回：実験「物の溶け方・水溶液の性質」				
第14回：実験「線香花火を作ろう」				
第15回：理科実験における事故の事例と留意点・指導例の考察				
定期試験				
テキスト：必要に応じて授業中に紹介				
参考書・参考資料等： 「小学校理科の観察，実験の手引き」文部科学省 「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省				
学生に対する評価： 授業のリアクションペーパー（10%）、実習・実験レポート（50%）、定期試験（40%）				
履修上の注意・メッセージ：理科の授業において、「観察・実験」は必要不可欠です。この講義を通して、基本的な実験技術を身につけてもらいたい。				

児童科保育課程・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：酒井修子、田中正雄、他
授業科目名：教育インターンシップ1		自由選択	1単位(30時間)	形態：複数 / 実技
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	－			
授業の到達目標及びテーマ：学校や保育の現場における様々な職務内容に触れ、その補助的体験を通して、保育者に求められる知識や技能を理解するとともに、実践的指導力の基礎を身に付ける。				
授業の概要：教育インターンシップ1では、以下のような内容が考えられる。 3. 運動会等の学校行事・保育行事や宿泊体験学習引率等、比較的短期間のボランティア活動を通し、教育活動・保育活動を進めることの重要性を認識し、その意義を理解する。 4. 週1回2～4時間程度学校現場・保育現場に通い、様々な活動を通して子どもと直接関わり、教育活動・保育活動について理解を深める。 終了時に実践とリフレクションの内容をまとめ、報告会にて発表する。				
授業計画 第1回：オリエンテーション、インターンシップの進め方についてのガイダンス 第2回～第14回 研修場所でのインターンシップ実践（さまざまな教育活動の補助、体験的学習の支援、行事ボランティア活動等）とリフレクション 第15回：インターンシップ報告会				
テキスト：特になし				
参考書・参考資料等：授業の中で適宜配布する				
学生に対する評価：ガイダンスおよび報告会（30％）、活動の記録（50％）、レポート（20％） なお、終了時に30時間の活動を証明する書類を提出すること。				
履修上の注意・メッセージ：履修にあたっては、事前に活動計画書を作成の上、担当教員と面談を行う。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：吉田 浩幸
授業科目名： 日本国憲法		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
科目に含めることが必要な事項	日本国憲法			
授業の到達目標及びテーマ：				
市民的教養としての憲法にかかる基本的な知識を習得した上で、その知識に基づいて今日の社会で生じているさまざまな問題について憲法の観点から分析し、日本国憲法の規範と解釈を通した課題の設定と解決方法の模索ができるようになる。				
授業の概要：				
日本国憲法が立脚する諸原理と憲法が保障する基本的人権についての基本的な知識の習得のため、日本国憲法の条文や学説・判例を学ぶとともに、具体的な事例について考察する。				
授業計画				
第1回：ガイダンス				
第2回：個人の尊厳と基本的人権のスタイル				
第3回：子どもの権利・教師の権利・私人間効力				
第4回：法の下での平等				
第5回：思想・良心・信教の自由				
第6回：表現の自由				
第7回：学問の自由と教育を受ける権利				
第8回：経済的自由、生存権、労働権、労働基本権				
第9回：刑事事件で保障される権利				
第10回：国民主権と参政権				
第11回：平和主義				
第12回：立法・行政・司法				
第13回：地方自治と財政				
第14回：憲法の思想と歴史				
第15回：日本国憲法の理念と基本的人権についての振り返り（授業のまとめ）				
定期試験				
テキスト：				
西原博史・斎藤一久編著『教職課程のための憲法入門[第3版]』弘文堂（2024年）				
参考書・参考資料等：				
授業中に適宜紹介する。毎朝の新聞購読を推奨する。				
学生に対する評価：定期試験(70%)及び授業での課題等(30%)を総合して評価する。				
履修上の注意・メッセージ：日本国憲法が教員免許状取得の必修科目として設定されているのはなぜか、その意味を考えながら学びを進めていきましょう。日常的に、新聞などを通して国内外の動き（政治・経済・社会・文化）を把握しておくことが重要です。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：安富 直樹
授業科目名： 情報機器の操作		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
科目に含めることが必要な事項	数理、データ活用人工知能に関する科目または情報機器の操作			
授業の到達目標及びテーマ： 実際のパソコン操作を通し、コンピュータ全般に対する基礎的な知識を得るとともに、児童・生徒への指導法を身につける。 教育の現場で利活用される情報機器や授業支援ソフト等の操作方法を積極的に身につける。				
授業の概要： 授業支援ソフト（ロイロノート・スクール）を活用し、授業におけるデジタル教材操作等に慣れる。 Windows、Word、Excel、PowerPointを使い、あらゆる場面に適したコンピュータの操作方法を習得する。				
授業計画 第1回：Windowsの基本操作、ファイル操作、ソフトのインストール、プログラム体験（editorとhtml） 第2回：Google Classroom、Google drive、ロイロノート・スクール操作の基本 第3回：Word(1) 基本操作、書式設定 第4回：Word(2) 表の作成 第5回：Word(3) 図の利用 第6回：Wordを使った授業資料づくり 第7回：PowerPoint(1) 基本操作、プレゼンテーションの基本 第8回：PowerPoint(2) 表、図の利用 第9回：PowerPoint(3) アニメーション 第10回：PowerPointを使った授業資料づくり 第11回：Excel(1) 基本操作、様々な関数、教育におけるデータ活用・分析（例：けがの記録） 第12回：Excel(2) 表の書式、便利なExcelをWordのように文書づくりに使う（例：保健室日誌） 第13回：Excel(3) グラフの作成 第14回：Excel(4) データベース機能 第15回：Excelを使った授業資料作り、情報機器操作のまとめ 定期試験				
テキスト： 「30時間アカデミック Office2021 Windows 11対応」杉本くみ子・吉田栄子 著（実教出版）				
参考書・参考資料等：教育の情報化に関する手引き 生成AIの利用について （文科省HP資料） https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/056/gijigaiyou/attach/1259389.htm https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_02412.html 必要な資料等は授業内で配付する。				
学生に対する評価： 授業中の課題作成・活動の振り返り(30%)、定期試験(70%)を総合的に評価する。				
履修上の注意・メッセージ： 各自Windows PCを用意し、学校から配付されるOffice365をあらかじめインストールしておくこと。このPCを毎回利用するため、バッテリーを充電した上で、必ず持参すること。（スマートフォンでの作業は原則認めない。）ロイロノートやClassroomを使うため、いつでもログインできるようにしておくこと。 配付物は、ファイリングし、いつでも参照できるようにしておくこと。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：風間 千景
授業科目名：英語コミュニケーション3		必修選択	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
科目に含めることが必要な事項	外国語コミュニケーション			
授業の到達目標及びテーマ：				
この授業では「教員による解説を聴くだけ」というような講義形式の英語学習ではなく、受講生の皆さんが「(英語を) 聴く・話す・読む・書く」という4技能を、積極的に使う時間をできるだけ多く設けることで、皆さんの英語運用力そのものの向上を目指します。				
授業の概要：				
授業では、英語を使いながら様々な活動を行い、将来養護教員を目指す皆さんが実際の教育現場において、英語でコミュニケーションを取る際に必要となる表現を取り上げます。更に、2～3ユニットごとに Check Test を行い、授業内で扱った内容や英語表現を基に、グループで行う課題として『ほけんだより』作成とプレゼンテーション実践も行います。				
授業計画				
第1回：・オリエンテーション・【Unit 1】First Visit				
第2回：・【Unit 2】At the Examination Room -1				
第3回：・【Unit 2】At the Examination Room -2 ・『ほけんだより』作成 ①				
第4回：・【Unit 3】Flu Symptoms -1 ・『ほけんだより』作成 ②				
第5回：・【Unit 3】Flu Symptoms -2 ・『ほけんだより』作成 ③				
第6回：・【Unit 4】Pain Problems -1 ・『ほけんだより』作成 ④				
第7回：・【Unit 4】Pain Problems -2 ・『ほけんだより』作成 ⑤				
第8回：・【Unit 5】Stomachache ・『ほけんだより』作成⑥				
第9回：・【Unit 7】Urinalysis -1 ・グループプレゼンテーション準備 ①				
第10回：・【Unit 7】Urinalysis -2 ・グループプレゼンテーション準備 ②				
第11回：・【Unit 9】Anemia -1 ・グループプレゼンテーション準備 ③				
第12回：・【Unit 9】Anemia -2 ・グループプレゼンテーション準備 ④				
第13回：・【Unit 10】Injury -1 ・グループプレゼンテーション準備 ⑤				
第14回：・【Unit 10】Injury -2 ・グループプレゼンテーション準備 ⑥				
第15回：グループプレゼンテーション実践				
定期試験				
テキスト： <i>Medical English Clinic</i> (センゲージ・ラーニング)				
西原 俊明・西原 真弓・Tony Brown 著				
参考書・参考資料等：必要に応じてクラス内で紹介				
学生に対する評価：・テキスト内の演習問題の提出(20%)				
・グループ課題(『ほけんだより』作成・プレゼンテーション実践：各15%=30%)				
・Check Tests (20%)・定期試験 (30%)				
履修上の注意・メッセージ：実務に役立つ英語を学んでいくので、毎回の授業で扱う内容を自分のものにするよう取り組んでほしい。授業内での取り組み姿勢を大きく評価するので、提出物と課題を必ず出すことを求める。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：今枝 弘三
授業科目名：教育原理		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想			
授業の到達目標及びテーマ： ① 教育の基本概念を理解し、現代社会における教育の意義を理解している。 ② 現代の教育理念の前提にある教育の歴史と思想を理解している。				
授業の概要： 教育とは何かについて深い思索と議論をする。それとともに教育の基礎概念を身につける。また、教育の思想について、それと密接なつながりを持つ歴史とともに大きな見通しをつかむ。講義形式の中でグループでの演習を実施する。				
授業計画 第1回：授業内容、授業形式、試験、課題等についての説明。教育職員免許法施行規則およびコアカリキュラムの確認。GWTによる人間関係づくり。 第2回：教育とは何か①。個人の発達の視点から。 第3回：教育とは何か②。社会の進化の視点から。 第4回：学校とは何か。近代学校システムの特質と現代社会。 第5回：カリキュラムと評価について。学習指導要領の位置づけ。 第6回：教育の方法と技術 第7回：道徳教育の変遷について 第8回：西洋における教育の歴史 第9回：西洋における教育思想(古代から中世)。 第10回：西洋における教育思想(近代①) 第11回：西洋における教育思想(近代②) 第12回：日本における教育の歴史 第13回：日本における教育の思想 第14回：教育に関する法規の確認。教育に関する国際調査。OECDeducation2030。 第15回：教育の基礎概念、教育の歴史および思想についてのまとめ 定期試験				
テキスト： 毎回の授業時に資料を配布またはGoogle classroom にアップロードします。				
参考書・参考資料等： 小学校・中学校・高等学校学習指導要領(文科省HPよりダウンロード可)				
学生に対する評価： 定期試験80%、授業時の課題等20%で評価する。				
履修上の注意・メッセージ：特になし				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：今枝 弘三
授業科目名： 教職の役割		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)			
授業の到達目標及びテーマ：				
④ 公教育における教職の意義について、多面的に理解している。				
⑤ 教職像の変遷を踏まえ、求められる役割や能力を理解している。				
⑥ チーム学校運営が求められる現代の学校における職務を理解している。				
授業の概要：				
教職の意義および教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応)の理解をベースに、教育現場において必要となるスキルを身につける。講義形式の中でグループでの演習を実施する。				
授業計画				
第1回：授業内容、形式、課題等について。教育職員免許法施行規則とコアカリキュラムの確認。教育という営みの妥当性・客観性とは何か、M・ウェーバーの価値自由から考える。				
第2回：教職の意義を個人の自己実現と社会進化の観点から考える。				
第3回：日本の教職の歴史				
第4回：教員の職務内容の確認および現代の学校教育を取り巻く諸問題を理解する。				
第5回：質的研究および教育臨床の必要性を理解する。				
第6回：いじめ調査の変遷といじめの根本原因について考える。				
第7回：いじめ防止対策。「子供若者白書」「ユニセフ・レポートカード16」を基に考える。				
第8回：教員の資質能力の理解と自己明確化ワークおよびコラム法の実践。				
第9回：関わり方の心理－交流分析・エゴグラム－				
第10回：グループワークの源流としてのサイコドラマを理解する。 P・サイモンズの親子関係の座標軸を基に不登校問題を考える。				
第11回：学校で利用できるグループワーク。ロール・レタリング(empty chair)を体験する。				
第12回：現代の社会集団としての「チーム学校」の理念と意義。経営管理論の立場から考える。				
第13回：「チーム学校」づくりをA・マズロー「完全なる経営」から考える。				
第14回：教育公務員としての服務上・身分上の義務について理解する。				
第15回：教職の意義、役割、職務内容についての振り返りとまとめ				
定期試験				
テキスト：				
「アクティベート教育学02 現代の教師論」佐久間亜紀・佐伯胖編著 ミネルヴァ書房				
参考書・参考資料等：「生徒指導提要」文部科学省 2022				
学生に対する評価：				
定期試験80％、授業時の課題等20％で評価する。				
履修上の注意・メッセージ：特になし。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：宮城 哲
授業科目名： 教育法規		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			
授業の到達目標及びテーマ：				
教育に関わる法令・通知等について体系的に理解し、教育者としての基礎的知識を身につける。				
授業の概要：				
教育法規（教育にまつわるあらゆる人びと・物・構造などを示した約束事の体系）を具体的な法令・通知等にふれながら理解し、また、教育現場の具体的な事例などにも沿って学んでゆく。				
授業計画				
第1回：教育法規の体系				
第2回：学校教育の原理（教育の機会均等、公共性、中立性、無償性）				
第3回：学校の種類と目的（学校とは、種類、目的と目標）				
第4回：学校の設置・管理				
第5回：学校の組織と運営（組織編成、教育課程、教科書および教材）				
第6回：就学をめぐる問題Ⅰ（就学義務とその猶予・免除、就学の援助）				
第7回：就学をめぐる問題Ⅱ（入学と卒業、学校における事故、人権問題）				
第8回：教員養成（教員の資格・免許、養成制度、任用）				
第9回：教職員の職務と責任（職務、研修、職員会議）				
第10回：教職員の勤務条件、身分保障と服務				
第11回：教育行政の原理（教育基本法と教育行政、組織原理）				
第12回：教育行政のしくみ（教育委員会、文部科学省、審議会、調査会）				
第13回：教育行政の領域と作用（人事行政、指導助言と指揮監督）				
第14回：その他の法令、質疑応答				
第15回：講義のまとめ（現代の教育改革と教育法規について）				
定期試験				
テキスト：				
石井拓児ほか編『教育小六法 2025年版』（学陽書房）				
参考書・参考資料等：				
関連する資料・文献などは授業時に配布・指示する。				
学生に対する評価：				
定期試験（70％）の結果と小テスト・提出物など（30％）を総合的に勘案して評価する。				
履修上の注意・メッセージ：				
特になし。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小林 久美
授業科目名：学校安全		必修	2単位（30時間）	形態：単独　／　講義
科　　目	教育の基礎的理解に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			
授業の到達目標及びテーマ：				
学校安全および学校の危機管理に関する基礎的内容を理解し、迅速に対応できる力や関係者と協働して組織的に適切な対応が取れるように基本的な危機対応能力を身につける。				
授業の概要：				
学校を取り巻く様々な危機的事態を未然に防ぎ、直面した際は適切な対応ができるよう基礎的な知識を学習する。学校と家庭および地域と連携を図りながら児童生徒の健康と安全を守れるよう、安全教育と安全管理について理解を深める。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション・学校安全とは				
第2回：学校安全総論1（学校管理下の災害の実態）				
第3回：学校安全総論2（学校安全の構造と領域、学校安全計画）				
第4回：学校安全総論3（危機管理の考え方と危機管理マニュアル）				
第5回：安全管理（対物管理と対人管理）				
第6回：安全教育1（教育課程における安全教育）				
第7回：安全教育2（安全教育の展開）				
第8回：安全教育と安全管理における組織活動				
第9回：学校安全の進め方1（交通安全）				
第10回：学校安全の進め方2（防犯・不審者対応）				
第11回：学校安全の進め方3（体育・スポーツでの事故と応急手当）				
第12回：学校安全の進め方4（災害と心のケア）				
第13回：学校安全において留意すべき課題と予防・対応策				
第14回：学校安全において留意すべき課題と予防・対応策（発表）				
第15回：学校安全・危機管理の振り返り				
定期試験				
テキスト：適宜、資料を配布する。				
参考書・参考資料等：「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育　文部科学省 （ https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1416715.htm ）				
学生に対する評価：				
定期試験（60％）と、授業態度や課題提出及び発表（40％）の総合判定により評価する。				
履修上の注意・メッセージ：　事前に『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』をダウンロードしてください。実践力が身につくよう、ディスカッション、グループワークなど演習を中心に進めていきますので、積極的な授業参加を期待しています。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：笠原 和子
授業科目名： 発達心理学		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			
授業の到達目標及びテーマ：養護教諭として、生涯発達の視点をもって児童・生徒の状態をとらえ、その成長・発達に適切に寄与できる知識や子ども理解力を身につける。子どもとかかわる親、祖父母、教師など、大人の発達、社会・文化・歴史のなかで、人の生と発達とがどのように展開されるのか理解し、子どもの環境となる大人への働きかけも考えられるようにする。				
授業の概要：子どもを、受胎からはじまる人の生涯発達のなかに位置づけて理解し、学校生活での発達、少子・高齢化、情報化・国際化社会のなかで、子どもが成長していく過程も見通すことで、乳幼児期・児童期・青年期に何を体験し、何がはぐくまれることが大切なのか、そのために教育に何が求められているのかを考える。				
授業計画				
第1回：オリエンテーションー発達心理学とはー				
第2回：遺伝と環境——発達を規定する要因				
第3回：生涯発達の視点				
第4回：発達心理学を概観するーエリクソンの心理・社会的発達理論				
第5回：胎児期・周産期と感覚・運動の発達				
第6回：愛着の発達				
第7回：自己と感情の発達				
第8回：認知の発達ーピアジェの認知発達理論				
第9回：言語の発達				
第10回：社会性・道徳性の発達				
第11回：遊び・仲間関係の発達				
第12回：発達を支える①ー学習の理論・応用行動分析				
第13回：発達を支える②ー障害と支援・知能検査等				
第14回：心と行動の問題及び児童虐待				
第15回：成人期以降の発達ーユング・レヴィンソンの理論等				
定期試験				
テキスト：「ベーシック発達心理学」 関一夫/齋藤慈子編(東京大学出版会)				
参考書・参考資料等： 授業中に指示する。プリントを配布する。				
学生に対する評価： 定期試験(70%)と授業のリアクションペーパー・小レポート等(30%)				
履修上の注意・メッセージ： 人の発達は、様々な因子により変化します。基本的な理論をまず理解し、その上で自分で考えたり、話し合ったりすることで、より人間理解が深まるかもしれません。学びをぜひ楽しんでください。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：有馬 武裕
授業科目名： 教育課程総論		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			
授業の到達目標及びテーマ：				
教育課程の概念や意義、役割について学習指導要領との関係を踏まえながら学び教育課程を編成するための基礎理論を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて実践例を基に理解する。				
授業の概要：				
学校教育の目的や目標を達成するために教育基本法等を踏まえて教育課程が編成されていること、学習指導要領改訂の経過を基に現在の学習指導要領の基本方針や第4期教育振興計画を理解すること、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について実践例を基に理解することを、グループ討議などを通して深めていく。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション 第1章総説 1 改訂の経緯及び基本方針				
第2回：第1章2改訂の要点 学校教育法施行規則改正、前文の趣旨及び要点、総則改正				
第3回：第1章道徳の特別の教科化に係る一部改正				
第4回：学習指導要領の変遷 学制～戦後昭和22年学習指導要領（教科課程）				
第5回：学習指導要領の変遷 昭和26年学習指導要領（教育課程）～平成20年学習指導要領				
第6回：第2章教育課程の基準 教育課程の意義、教育課程に関する法律				
第7回：第3章教育課程の編成及び実施 第1節小学校教育の基本と教育課程の役割				
第8回：第3章教育課程の編成及び実施 第2節教育課程の編成①				
第9回：第3章教育課程の編成及び実施 第2節教育課程の編成②				
第10回：第3章教育課程の編成及び実施 第3節教育課程の実施と学習評価				
第11回：第3章教育課程の編成及び実施 第4節児童の発達の支援 第5節学校運営上の留意点				
第12回：第3章教育課程の編成及び実施 第6節道徳教育推進上の配慮事項1				
第13回：第3章教育課程の編成及び実施 第6節道徳教育推進上の配慮事項2，3，4				
第14回：カリキュラム・マネジメント実践例（総合的な学習の時間）				
第15回： 第4期教育振興計画、令和日本型教育（ウェルビーイング、持続可能な社会の創り手）				
定期試験				
テキスト：小学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省 小学校学習指導要領 文部科学省				
参考書・参考資料等：生徒指導提要 文部科学省 「MINERVAはじめて学ぶ教職 10 教育課程」根津 朋実 編 ミネルヴァ書房				
学生に対する評価：				
定期試験（50％）、授業中に課すレポートや課題等の評価（50％）の総合判定で評価する。				
履修上の注意・メッセージ：				
また、毎回「振り返りレポート」を提出すること。なお、欠席時もレジュメ（配付される講義内容を要約した資料）を参照し、今日の学びを提出すること。詳しくは、最初の授業で説明する。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：中島 朋紀
授業科目名：教育方法論		必修	2単位(30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）			
授業の到達目標及びテーマ： 1. 教育方法の目的・機能性を理解し、実践的な教育指導に関する具体的な指導技術を身につける。 2. 学習指導要領に関する基礎的な知識・重点事項を修得し、指導案が作成できる。 3. 教育方法・技術におけるICT活用について知り、自身で応用・活用することができる。				
授業の概要： 子どもの実態・理解及び教育環境を踏まえながら、教育の方法に関する基礎的な理論や技術を学び、そして教育実践におけるICT機器等の活用や在り方などについても学ぶ。教育方法をめぐる理論的な課題や実践的な課題などを考察することを通して、授業展開能力の育成を目指すとともに、指導案作成や現場での教材の活用の検討などについても行う。そして情報化時代における教育の可能性についても考える。				
授業計画 第1回：教えることと学ぶことの関係性について 第2回：教育方法の歴史と変遷 第3回：子どもを生かす学び、学習の展開について 第4回：教材・素材と教材研究について―授業づくりの手がかり― 第5回：学習指導要領と学習指導方法について 第6回：教育内容の構造化―指導計画と指導案作成の関連― 第7回：教育技術としての指導言 第8回：教育方法と評価活動―目的と役割― 第9回：情報化と教育方法―生活と教育現場の変化・情報活用能力― 第10回：情報化時代の教育―デジタル教材、ICT活用とその可能性― 第11回：学習指導案の作成1：指導計画作りと教材研究 第12回：学習指導案の作成2：教材研究と授業実践の立案 第13回：模擬授業実践1：グループ実践と反省・質疑応答 第14回：模擬授業実践2：グループ実践と全体討議（授業構想、改善点について） 第15回：教育方法の課題と今後の方向―指導方法の問題点と工夫・改善― 定期試験				
テキスト： 小学校学習指導要領（平成29年3月告示） 文部科学省 東洋館出版				
参考書・参考資料等： 配付資料・プリント（授業時の指示）				
学生に対する評価： レポート課題・演習・発表等の評価60%、定期試験40%を踏まえ総合的に評価する。				
履修上の注意・メッセージ： ・学ぶこと、教えることについて問い直し、子どもを生かす教材研究や授業構想に取り組むことができる。 ・授業づくりを通して、教師に求められる教材研究や授業デザイン、指導力を身につける。 ・授業を支える教授・学習理論について理解し、授業実践への適用・応用を考える。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：安富 直樹
授業科目名：ICT活用の理論と実践		必修	2単位（30時間）	形態：単独 / 講義
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）			
授業の到達目標及びテーマ： コンピュータ・タブレット・スマートフォン等のICT機器を活用した授業設計・評価の理論を、具体的な教科におけるGIGAスクール構想対応型の授業設計・授業改善に生かせる力を修得する。 また、情報モラル教育、プログラミング教育を含む情報教育の目標、教育内容、教材について理解し、具体的な学校環境において情報環境整備を含め対応できる力を育成する。 (到達目標) ・情報活用能力を育成する授業を設計・実施・評価・改善できる。 ・目標実現に最適な情報を収集・選択したり、適宜情報機器を利活用したりした授業を設計・評価できる。				
授業の概要： これまでの教育現場における情報通信技術（ICT）の活用について、歴史的経緯や現状を概観し、生成AIを含めた情報デジタルリテラシーを考えていく。教科等の指導におけるICT活用授業の理論やその実践を、文献や授業ビデオ等を参照しながら、授業設計（授業準備・データ活用・学習評価）の構成要素および具体的な指導法を身に付けていく。また情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について、情報モラル教育、プログラミング教育、データサイエンス等について、一人1台端末を授業にどう位置付け具体的にどう取り入れるかを検討しながら、教材開発も行っていく。なお、受講者自身が各種ICT機器を活用し、体験的に学ぶ機会を積極的に設けていく。				
授業計画 第1回：オリエンテーション 平成・令和のICT教育概観 生成AI利用の広がり 第2回：日々の情報利活用と増え続ける情報 収集・選択・加工・発信とICT 第3回：教育の情報化の概要① デジタルコンテンツの導入と教師のICT指導力 第4回：教育の情報化の概要② 対話的な学びを深めるICT活用力 第5回：教育の情報化の概要③ 学習指導要領「生きる力」と「資質・能力」とICT活用力 第6回：GIGAスクール構想とSociety 5.0 「情報活用能力の育成」を新聞作りから学ぶ 第7回：授業支援システムでの展開 授業づくりと実践事例の分析 ① 第8回：アクティブ・ラーニングでの展開 授業づくりと実践事例の分析 ② 第9回：デジタル・ポートフォリオへの展開 授業づくりと実践事例の分析 ③ 第10回：電子黒板とデジタル教科書への展開 授業づくりと実践事例の分析 ④ 第11回：プログラミング的思考を育む教育の実際とそのめざすもの 第12回：「情報モラル教育」から「デジタル・シティズンシップ」へ 保健室経営におけるICT 第13回：学校現場で活用が進む生成AIと成長支援 第14回：ICTを取り入れた活動案づくり 思考スキル・思考ツールの活用 第15回：学校教育とテクノロジー これからの成長支援				
定期試験				
テキスト：小原 豊・北島茂樹 編著 2024 『未来を拓くICT教育の理論と実践』 東洋館出版社 「小学校学習指導要領解説 総則編」（文部科学省） 授業時に配付するプリント				
参考書・参考資料等： 坂本 旬 他 2020 デジタル・シティズンシップ:コンピュータ1人1台時代の善き使い手をめざす学び 大月書店 平成22年10月、令和元年12月「教育の情報化に関する手引き」 文部科学省 令和2年6月「教育の情報化に関する手引き（追補版）」 文部科学省 学習指導要領の趣旨の実現に向けた 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する 参考資料（令和3年3月版） 初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン Ver.2（令和6年12月版）				
学生に対する評価： 定期試験（70％）、授業中に課すレポートや課題作品等の評価（30％）の総合判定で評価する。				
履修上の注意・メッセージ： 授業の中では、コンピュータを利活用しながら取り組むため、忘れずに持参すること。 また、毎回「振り返りレポート」を提出すること。なお、欠席時もレジュメ（配付される講義内容を要約した資料）を参照し、「今日の学び」に記入し、提出すること。配付資料は、ファイリングし、参照できるようにしておくこと。詳しくは、最初の授業で説明する。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：榎加代子、千足久美、山本卓也、他
授業科目名： 養護実習指導		必修	2単位（30時間）	形態：オムニバス / 講義
科 目	教育実践に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	養護実習			
授業の到達目標及びテーマ：				
養護実習を実施するにあたり、学校教育について理解すると共に、今まで学んできた養護に関する基礎知識や教職に関する知識等を深め、養護教諭としての自覚や研究能力を高める。				
授業の概要：				
学校保健活動について講義や演習等を通して学ぶことにより、養護教諭の職務を理解し、自己の使命感を育むための総合的・創造的な学習ができる。				
授業計画				
第1回：ガイダンス： 岩見担当				
第2回：実習課題： 岩見担当				
第3回：特別支援教育： 冢田担当				
第4回：保健学習・保健指導： 岩見担当				
第5回：健康診断の実際1（健康診断の方法及び技術の講義）： 担当講師				
第6回：健康診断の実際2（各種検診の方法及び技術の演習と事後措置）： 担当講師				
第7回：児童生徒への対応と保健室経営： 榎担当				
第8回：児童理解： 笠原担当				
第9回：救急処置1： 千足担当				
第10回：救急処置2： 千足担当				
第11回：人権教育： 冢田担当				
第12回：養護実習報告会： 榎担当				
第13回：学校保健計画の概要と学校安全指導・管理： 担当講師				
第14回：保健学習・保健指導1（模擬授業）： 岩見担当				
第15回：保健学習・保健指導2（模擬授業）： 岩見担当				
赤十字救急法講習会の受講： 山本担当				
定期試験				
テキスト：				
「養護実習ハンドブック」大谷尚子 他（編著）東山書房				
参考書・参考資料等：適宜必要な資料を配布する				
学生に対する評価：				
各担当者が課す課題(70%)及び定期試験（レポート）（30%）から総合的に判断する。				
また、赤十字救急法講習会への全出席及び試験の合格を課す。				
履修上の注意・メッセージ：				
授業中は、教員を目指す者としてふさわしい行動を心掛け、マナーを守り、積極的な参加を求める。				
詳細は、初回の授業で説明する。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：岩見 文博
授業科目名： 衛生学		必修	2単位（30時間）	形態：単独 / 講義
科 目	養護に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む。）			
授業の到達目標及びテーマ：				
衛生学は「個人及び地域における健康の保持・増進と、疾病の予防とを目的とする学問」と、公衆衛生学は「国民の健康を保持・増進させる為、公私の保健機関や地域・職域組織等の組織的な衛生活動を考究する学問」と定義される。本課程では、学校衛生の入門としての予防医学から、個レベルの衛生学を理解し、国民レベルの維持・向上の公衆衛生学へと繋げることを目標とする。				
授業の概要：				
衛生学は、社会的環境要因と健康との関わりについて、個人及び地域レベルで解説して理解できるように、児童・生徒の健康を維持・増進するための学校教育や学校環境を考察する基礎的知識を身につける。				
授業計画				
第1回：衛生学とは（衛生学の変遷）				
第2回：疫学とは（疫学の歴史と方法）				
第3回：人口統計（人口動態統計、人工静態統計）				
第4回：人口統計の活用				
第5回：環境条件にあわせる力（環境適応力）				
第6回：環境整理心理学の基礎				
第7回：放射線、電磁波と健康				
第8回：住環境、生活環境と安全・健康				
第9回：睡眠と健康な睡眠環境				
第10回：働く環境、安全衛生				
第11回：学校体育・スポーツ活動の環境と安全				
第12回：運動・スポーツの環境と安全				
第13回：人間工学からの健康環境づくり				
第14回：心を考慮した環境づくりと個人技術				
第15回：加齢を考慮した環境づくり				
定期試験				
なお遠隔授業の実施、課題対応、授業の進行度により講義順や内容が変更される場合がある。				
テキスト：「衛生学－健康な環境づくりを支援する－」近藤雄二 編（化学同人）				
参考書・参考資料等：「こどもの衛生学」宮崎美砂子 監修（新星出版社） 「公衆衛生がみえる 2024-2025」医療情報科学研究所（メディックメディア） 「国民衛生の動向」厚生労働統計協会				
学生に対する評価：				
定期試験、レポート等を総合判定で評価する。				
評価の割合は概ね、定期試験80％、授業課題等20％とする。				
履修上の注意・メッセージ：				
衛生学は多岐にわたる分野であるため、欠席をするとその分野の学習機会が失われることになる。実習校との打ち合わせ等で欠席せざるを得ない場合には注意すること。				
Googleの各サービスを利用して資料共有、課題提出、グループワークを行うため、入学時に準備したPCを用意しておくこと。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小島 尚
授業科目名： 予防医学		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	養護に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む。）			
授業の到達目標及びテーマ： 予防医学は疾病や創傷を治療するのみならず、それらを予防し、更に、人の健康の保持増進することを目的とする。予防医学ではその理論、技術や応用などの概要を学び理解して、児童生徒を疾病やケガから守るための知識を身に着ける。				
授業の概要： 予防医学は公衆衛生学の一分野であるが、養護教員養成課程の入門科目として、身の回りの様々な現象を通して広く、予防の重要性や有用性を理解できるように進める。予防医学はこれから学ぶ、衛生学や公衆衛生学と非常に密接な領域であり、その基礎となるように学ぶ。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション（健康を守ることとは何か？）				
第2回：健康とは（健康づくりと3本柱）				
第3回：健康とは（ライフステージとそれぞれの健康）				
第4回：健康のための運動の基礎（健康における体力や筋肉のはたらき）				
第5回：健康のための運動の実際（疾病の予防に役立つ運動と疾病予防）				
第6回：健康のための食生活（体重管理と栄養）				
第7回：健康のための食生活（サプリメントの功罪）				
第8回：飲酒の科学（アルコールの影響と中毒）				
第9回：喫煙の科学（たばこの危害性と禁煙治療） 生活習慣病を理解する				
第10回：メタボリックシンドロームと生活習慣病の予防				
第11回：精神的ストレスと運動				
第12回：予防医学における口腔保健				
第13回：感染症予防の要因（社会インフラとしての上下水道）				
第14回：地球環境と健康問題（SDGs、地球沸騰）				
第15回：養護教諭が行う学校保健と健康管理の振り返り（講義の総まとめ）				
定期試験				
なお、遠隔授業等が実施される際には、講義順や内容が変更される場合がある。				
テキスト： イラスト 健康増進科学概論〈第2版〉 今村裕行、沖嶋今日太 他、（東京教学社） 角南 良幸 著（杏林書院）				
参考書・参考資料等： 小泉昭夫編 NEW 予防医学・公衆衛生学（南江堂） その他、講義内で必要に応じて随時紹介する。				
学生に対する評価： 定期試験と授業中の質問や演習問題、小テストに対する解答等を総合判定で評価する。評価の割合は概ね、定期試験80%、提出物及び授業中の試験等20%程度とする。				
履修上の注意・メッセージ： 予防医学は1年生に設置されていることから、公衆衛生学の一分野として予防医学にとどまらず、健康を維持増進するための主要なテーマ（運動や栄養、環境など）について広く学ぶ。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：岩見 文博
授業科目名： 衛生学演習Ⅰ		必修	2単位（30時間）	形態：単独 / 演習
科 目	養護に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む。）			
授業の到達目標及びテーマ： 健康診断等の検査技術や方法、健康教育を行うために必要な知識・技術を習得する。				
授業の概要： 健康診断実施および結果の活用について、講義・実習・課題発表を通して学習する。				
授業計画 第1回：学校における健康診断の位置付け、目的 第2回：健康診断における事前準備 第3回：健康診断の検査項目と方法1（身長、体重、栄養状態） 第4回：健康診断の検査項目と方法2（脊柱、四肢の状態） 第5回：健康診断の検査項目と方法3（歯科、口腔） 第6回：健康診断の検査項目と方法4（視力、眼科） 第7回：健康診断の検査項目と方法5（聴力） 第8回：健康診断の検査項目と方法6（結核、心臓、尿） 第9回：健康診断の事後措置 第10回：職員の健康診断の目的と内容 第11回：就学時健康診断、臨時健康診断の目的と内容 第12回：結果の活用と保健指導1（指導案作成） 第13回：結果の活用と保健指導2（保健だより作成） 第14回：結果の活用と保健指導3（掲示物作成） 第15回：結果の活用と保健指導4（模擬授業） 定期試験 なお遠隔授業の実施、課題対応、授業の進行度により講義順や内容が変更される場合がある。				
テキスト： 「新訂版学校保健実務必携」学校保健・安全実務研究会 編著（第一法規）				
参考書・参考資料等： 「養護教諭執務のてびき」植田誠治 監修（東山書房） 「養護教諭の活動の実際」林典子 監修（東山書房）				
学生に対する評価： 定期試験とレポート、授業内発表等を総合判定で評価する。 評価の割合は概ね、定期試験80％、授業課題や発表等20％とする。				
履修上の注意・メッセージ： 教育実習期間中に健康診断を実施する実習校が多くある。各検査の実技に際して、実際の測定と思い、教師役・児童生徒役になりきり、真剣に取り組むこと。そのため実技の際には動きやすい服装で参加することが望ましい。 Googleの各サービスを利用して資料共有、課題提出、グループワークを行うため、入学時に準備したPCを用意しておくこと。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：高嶋 遥香
授業科目名：学校保健		必修	2単位（30時間）	形態：単独 / 講義
科 目	養護に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	学校保健			
授業の到達目標及びテーマ：学校保健の意義と構造を理解し、活動の展開に必要な基本的知識を学習することを通して、養護教諭として必要な資質能力を培うことを目指す。到達目標：学校保健の構造を理解し、各領域の内容と根拠を説明できる。児童生徒の健康課題を解決するための学校保健活動の展開について説明できる。				
授業の概要：学校において児童生徒等の健康の保持増進を図り、安心・安全な教育環境を整備することは重要である。児童生徒の健康実態を踏まえ、学校保健の意義とその内容を具体的に学習することで、学校保健活動を展開するために必要な資質能力を培う。学校保健に関する法的根拠と理論を中心に学習する。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション、学校保健の意義				
第2回：学校保健の領域と構造				
第3回：学校保健計画、学校安全計画				
第4回：保健管理1（健康診断）				
第5回：保健管理2（学校安全と危機管理）				
第6回：保健管理3（救急処置）				
第7回：保健管理4（健康観察と疾病管理）				
第8回：保健管理5（学校感染症）				
第9回：保健管理6（学校環境衛生）				
第10回：保健管理7（健康相談）				
第11回：保健教育1（教科における保健教育）				
第12回：保健教育2（その他の健康に関する指導）				
第13回：保健教育3（保健指導場面演習）				
第14回：保健組織活動、関係機関との連携				
第15回：学校保健の事例検討、学校保健の意義と構造・活動の展開のまとめ				
定期試験				
テキスト：				
「新版 学校保健」徳山美智子 他（東山書房）				
参考書・参考資料等：				
「新訂版 学校保健実務必携」学校保健・安全実務研究会（第一法規株式会社）				
学生に対する評価：				
定期試験（80%）、授業参加状況及び提出物（20%）から総合的に評価する。				
履修上の注意・メッセージ：				
講義ではスライド資料を配布する。テキストを用いて予習・復習を行うこと。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：高嶋 遥香
授業科目名： 養護概説		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	養護に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	養護概説			
授業の到達目標及びテーマ：養護教諭の職務と役割を理解し、養護の概念を考究することを通して、自己の養護観を養うことを目指す。到達目標：養護教諭制度の変遷を理解し、養護の概念を説明できる。保健室の機能と専門性を活かした養護教諭の職務と役割について具体的に説明できる。				
授業の概要：児童生徒の現代的健康課題の解決にあたって養護教諭の職務は一層重要性を増している。学校において養護教諭として期待される役割を果たすためにその職務と役割の具体的な内容を学習する。養護教諭の専門性及び保健室の機能を理解することを通して、養護教諭に必要な基礎的資質能力を培う。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション、養護とは				
第2回：養護教諭制度の歴史				
第3回：養護教諭の職務と役割の変遷				
第4回：保健室経営計画、保健室の機能				
第5回：健康診断と保健調査				
第6回：危機管理体制の整備と学校事故				
第7回：養護教諭の行う救急処置				
第8回：健康観察と疾病管理				
第9回：感染症の予防と対応				
第10回：学校環境衛生の意義と実際				
第11回：養護教諭の行う健康相談				
第12回：養護教諭の行う保健教育				
第13回：児童生徒の健康実態の把握				
第14回：養護教諭の倫理綱領				
第15回：学校保健組織活動、養護教諭の職務と役割まとめ				
定期試験				
テキスト：				
「新訂 養護概説」三木とみ子（ぎょうせい）				
参考書・参考資料等：				
「新訂版 学校保健実務必携」学校保健・安全実務研究会（第一法規株式会社）				
学生に対する評価：				
定期試験（80%）、授業参加状況及び提出物（20%）から総合的に評価する。				
履修上の注意・メッセージ：				
講義ではスライド資料を配布する。テキストを用いて予習・復習を行うこと。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：山本 卓也
授業科目名：解剖学		必修	2単位（30時間）	形態：単独　／　講義
科　　目	養護に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	解剖学・生理学			
授業の到達目標及びテーマ：				
人体の形態と構造を理解するための基本知識を養うことを目的とする。				
授業の概要：				
人体の正常な形態と構造を理解するうえで人体を各系統に分け、それらを構成する体のしくみを細胞から器官にいたる各単位の基本的な形態と構造について学ぶ。				
授業計画				
第1回：序章　人体の構造を学ぶにあたって、第1章　人体の概観と細胞・組織①（細胞）				
第2回：第1章　人体の概観と細胞・組織②（組織）、第2章　消化器系①（消化管）				
第3回：第2章　消化器系②（肝臓・胆嚢・膵臓）				
第4回：第2章　消化器系③（消化管ホルモン、消化酵素）				
第5回：第3章　血液、造血器、リンパ系				
第6回：第5章　循環器系				
第7回：第6章　呼吸器系				
第8回：第7章　腎・尿路系				
第9回：第8章　神経系、感覚器系				
第10回：第9章　内分泌系①（視床下部・下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン）				
第11回：第9章　内分泌系②（副腎皮質・髄質ホルモン、性腺ホルモン）				
第12回：第10章　生殖器系				
第13回：第11章　運動器（筋・骨格）系				
第14回：第12章　皮膚と体温調節				
第15回：人体の形態・構造についての振り返り				
定期試験				
テキスト：				
健康・栄養科学シリーズ　解剖生理学　上田繁・濱田俊編　南江堂				
参考書・参考資料等：				
授業に使用する資料は適宜配布する。				
学生に対する評価：				
定期試験（70％）、毎授業終了後の小テスト（30％）				
履修上の注意・メッセージ：				
座学のみになるが、養護教諭として今後深く理解していくための基本知識となるため、しっかりと学ぶこと。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：山本 卓也
授業科目名： 生理学		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	養護に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	解剖学・生理学			
授業の到達目標及びテーマ：				
人体は、それを構成する細胞・組織・器官が正常な形態を保ち、適確に生理機能を果たすことで健康な生活を営んでいる。その生理機能を理解するための基本知識を養うことを目的とする。				
授業の概要：				
生理学は、解剖学を基礎として、身体を構成する細胞・組織・器官が正常な形態を保った状態での機能について理解する科目である。それぞれの組織や器官別に整理し、学習する。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション（ひとの正常と疾病状態を学ぶための基礎）				
第2回：消化管の機能①（胃、小腸、大腸）				
第3回：消化管の機能②（肝臓、胆嚢、膵臓）				
第4回：消化管の機能③（消化管ホルモン、消化酵素）				
第5回：血液のはたらき				
第6回：心臓の機能、循環調節機構				
第7回：肺の機能				
第8回：腎機能				
第9回：神経の機能、感覚器の機能				
第10回：ホルモンの作用①（視床下部・下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン）				
第11回：ホルモンの作用②（副腎皮質・髄質ホルモン、性腺ホルモン）				
第12回：生殖器の機能				
第13回：運動器（筋・骨格）の機能				
第14回：皮膚の機能、体温調節機構				
第15回：人体の生理機能についての振り返り				
定期試験				
テキスト：				
健康・栄養科学シリーズ 解剖生理学 上田繁・濱田俊編 南江堂				
参考書・参考資料等：				
授業に使用する資料は適宜配布する。				
学生に対する評価：				
定期試験（70％）、毎授業終了後の小テスト（30％）				
履修上の注意・メッセージ：				
座学のみになるが、養護教諭として今後深く理解していくための基本知識となるため、しっかりと学ぶこと。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小島 尚
授業科目名：微生物学		必修	2単位（30時間）	形態：単独 / 講義
科 目	養護に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	「微生物学、免疫学、薬理概論」			
授業の到達目標及びテーマ： 本講義では新型コロナをはじめとする感染症の原因となる微生物について、その種類や生物学的性質を学び、学校生活において感染症予防への基礎を身に着けることを目指す。				
授業の概要： 人は様々な微生物に囲まれている。それらには、感染症を引き起こす病原微生物もあり、その予防のための消毒殺菌、ワクチンや化学療法等も重要項目として理解する。しかし、食品等をもたらす有益な微生物も存在していることも学ぶ。授業では学んだ知識をイメージできるようにしたい。				
授業計画				
第1回：総論①生物における微生物（病原微生物を中心として）				
第2回：総論②微生物の基礎（微生物のそれぞれの特徴）				
第3回：総論③感染症の三大要因と常在菌				
第4回：総論④滅菌と消毒				
第5回：総論⑤化学療法				
第6回：総論⑥感染症の予防と微生物学的検査方法				
第7回：各論①細菌と細菌感染症（グラム陽性菌）				
第8回：各論②細菌と細菌感染症（グラム陰性菌）				
第9回：各論③細菌と細菌感染症（その他）				
第10回：各論④ウイルスとウイルス感染症（感染症法を中心として）				
第11回：各論⑤ウイルスとウイルス感染症（新興感染症を含む）				
第12回：各論⑥真菌及び原虫と真菌及び原虫感染症				
第13回：有用微生物①（食品における微生物のはたらき）				
第14回：有用微生物②（環境や創薬における微生物のはたらき）				
第15回：養護教諭が行う健康管理の振り返り（講義の総まとめ）				
定期試験				
なお、遠隔授業等が実施される際には、講義順や内容が変更される場合がある。				
テキスト： ビジュアル微生物学（整理ノート付き） 小田 紘著 （ヌーヴェルヒロカワ）				
参考書・参考資料等： 身近にあふれる「微生物」が3時間でわかる本 左巻 健男著 （明日香出版社） （有用微生物についてはこの参考図書から引用の予定）				
学生に対する評価： 定期試験と授業中の質問や演習問題、小テストに対する解答等を総合判定で評価する。評価の割合は概ね、定期試験80%、提出物及び授業中の試験等20%程度とする。				
履修上の注意・メッセージ： 微生物学は生物学の一分野でもあることから、自然科学、解剖生理学などと連携して学習するようにしてください。今後の演習や実習における消毒や殺菌などの基礎となる知識と理論を身に着けるため、単なる知識を記憶する科目としないほしい。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：山本 卓也
授業科目名：免疫学		必修	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	養護に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	「微生物学、免疫学、薬理概論」			
授業の到達目標及びテーマ：				
我々ヒトの健康を守る免疫機能についての基本知識を習得することを目標とする。				
授業の概要：				
獲得免疫と自然免疫の違いを理解する。またアレルギーや自己免疫疾患、がん治療や臓器移植、再生医療についても最新の知見を交えながら学ぶ。				
授業計画				
第1回：免疫反応ではたらく細胞たち				
第2回：獲得免疫系の仕組みの根本原理				
第3回：自然免疫系による病原体の感知①（自然免疫系の反応、病原体を攻撃する仕組み）				
第4回：自然免疫系による病原体の感知②（病原体を感知して警報する仕組み）				
第5回：抗原特異的な反応の仕組み				
第6回：多様性のつくられ方と自己寛容の成立①（抗原レセプター、多様性）				
第7回：多様性のつくられ方と自己寛容の成立②（自己寛容）				
第8回：抗体産生が起こるまでの仕組み①（二次リンパ組織）				
第9回：抗体産生が起こるまでの仕組み②（抗体のクラススイッチ、親和性成熟）				
第10回：感染症と免疫細胞の分業				
第11回：がんに対する免疫				
第12回：アレルギー				
第13回：自己免疫疾患				
第14回：移植医療・再生医療と免疫				
第15回：免疫学全般についての振り返り				
定期試験				
テキスト：				
「マンガでわかる免疫学」河本 宏 著（オーム社）				
参考書・参考資料等：				
授業に使用する資料は適宜配布する。				
学生に対する評価：				
定期試験（70％）、毎授業終了後の小テスト（30％）				
履修上の注意・メッセージ：				
座学のみになるが、養護教諭として今後深く理解していくための基本知識となるため、しっかりと学ぶこと。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：千足 久美
授業科目名：基礎看護Ⅰ		必修	2単位(30時間)	形態：単独／講義
科 目	養護に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）			
授業の到達目標及びテーマ：				
児童生徒の集団並びに個人の健康レベルや健康問題を的確に把握・分析・解釈、対応計画の立案、対応・評価の過程を適切に遂行する能力の習得を目指す。				
授業の概要：				
養護教諭に必要な基礎的看護知識及び看護技術を習得するとともに、様々な健康レベルの児童生徒等の対応に向けた基礎を学ぶ。				
授業計画				
第1回：看護とは				
第2回：看護の4つの主要概念Ⅰ				
第3回：看護の4つの主要概念Ⅱ				
第4回：看護における倫理				
第5回：ライフサイクルと看護1（新生児期、幼児期、学童期、思春期）				
第6回：ライフサイクルと看護2（母性、成人期、老年期）				
第7回：生活環境の調整と援助技術（ベッドメイキング）				
第8回：看護の基礎として必要な技術1（バイタルサインの測定）				
第9回：看護の基礎として必要な技術2（フィジカルアセスメント）				
第10回：看護の基礎として必要な技術3（感染予防）				
第11回：看護の基礎として必要な技術4（コミュニケーションと安全安楽）看護過程Ⅰ				
第12回：看護過程Ⅱ				
第13回：身体的ニーズの充足と援助技術1（安楽な体位、移動の援助）				
第14回：身体的ニーズの充足と援助技術2（食事、睡眠、清潔の援助）				
第15回：心理的ニーズの充足と援助技術				
定期試験				
テキスト：				
適宜必要な資料を配布する				
参考書・参考資料等：				
「新版 学校看護」遠藤伸子・池添志乃・籠谷恵（編著）、東山書房				
「看護学概論-基礎看護学1, 2, 3-」医学書院				
学生に対する評価：				
定期試験（50%）、授業内課題(40%)、課題発表内容（10%）で総合的に評価する。				
履修上の注意・メッセージ：講義の他にディスカッション、グループワークを行います。積極的に参加してください。詳細は最初の授業で説明します。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：岩見 文博
授業科目名：基礎看護Ⅱ		必修	2単位（30時間）	形態：単独／講義
科 目	養護に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）			
授業の到達目標及びテーマ： 児童生徒の集団並びに個人の健康レベルや健康問題を的確に把握・分析・解釈、対応計画の立案、対応・評価の過程を適切に遂行する能力の習得を目指す。また児童生徒・保護者・教職員に対して健康教育を適切に行う方法を模索することが出来るようになる。				
授業の概要： よくみられる主訴（症状）から児童生徒等への対応方法、児童生徒等・教職員・保護者への健康教育について検討する。それにより健康レベルに応じた対応、どのような指導が相手に伝わるのかを考える基礎を学ぶ。				
授業計画 第1回：学校看護とは 第2回：看護実践のプロセス 第3回：基本的生活習慣と支援技術 第4回：急性期症状と支援1（頭痛・腹痛） 第5回：急性期症状と支援2（嘔気・嘔吐・便秘） 第6回：急性期症状と支援3（下痢・発熱） 第7回：急性期症状と支援4（ショック・意識障害） 第8回：急性期症状と支援5（掻痒） 第9回：慢性疾患の理解と支援1（気管支喘息とアレルギー） 第10回：慢性疾患の理解と支援2（先天性心疾患） 第11回：慢性疾患の理解と支援3（糖尿病） 第12回：慢性疾患の理解と支援4（腎臓病） 第13回：慢性疾患の理解と支援5（てんかん） 第14回：入院中・手術を受ける子どもと家族の支援 第15回：教育ツールの検討（アイスブレイク、カルテッド等） 定期試験 なお遠隔授業の実施、課題対応、授業の進行度により講義順や内容が変更される場合がある。				
テキスト： 「保健室で役立つステップアップフィジカルアセスメント」山内豊明（監修）、東山書房				
参考書・参考資料等：「最新看護学」中桐佐知子 他（編著）、東山書房 「看護学概論-基礎看護学1,2,3-」医学書院 「学校看護」岡田加奈子 他（編著）、東山書房				
学生に対する評価： 定期試験とレポート、授業内発表等を総合判定で評価する。 評価の割合は概ね、定期試験80％、レポートや発表等20％とする。				
履修上の注意・メッセージ： 児童生徒に健康教育を行うには、直接的な指導（児童生徒対象）と間接的な指導（教職員・保護者）と使い分ける必要がある。一方の視点だけにならないように注意すること。 Googleの各サービスを利用して資料共有、課題提出、グループワークを行うため、入学時に準備したPCを用意しておくこと。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：千足久美、並木久美子
授業科目名：基礎看護技術Ⅰ		必修	1単位（30時間）	形態：複数／演習
科 目	養護に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）			
授業の到達目標及びテーマ： 専門職として健康問題を的確に把握し、根拠に基づいて自ら対応を遂行できる基本的な知識・技術を身に付ける。感染予防行動や養護過程に関わる基礎の看護技術の習得。				
授業の概要： 保健室で主に対応する看護技術の基礎と応用を中心に行う。主体的に看護技術が習得できるように個人・ペア・グループ学習を基礎、応用と段階を経るように事例などを用い、現実場面をイメージしながら考えさせ対応する看護技術を習得できるようにする。				
授業計画 第1回：オリエンテーション；養護教諭の職務と本科目の概要、学習上の留意事項 第2回：感染予防Ⅰ（手指の清潔の意義と手洗い及び擦式手指消毒の実際） 第3回：感染予防Ⅱ（マスク・手袋着用、消毒液、エタノール綿花等の準備、消毒の実際） 第4回：感染予防Ⅲ（消毒の実際） 第5回：包帯法Ⅰ（三角巾） 第6回：包帯法Ⅱ（巻軸包帯・伸縮包帯・チューブ包帯） 第7回：環境整備Ⅰ（ベッドメイキング） 第8回：環境整備Ⅱ（室内の整備と清潔保持） 第9回：コミュニケーション・ヘルスアセスメントⅠ（バイタルサインー体温・脈拍・呼吸の測定） 第10回：ヘルスアセスメントⅡ（バイタルサインー血圧の測定） 第11回：ヘルスアセスメントⅢ（フィジカルアセスメントー問診・視診・触診・聴診・打診） 第12回：ヘルスアセスメントⅣ（フィジカルアセスメントー循環動態・呼吸器系アセスメント） 第13回：ヘルスアセスメントⅤ（フィジカルアセスメントー運動器系・中枢神経系のアセスメント・） 第14回：ヘルスアセスメントⅥ（フィジカルアセスメントー課題総合演習1） 第15回：ヘルスアセスメントⅦ（フィジカルアセスメントー課題総合演習2）				
定期試験				
テキスト： 「看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術 第3版」角濱春美他編者（メディカルフレンド社）				
参考書・参考資料等：看護がみえる1 基礎看護技術（メディックメディア） 看護がみえる3 フィジカルアセスメント（メディックメディア） 「新版 学校看護」遠藤伸子・池添志乃・籠谷恵 編著（東山書房）				
学生に対する評価： 定期試験(50%)、授業内技術試験(40%)、レポート等提出物(10%)で総合的に評価する。				
履修上の注意・メッセージ：技術練習は学生同士で養護教諭役、児童生徒役となり実施します。養護教諭として職務にふさわしい身だしなみ（髪型、衣服、爪）を整えて参加してください。身だしなみが整っていない場合、技術演習は見学となります。詳細は最初の授業で説明します。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：千足久美、並木久美子
授業科目名：基礎看護技術Ⅱ		必修	1単位（30時間）	形態：複数／演習
科 目	養護に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）			
授業の到達目標及びテーマ：				
保健室での体位変換など基本的な安楽な技術、救急処置時の技術習得と保健室を機能的に運営するための、設備・備品や物品の清潔保持、保守・点検等、保健室管理の役割を果たす素養を身につける				
授業の概要：				
保健管理に必要な看護技術が習得できるように個人・ペア・グループ学習を基礎、応用と段階を経るように現実場面を考えさせ適切な看護技術を習得できるようにする。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション・心のケアとコミュニケーション				
第2回：活動・休息援助技術：安楽な体位の援助Ⅰ（諸体位）				
第3回：活動・休息援助技術：安楽な体位の援助Ⅱ（体位変換）・ポジショニング				
第4回：活動・休息援助技術：移動の援助Ⅰ（車いす・ストレッチャー）				
第5回：苦痛の緩和・安楽保持：罨法（概要 冷罨法・温罨法）				
第6回：感染予防Ⅳ-1（嘔吐物の処理と消毒）				
第7回：感染予防Ⅳ-2（集団生活の場の嘔吐物の処理）				
第8回：養護過程Ⅰ 定期健康診断の実際				
第9回：感染予防Ⅴ（滅菌物の取り扱い方）				
第10回：衣生活援助技術（更衣の介助）				
第11回：創傷管理技術：創傷処置・救命救急処置技術Ⅰ（エビペン）				
第12回：包帯法Ⅲ-1（副木等を使用した四肢の固定）				
第13回：包帯法Ⅲ-2（副木等を使用した四肢の固定）				
第14回：救命救急処置技術Ⅱ（心肺蘇生・止血）				
第15回：医療的ケア（呼吸・循環を整える技術）の概要				
定期試験				
テキスト：				
「新版 学校看護」遠藤伸子・池添志乃・籠谷恵 編著（東山書房）				
参考書・参考資料等：新訂版「学校保健実務必携」学校保健・安全実務研究会編著（第一法規） 「看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術 第3版」角濱春美他編著（メディカルフレンド社） 看護がみえる1 基礎看護技術（メディックメディア）				
学生に対する評価：				
定期試験（50％）、授業内技術試験(40％) レポート等提出物(10%)で総合的に評価する。				
履修上の注意・メッセージ：技術練習は学生同士で養護教諭役、児童生徒役となり実施します。養護教諭として職務にふさわしい身だしなみ（髪型、衣服、爪）を整えて参加してください。身だしなみが整っていない場合、技術演習は見学となります。詳細は最初の授業で説明します。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小林 久美
授業科目名：保健室経営		必修	2単位（30時間）	形態：単独　／　講義
科　　目	養護に関する科目			
科目に含めることが必要な事項	養護概説			
授業の到達目標及びテーマ：				
保健室経営の基礎的内容を理解し、養護教諭として学校の保健室経営計画の立案から改善までの、児童生徒を適切に支援できる保健室経営能力を身につける。				
授業の概要：				
保健室の機能と保健室経営の基礎的内容を学習し、実際に保健室経営計画を立案・発表、保健室掲示物の作成・発表を行い、特色ある保健室経営能力を養う。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション・保健室経営とは				
第2回：児童生徒の健康問題の実際と保健室経営				
第3回：保健室経営の構造と実際（養護教諭の1日の活動例）				
第4回：保健室経営の意義と重要性				
第5回：学校保健活動センター的役割としての保健室経営				
第6回：保健室のレイアウトと備品、施設・設備、諸帳簿				
第7回：保健室経営計画の基本的内容と作成手順				
第8回：保健室経営計画の評価				
第9回：保健室経営計画の立案				
第10回：保健室経営の進め方1（保健情報センターとしての機能）				
第11回：保健室経営の進め方2（保健組織活動のセンターとしての機能）				
第12回：保健室機能を活かした保健室掲示物の活用方法				
第13回：保健室掲示物の作成				
第14回：保健室掲示物の発表				
第15回：これからの保健室経営と今後の課題（まとめ・振り返り）				
定期試験				
テキスト：適宜、資料を配布する。				
参考書・参考資料等：				
「新訂版　学校保健実務必携」　第1法規				
学生に対する評価：				
定期試験（50％）と、授業態度や課題提出及び発表（50％）の総合判定により評価する。				
履修上の注意・メッセージ：				
実践力が身につくように、これまでの現場経験を紹介しながら、ディスカッション、プレゼンテーションなど演習を中心に進めていきますので、積極的な授業参加を期待しています。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：藤原 悦子
授業科目名：国語学		必修選択	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	-			
授業の到達目標及びテーマ：教員・保育者としての国語に対する幅広い教養を深め、思考力、判断力、表現力を養い、社会生活で活用する力を身に付けている。				
授業の概要：本講座では、教員・保育者として必要な国語についての幅広く、正しい知識と読解力・実践力を習得する。日本語の特色を音韻音声、語彙、文法、文字表記などから理解し、文章表現等で活用できる能力を身に付ける。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション・国語・日本語をどうとらえるか				
第2回：日本語の音声・音韻				
第3回：日本語の語彙① 体系・語形成・表現				
第4回：日本語の語彙② 類義語・対義語				
第5回：日本語の文法① 品詞・実生活での活用				
第6回：日本語の文法② 敬語(謙譲語・尊敬語・丁寧語)				
第7回：日本語の文字・表記 (平仮名・片仮名・漢字)				
第8回：日本文学史① 奈良時代から江戸時代まで(発表形式)				
第9回：文章読解① 古典原文に親しむ				
第10回：日本文学史② 明治から現代まで(発表形式)				
第11回：文章読解② 物語文・詩を読む				
第12回：文章読解③ 評論・新聞を読む (グループ討議を含む)				
第13回：文章表現① 題材選択・要旨・構成パターン・段落等について				
第14回：文章表現② 小論文作成・推敲				
第15回：文章表現③ 小論文発表 相互評価				
定期試験				
テキスト：「ビジュアルカラー国語便覧 改訂版」大修館書店、授業中に資料も配布する。				
参考書・参考資料等：				
井坂淳一『ここからはじまる日本語学』ひつじ書房 橋本信吉『国語学概論』岩波書店				
小西甚一『日本文学史』(講談社学術文庫) 古典文学全集 小学館				
「漢字検定二級 頻出度問題集」高橋書店				
学生に対する評価：				
定期試験(50%) 提出物・発表内容等(50%)を総合的に判定して評価する。				
履修上の注意・メッセージ：				
社会に出て必要とされるのが確かな国語力です。多くの人々と関わる教師や保育者の仕事にとって必要なことを念頭においたカリキュラムとなっています。広い知識の獲得はもとより、発表活動も取り入れていますので、受け身の態度でなく、楽しんで取り組んでほしいと思います。提出物は確実に出示してください。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：高橋 宏彰
授業科目名： 数学 1		必修選択	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	－			
授業の到達目標及びテーマ：教育に携わる者として基礎的な数学についての知識・数学的な物の見方等を育み、問題解決能力を学び、論理的思考を身につけることを目標とする。				
授業の概要：数学Ⅰ・Aは数式および論理的思考の基盤であり、より高度で深く学ぶ数学へと繋がる基礎的素養である。基礎力を学び、数学が日常で使われている場面の考察をする。				
授業計画				
第1回：数学を学ぶ意義、数と式（式の展開、因数分解）				
第2回：数と式（1次不等式、連立不等式）				
第3回：数と式（分母の有理化、絶対値を含む方程式・不等式）				
第4回：2次関数（2次関数のグラフ）				
第5回：2次関数（2次関数の最大・最小、式の求め方）				
第6回：2次関数（2次方程式の実数解、2次関数のグラフとx軸の共有点）				
第7回：2次関数（2次不等式、応用）				
第8回：図形と計量（サイン・コサイン・タンジェント、三角比の相互関係）				
第9回：図形と計量（正弦定理、余弦定理）				
第10回：図形と計量（三角形の面積）＋平面図形（三角形の角の二等分線と比）				
第11回：平面図形（円と角、方べきの定理）				
第12回：場合の数と確率（集合の要素の個数、順列）				
第13回：場合の数と確率（円順列、重複順列、組合せ）				
第14回：場合の数と確率（確率の加法定理、余事象の確率）				
第15回：場合の数と確率（独立な試行の確率、応用）				
定期試験				
テキスト：				
「中学数学をおさらいしながらすすめる高等学校数学Ⅰ・A<改訂版>」（Gakken）				
参考書・参考資料等：				
「ルーズリーフ参考書高校数学Ⅰ・A[改訂版]」（Gakken）				
学生に対する評価：				
定期試験（50パーセント）、授業レポート・小テスト（50パーセント）				
履修上の注意・メッセージ：				
特になし				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：山崎 英二
授業科目名：英語1		必修選択	2単位（30時間）	形態：単独／演習
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	－			
授業の到達目標及びテーマ：外国語を学ぶ意義と楽しさを理解する。基本的な英語、日常生活で用いられる実用的な英語を学び、気持ちを込めて使用できるようになる。異文化を理解し、自文化との相違点を考慮することで文化の多用性を自発的に学び、異文化を背景にする子どもと保護者を理解する姿勢を身につける。				
授業の概要：英語が実際に使われる実践場面を想定して、ロールプレイやグループ活動等を通して実用的な英語表現を学んでいく。また異文化をテーマにした教材を通して異文化を理解し、母文化との相違点を考慮することで、文化の多様性について学ぶ。できる限り教育現場に即した会話を想定する。				
授業計画				
第1回：Course schedule and introduction / Meaning of learning English 英語を学ぶ意義				
第2回：Basic knowledge of English learning / 英語学習の基本的知識				
第3回：Cross-cultural understanding：What is culture？Culture related issues 文化とは				
第4回：Expressing foreign cultural features 異文化の理解				
第5回：Expressing Japanese cultural concepts. 自文化の再認識				
第6回：Environmental Issues：Environmental dangers and solutions 環境問題について				
第7回：A trend of educational policy in japan and nutrition education 食育について				
第8回：Introduction to Nutrition in English 栄養について				
第9回：Learn nutrition reviews：Dietary life and Environment 栄養と生活習慣				
第10回：Health and medical Issues：social environment 健康と医療について				
第11回：Injuries and Illness 疾病と負傷について				
第12回：Prevention is better than cure：Ways to keep healthy 予防と治療、健康維持				
第13回：How do we explain our symptoms？ 症状を説明する				
第14回：Close to children’s feeling 子どもの気持ちに寄り添う				
第15回：Course conclusion and revision of all major areas examined throughout まとめ				
定期試験				
テキスト：授業中に指示する。				
参考書・参考資料等：『Communication：East and West』カール・ビーカー 著（英宝社） 『臨床看護英語』二木久恵、助川尚子 著（医学書院）				
学生に対する評価：プレゼンテーション（30％）、チェックテスト（30％）、定期試験（40％）				
履修上の注意・メッセージ：日常生活で用いられる英語の学びや異文化をテーマにした英語表現を通して、子どもたちに何を伝えるべきかを考える機会にしてください。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：川瀬 一弥
授業科目名：現代社会		必修選択	2単位(30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	-			
授業の到達目標及びテーマ： 現代の社会を正しく把握することにつとめ、教育に期待されるもの、教育に求められるもの、教育の果たす役割を、現代という時間軸を通して理解するとともに、そこから現代社会においてあるべき教育者、求められる教育とは何か考えてみたい。				
授業の概要： 現代社会における様々な課題に対して、正確な認識に基づいて対処改善するために必要な視野を獲得、育成する方法を考察する。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション 話し合い活動（「教員」についての職業観、聖職者とは）				
第2回：少子化				
第3回：高齢化				
第4回：情報化（メディア化）				
第5回：環境教育				
第6回：国際化と教育				
第7回：教育における「能力」とは				
第8回：日本における「職能教育」				
第9回：科学と私たち ①身体論と生命倫理				
第10回：科学と私たち ②Society5.0				
第11回：公立学校と私立学校				
第12回：学校外での学び（塾、予備校等）				
第13回：海外の学校				
第14回：教員不足の背景 話し合い活動（人材確保と教育の質と）				
第15回：学歴と学校歴				
定期試験				
テキスト：				
「未来の年表」河合雅司（講談社）				
参考書・参考資料等：				
授業中に指示、紹介する。				
学生に対する評価：				
授業ごとの振り返り（質問用紙の提出 40％）、定期試験（60％）				
履修上の注意・メッセージ： 極力、一方的な情報・知識の伝達に終始することなく、双方向的なそして発展的な授業を目指して行こうと考えています。一人ひとりが互いの意見や考えからスパークできる思考回路の構築に至れば幸いです。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：香取 利彦
授業科目名：日本史 1		必修選択	2単位 (30時間)	形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	－			
授業の到達目標及びテーマ：				
歴史の基本的な考察方法を理解するとともに、主題を設定して追求する学習や地域社会にかかわる学習などを通じて、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。				
授業の概要：				
歴史学とは、「いま」の生活を起点にして過去と対話することです。自分自身の「現在」と向き合い、教科書や授業で扱われてきた歴史上の事実以外に存在する多くの事実視野をあてながら、さまざまな視点を育てていく機会を提供する。（原始・古代～近世）				
授業計画				
第1回：日本文化のあけぼの				
第2回：律令国家の形成				
第3回：貴族政治と国風文化				
第4回：中世社会の成立：院政と平氏の台頭・鎌倉幕府の成立				
第5回：中世社会の成立：武士の社会・蒙古襲来と幕府の衰退・鎌倉文化				
第6回：武家社会の成長：室町幕府の成立・幕府の衰退と庶民の台頭				
第7回：武家社会の成長：戦国大名の登場				
第8回：幕藩体制の確立：織豊政権・桃山文化				
第9回：幕藩体制の確立：幕藩体制の成立				
第10回：幕藩体制の展開：幕政の安定				
第11回：幕藩体制の展開：経済の衰退・元禄文化				
第12回：幕藩体制の動揺：幕政の改革				
第13回：幕藩体制の動揺：幕府の衰退・化政文化				
第14回：史実と史観について				
第15回：原始・古代から近世までの振り返りとまとめ				
定期試験				
テキスト				
木村茂光・小山俊樹・戸部良一・深谷幸治編『大学で学ぶ日本の歴史』（吉川弘文堂）				
参考書・参考資料等				
詳説日本史図録編集委員会編『詳説日本史図録』（山川出版社）				
学生に対する評価				
定期試験：50％ 授業時の小課題：50％				
履修上の注意・メッセージ：				
特になし				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：高山 英己
授業科目名：理科演習		必修選択	2単位（30時間）	形態：単独　／　演習
科　　目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	－			
授業の到達目標及びテーマ：小学校理科の「A物質・エネルギー」領域の教材を中心に理解をし、安全な観察や実験の実施に必要な知識及び技能を習得する。				
授業の概要：小学校教員として、理科の授業を行う際に身につけておくべき理科の見方、考え方について実際に実験器具を使用し、実験器具の取り扱い方を学ぶ。実習・実験を中心とした演習である。 受講人数等により、授業内容・教材を変更する場合がある。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション、「観察・実験の準備」				
第2回：実習　基礎的な実験観察器具の使用法①（「測定の仕方」）				
第3回：実習　基礎的な実験観察器具の使用法②（「ガラス器具・加熱器具の取り扱い方」）				
第4回：実験「スライムを作ろう」				
第5回：実験「スーパーボールを作ろう」				
第6回：実験「人工イクラを作ろう」				
第7回：実験「葉脈標本を作ろう」				
第8回：実験「振り子の運動」				
第9回：実験「てこのはたらき」				
第10回：実験「簡易分光器を使って光を観察しよう」				
第11回：実験「空気と水」・「ペットボトル空気砲」・「空気砲」				
第12回：実験「電流・磁石の性質」				
第13回：実験「物の溶け方・水溶液の性質」				
第14回：実験「線香花火を作ろう」				
第15回：理科実験における事故の事例と留意点・指導例の考察				
定期試験				
テキスト：必要に応じて授業中に紹介				
参考書・参考資料等： 「小学校理科の観察，実験の手引き」文部科学省 「小学校学習指導要領解説　理科編」文部科学省				
学生に対する評価： 授業のリアクションペーパー（10％）、実習・実験レポート（50％）、定期試験（40％）				
履修上の注意・メッセージ：理科の授業において、「観察・実験」は必要不可欠です。この講義を通して、基本的な実験技術を身につけてもらいたい。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：佐藤 幸江
授業科目名： I C T活用演習 1		必修選択	2単位 (30時間)	形態：単独 / 演習
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	-			
授業の到達目標及びテーマ：				
ICT活用に対する幅広い教養を深め、校務や学習活動を想定し、教員が準備しておく教材等の作成や共有に生かせるスキルを身に付けることを目標とする。				
授業の概要：				
受講者自身が各種ICT機器を活用し、具体的事例を挙げながら体験的に課題解決を行う機会を積極的に設け、主体的に自身のスキル向上をめざせるようにする。				
授業計画：				
第1回：授業ガイダンス/学園の情報環境やデータの管理、使用に関する注意点の理解の促進を図る。				
第2回：教育の情報化とは/教育現場におけるクラウド利用について理解する。				
第3回：SNSの利用/SNSと情報モラルについての理解を深める。				
第4回：情報活用能力アップ計画/「情報活用能力スキル診断」、スキルをどう高めるか計画を立てる。				
第5回：情報の調べ方・整理の仕方/情報収集・整理の力の向上を図る。				
第6回：オンラインフォームの活用/アンケート調査の作り方の基本を理解し、できるようにする。				
第7回：表計算アプリの活用/表計算アプリを使って、手軽にデータ活用ができるようにする。				
第8回：文書作成アプリの活用/文書作成アプリの使い方の基本の理解を促進する。				
第9回：文書作成アプリの活用/文書作成アプリを使って、文書を作成することができるようにする。				
第10回：写真・動画のスキル向上/カメラアプリの多様な機能を知る。				
第11回：写真を使って情報発信/人に情報を伝えるために写真を活用することができる。				
第12回：情報発信力の向上/これまで学んだことを活用して、より伝わりやすい文書を作成する。				
第13回：生成AIの活用/生成AIにできること・できないことを理解する。				
第14回：レポート作成の準備/グループで「生成AI」に関してディスカッションする。				
第15回：レポートの作成/「課題設定—情報収集・整理分析—発信」のプロセスを体験する。				
定期試験				
テキスト：				
〔図解〕AI時代の教師が知っておきたいIT・情報リテラシー（株式会社インプレス）				
参考書・参考資料等：「教育の情報化に関する手引き」文部科学省				
「教育の情報化に関する手引き（追補版）」文部科学省				
学生に対する評価：				
レポートによる定期試験（50％），授業で作成した文書（30％），ディスカッションの様子（20％）				
履修上の注意・メッセージ：これからの学校教育現場において、ICTの活用ができることは教員の必須条件となります。ぜひ、自身のスキルアップに意欲的に取り組むことをおすすめします。				

養護科・1年		区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：酒井修子、田中正雄、他
授業科目名：教育インターンシップ1		自由選択	1単位(30時間)	形態：複数 / 実技
科 目	大学が独自に設定する科目			
科目に含めることが必要な事項	-			
授業の到達目標及びテーマ：学校現場における様々な職務内容に触れ、教職の補助的体験を通して、教員に求められる知識や技能を理解するとともに、実践的指導力の基礎を身に付ける。				
授業の概要：教育インターンシップ1では、以下のような内容が考えられる。 5. 運動会等の学校行事や宿泊体験学習引率等、比較的短期間のボランティア活動を通し、教育活動を進めることの重要性を認識し、その意義を理解する。 6. 週1回2～4時間程度学校現場に通い、授業補助や教科外の様々な活動を通して児童と直接関わり、学校の教育活動について理解を深める。 終了時に実践とリフレクションの内容をまとめ、報告会にて発表する。				
授業計画 第1回：オリエンテーション、インターンシップの進め方についてのガイダンス 第2回～第14回 研修場所でのインターンシップ実践（学校での授業観察、教育活動体験、学校行事ボランティア活動等）とリフレクション 第15回：インターンシップ報告会				
テキスト：特になし				
参考書・参考資料等：授業の中で適宜配布する				
学生に対する評価：ガイダンスおよび報告会（30％）、活動の記録（50％）、レポート（20％） なお、終了時に60時間の活動を証明する書類を提出すること。				
履修上の注意・メッセージ：履修にあたっては、事前に活動計画書を作成の上、担当教員と面談を行う。				